

令和 2 年度
男女共同参画社会に向けての
市民意識調査結果報告書

令和 2 年10月
入 間 市

I	調査概要	1
1.	調査目的	3
2.	調査設計	3
3.	調査項目	3
4.	回収状況	3
5.	標本誤差	4
6.	報告書の見方	4
7.	回答者の属性	5
II	調査結果	7
1.	男女平等に関する意識について	
(1)	「男は仕事、女は家庭」という考え方	9
(2)	男女の地位の平等感	12
(3)	あらゆる分野で平等になるために重要なこと	28
2.	家庭生活について	
(1)	家事等は誰が行うことが望ましいか	29
(2)	男性が家事等に参加するために必要なこと	35
3.	家庭生活と地域活動と仕事について	
(1)	生活に関する現在の状況と希望	37
(2)	女性が職業を持つこと	40
(3)	職場における男女の平等	43
(4)	働きたいと思ったときに気がかりなこと	61
(5)	育児・介護休業等の制度の活用	63
(6)	育児・介護休業等を取得しづらい理由	65
(7)	仕事と家庭を両立するために必要な条件	67
4.	社会参画について	
(1)	政策方針を決定する役職に女性が就くこと	69
(2)	政策方針を決定する場に占める女性の割合が低い理由	71
(3)	女性が政策方針を決定する場に進出するために必要なこと	73

目 次

5. 配偶者などに対する暴力について

- (1) 配偶者間で行われた場合に暴力にあたるか 75
- (2) 配偶者からの暴力被害経験の有無 85
- (3) 配偶者からの暴力に関する相談の有無 92
- (4) 相談できなかった理由 93
- (5) 配偶者間の暴力防止の取組み 94

6. 性的マイノリティについて

- (1) 性別の悩みの有無 95
- (2) 性的マイノリティやLGBTという言葉の認知度 96
- (3) 性的マイノリティの方々への人権施策等の必要性 97

7. 男女共同参画の推進に対する施策について

- (1) 男女共同参画社会実現のために力をいれていくべき施策 98
- (2) 男女共同参画に関する言葉の認知度 99

Ⅲ 調査票 101

I 調査概要

I 調査概要

1. 調査目的

この調査は、「第5次いるま男女共同参画プラン」策定のための基礎資料にするとともに、今後の取り組みに反映させていくことを目的とする。

2. 調査設計

- | | |
|----------|----------------------|
| (1) 調査地域 | 入間市全域 |
| (2) 調査対象 | 入間市在住の満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳による等間隔無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収 |
| (6) 調査期間 | 令和2年6月1日（月）～6月25日（木） |

3. 調査項目

- (1) 男女平等に関する意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 家庭生活と地域活動と仕事について
- (4) 社会参画について
- (5) 配偶者などに対する暴力について
- (6) 性的マイノリティについて
- (7) 男女共同参画の推進に対する施策について

4. 回収状況

- | | |
|-----------|--------|
| (1) 配布数 | 2,000件 |
| (2) 有効回収数 | 881件 |
| (3) 有効回収率 | 44.1% |

5. 標本誤差

今回の調査の回答結果から、調査対象となる母集団全体（入間市に住む満18歳以上の男女）の比率を推定するため、単純無作為抽出の場合の標本誤差の算出式と早見表を以下に示す。

統計学上の標本誤差は、①比率算出の基数（サンプル数）および②回答の比率（p）によって誤差幅が異なる。「ある設問の回答者数が881人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差範囲は、最高でも±3.30%である」というようにみる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N：母集団数（入間市に住む満18歳以上の男女）
n：回答サンプル数
p：サンプルの回答比率

〈標本誤差早見表〉

回答比率(P) サンプル数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
881	±2.02	±2.70	±3.09	±3.30	±3.37
700	±2.27	±3.02	±3.46	±3.70	±3.78
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77
100	±6.00	±8.00	±9.17	±9.80	±10.00

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出。この表の計算式の信頼度は95%である。

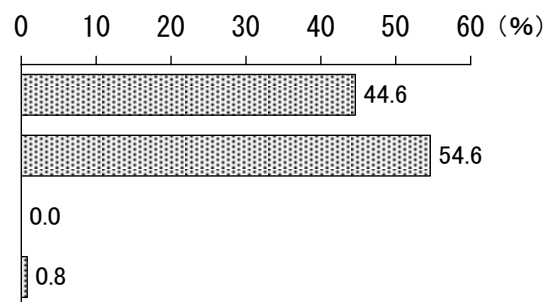
6. 報告書の見方

- （1）図中のnとは、回答者総数のことである。
- （2）割合比はnを100.0%として算出し、小数点以下第二位を四捨五入したため合計が100.0%にならない場合がある。
- （3）回答が2つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- （4）属性別（クロス集計）の記述では、原則として全体の集計結果と比較し、特徴または傾向が見られるものをコメントの対象とした。ただし、件数が20以下の項目については特徴または傾向が見られる場合でも本文中では原則としてふれていない。
- （5）「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて『肯定派（計）』とする場合など、2つの選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の比率の単純合計である。
- （6）グラフ中の比率が0.0%については、値を表記していない場合がある。

7. 回答者の属性

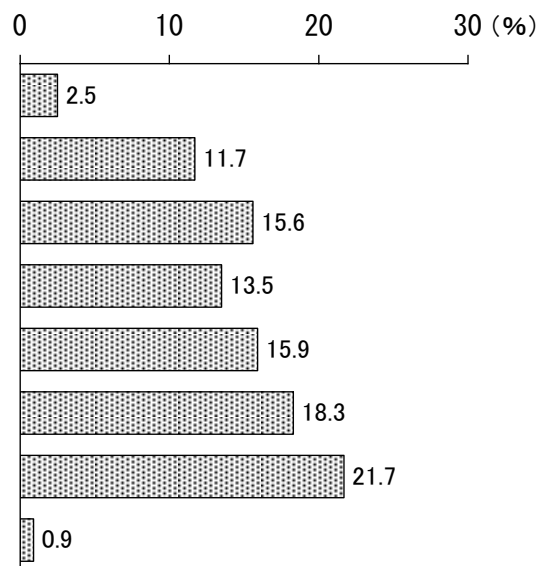
(1) 性別

	基数	構成比
男性	393	44.6%
女性	481	54.6
その他	0	0.0
無回答	7	0.8
合 計	881	100.0



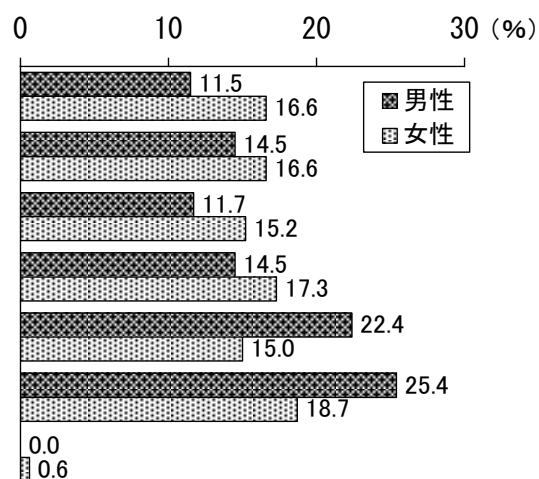
(2) 年齢

	基数	構成比
18～19歳	22	2.5%
20～29歳	103	11.7
30～39歳	137	15.6
40～49歳	119	13.5
50～59歳	140	15.9
60～69歳	161	18.3
70歳以上	191	21.7
無回答	8	0.9
合 計	881	100.0



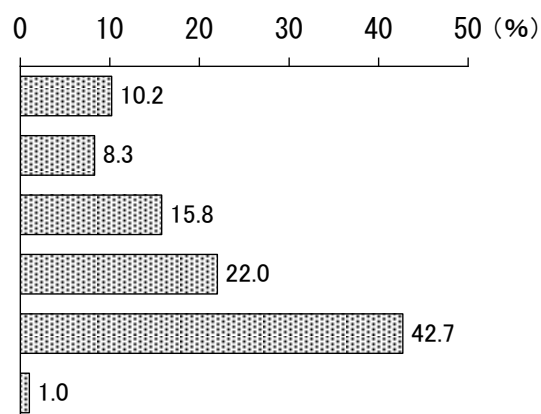
(2-1) 性・年齢別

	男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比
18～29歳	45	11.5%	80	16.6%
30～39歳	57	14.5	80	16.6
40～49歳	46	11.7	73	15.2
50～59歳	57	14.5	83	17.3
60～69歳	88	22.4	72	15.0
70歳以上	100	25.4	90	18.7
年齢無回答	0	0.0	3	0.6
合 計	393	100.0	481	100.0



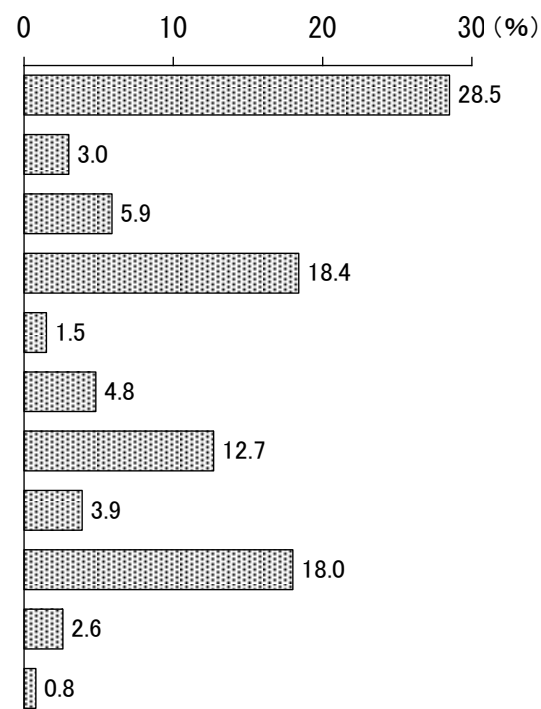
(3) 居住年数

	基数	構成比
5年未満	90	10.2%
5～10年未満	73	8.3
10～20年未満	139	15.8
20～30年未満	194	22.0
30年以上	376	42.7
無回答	9	1.0
合 計	881	100.0



(4) 職業

	基数	構成比
会社員・団体職員	251	28.5%
会社役員・団体役員	26	3.0
自由業・自営業	52	5.9
パート・アルバイト	162	18.4
派遣社員	13	1.5
公務員・教員	42	4.8
家事専業	112	12.7
学生	34	3.9
無職	159	18.0
その他	23	2.6
無回答	7	0.8
合 計	881	100.0

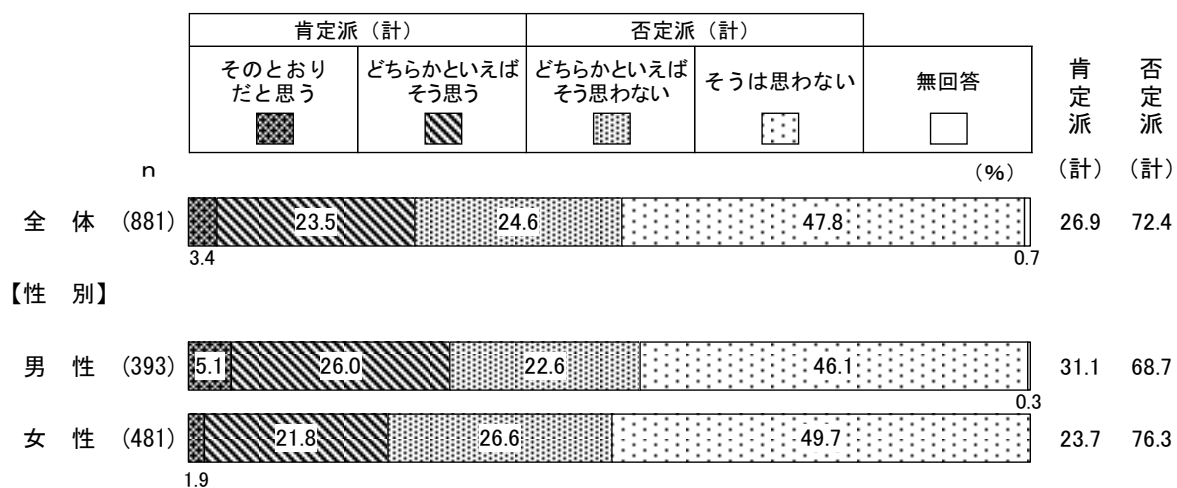


Ⅱ 調査結果

1. 男女平等に関する意識について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

問1 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方を、どのように思いますか。
(回答は、1つだけ)



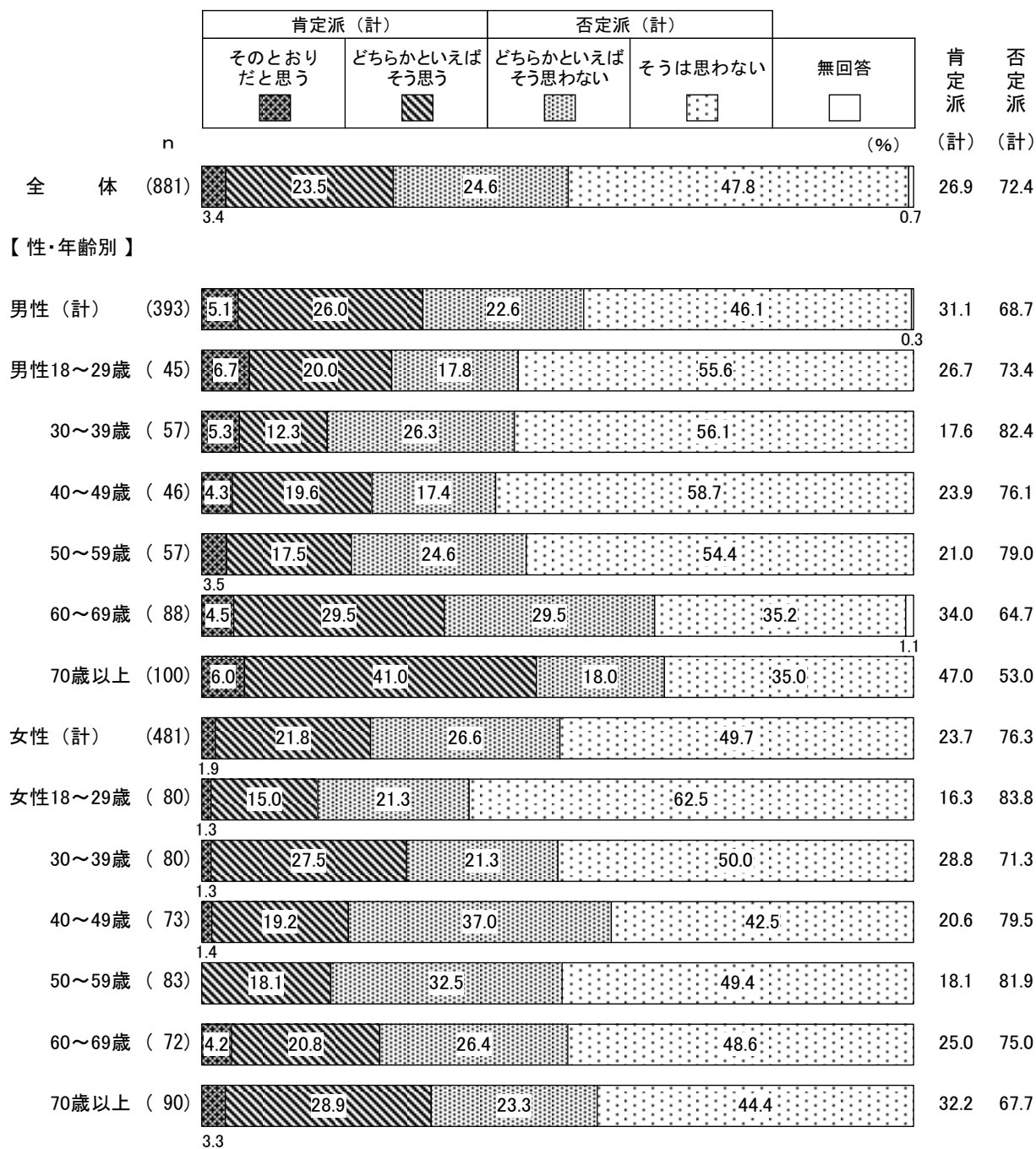
<全体／性別>

「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方について聞いたところ、全体では、「そのとおりだと思」(3.4%)と「どちらかといえばそう思う」(23.5%)を合わせた『肯定派 (計)』は26.9%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(24.6%)と「そうは思わない」(47.8%)を合わせた『否定派 (計)』は72.4%となっている。

性別でみると、『肯定派 (計)』は男性 (31.1%) が女性 (23.7%) より7.4ポイント高くなっている。一方、『否定派 (計)』は女性 (76.3%) が男性 (68.7%) より7.6ポイント高くなっている。

<性・年齢別>

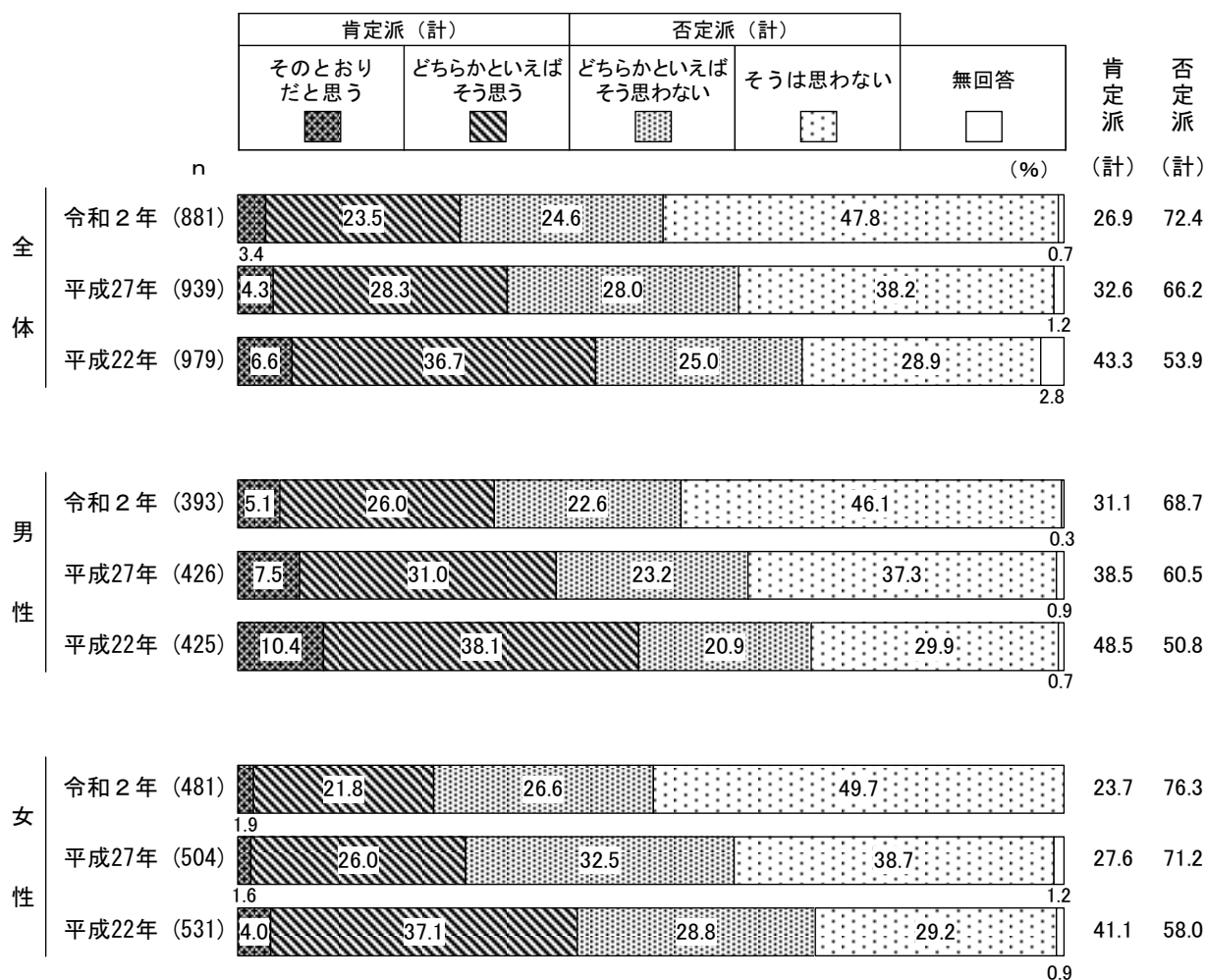
性・年齢別でみると、『肯定派（計）』は男性70歳以上で47.0%と高くなっている。一方、『否定派（計）』は女性18～29歳で83.8%、男性30～39歳で82.4%、女性50～59歳で81.9%と高くなっている。



<経年比較>

過年度調査と比較すると、全体では、『否定派（計）』が平成22年以降増加傾向にあり、平成27年より6.2ポイント増加している。

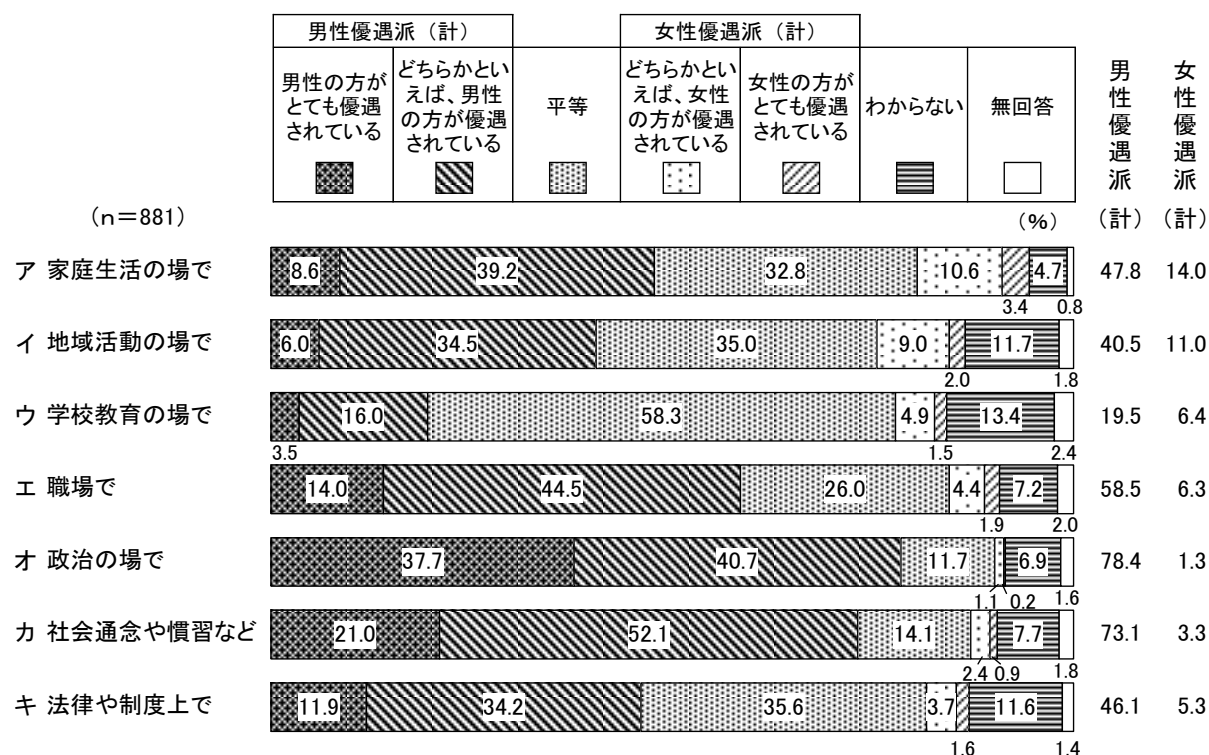
『否定派（計）』が男性では平成27年より8.2ポイント、女性では平成27年より5.1ポイント、それぞれ増加している。



(2) 男女の地位の平等感

問2 次にあげる分野で男女の地位はどうなっていると思いますか。

(回答は、アからキのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)



<全体>

男女の地位はどうなっていると思うかを、7分野について聞いたところ、全体では、「男性の方がとても優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇派 (計)』は“政治の場で”が78.4%で最も高く、次いで“社会通念や慣習など”(73.1%)、“職場で”(58.5%)となっている。

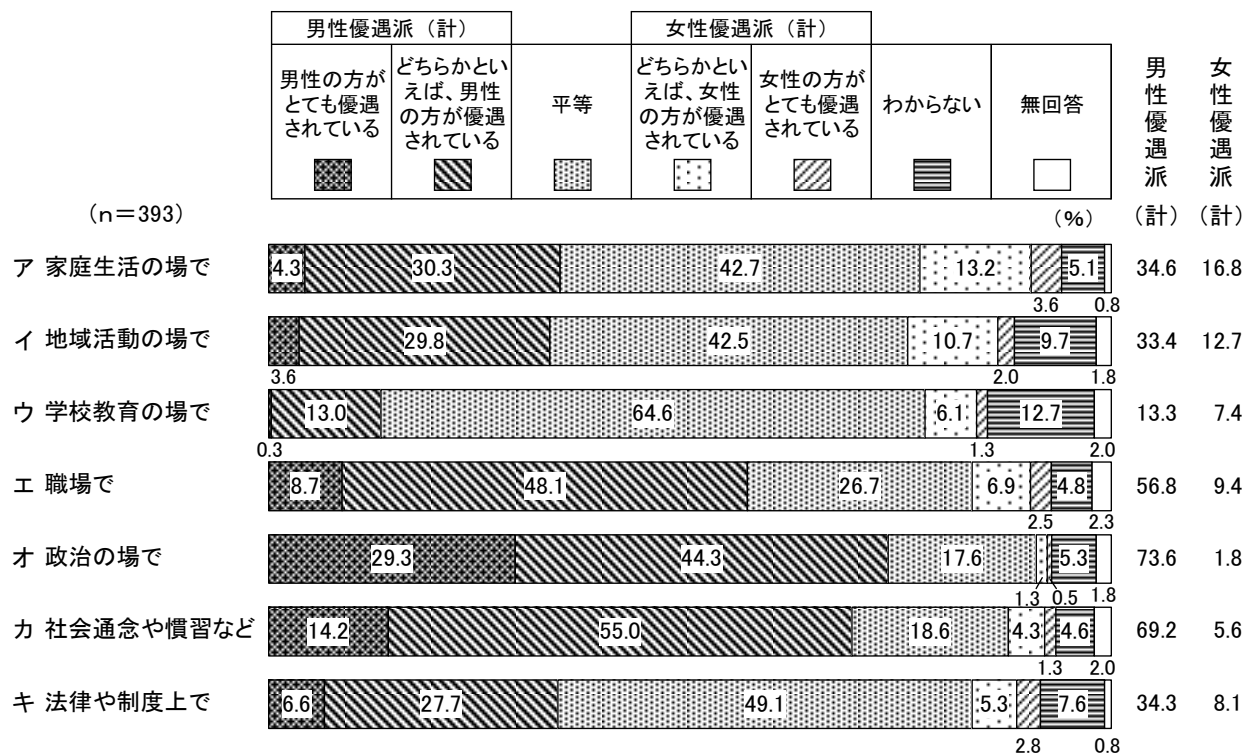
男性優先派と女性優先派を比べると全ての項目で男性優先派が女性優先派を上回っているが、その中でも女性優先派 (計) が高い割合は、“家庭生活の場で”が14.0%で最も高く、次いで“地域活動の場で”(11.0%)となっている。

また、「平等」は“学校教育の場で”が58.3%で最も高く、次いで“法律や制度上で”(35.6%)、“地域活動の場で”(35.0%)となっている。

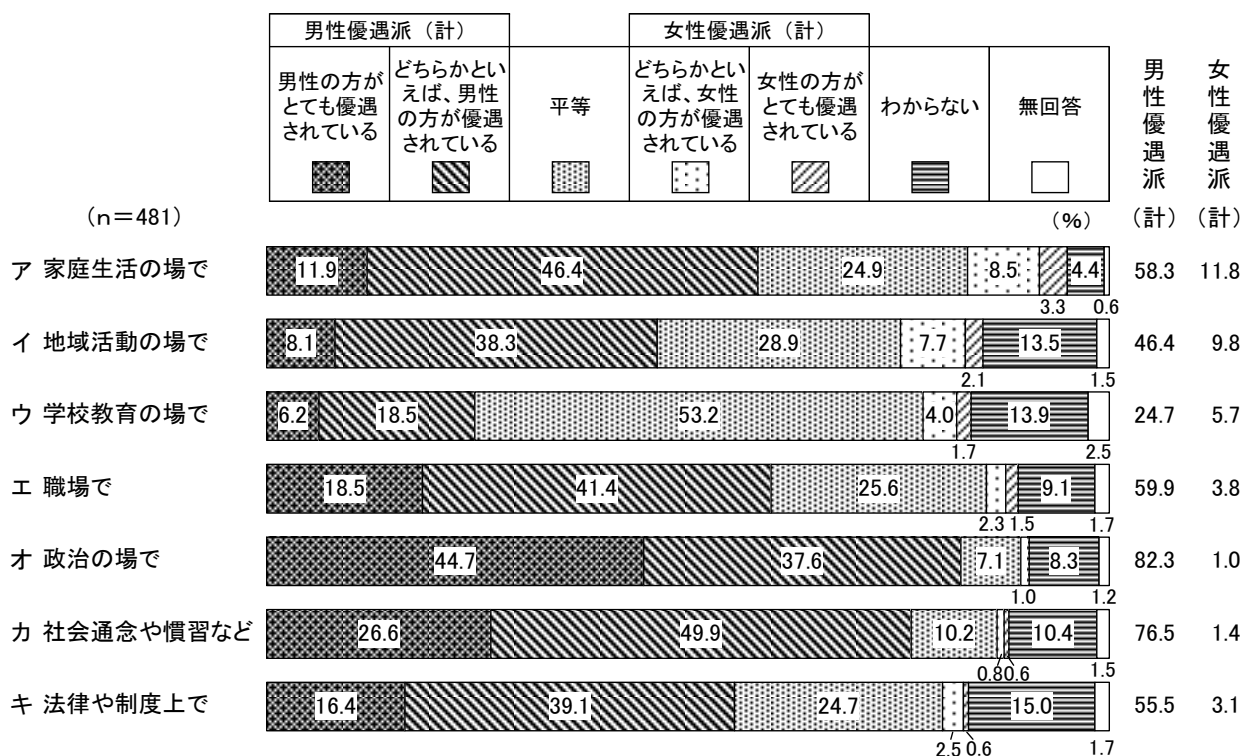
<性別>

性別でみると、『男性優遇派（計）』はすべての項目で女性が男性より高くなっており、特に“家庭生活の場で”では女性（58.3%）が男性（34.6%）より23.7ポイント、“法律や制度上で”では女性（55.5%）が男性（34.3%）より21.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「平等」と『女性優遇派（計）』では、ともにすべての項目で男性が女性より高くなっている。

【男性】

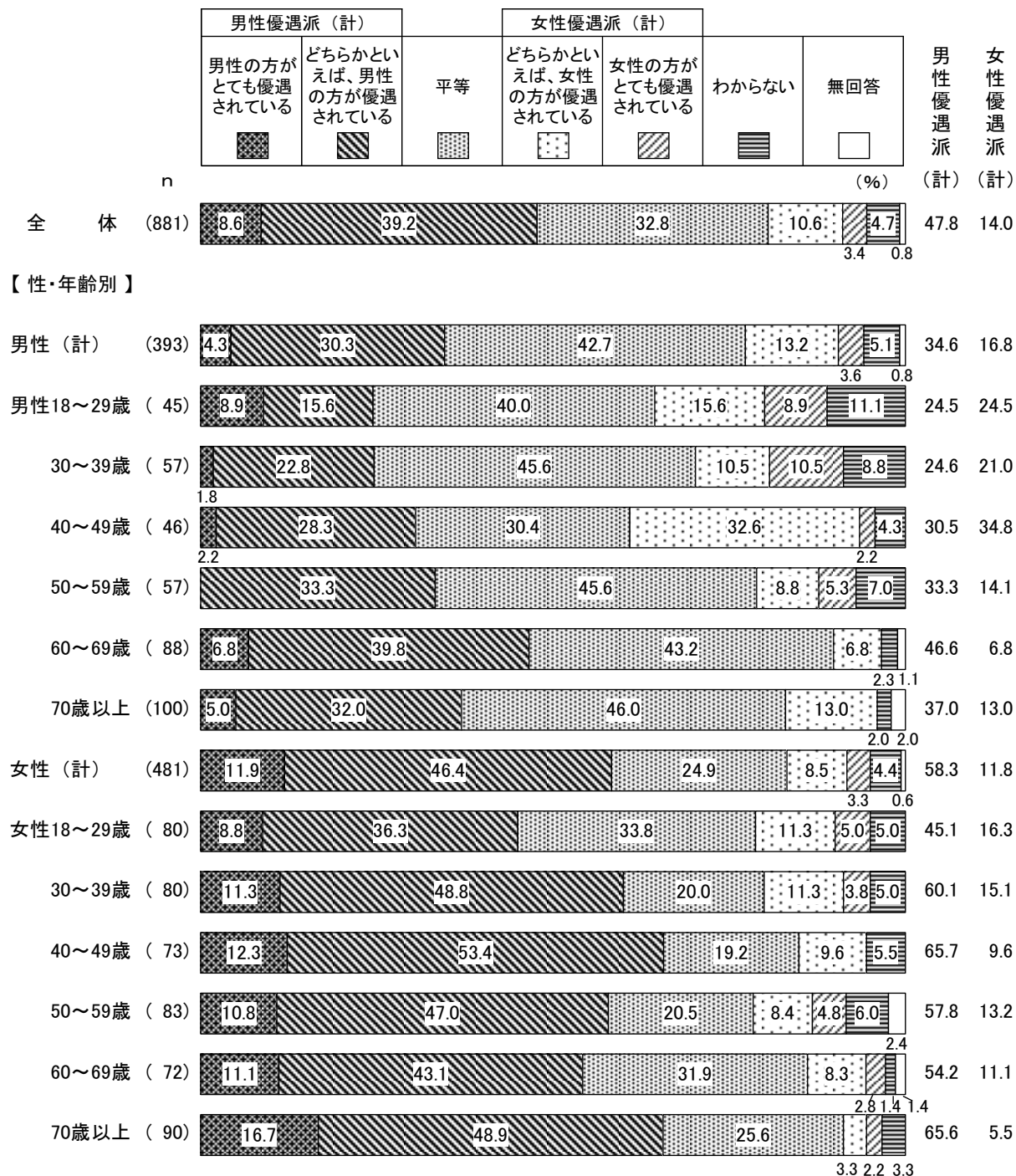


【女性】



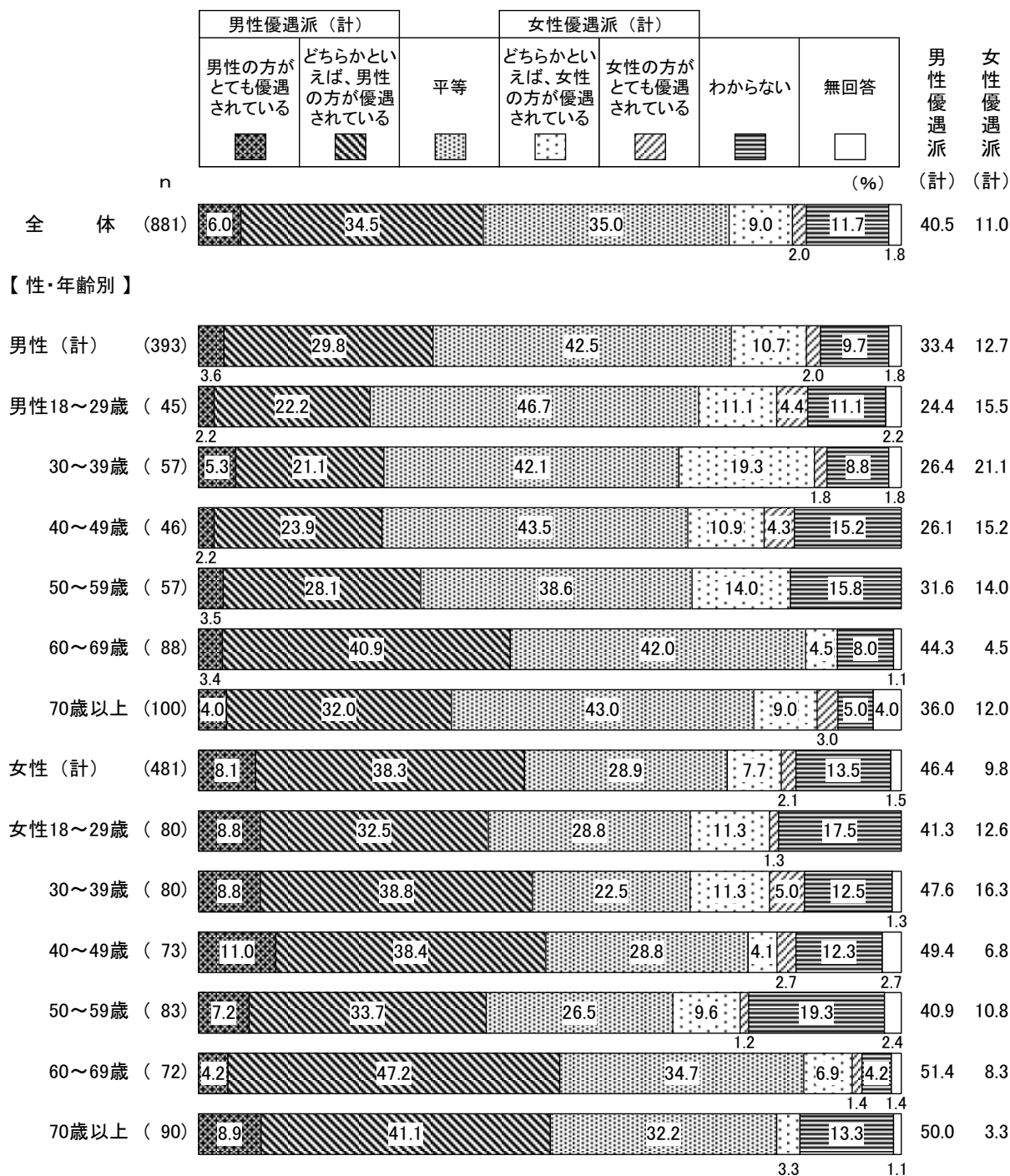
<性・年齢別> ア 家庭生活の場で

「家庭生活の場で」について性・年齢別でみると、『男性優遇派（計）』は女性40～49歳で65.7%、女性70歳以上で65.6%、女性30～39歳で60.1%と高くなっている。一方、『女性優遇派（計）』は男性40～49歳で34.8%と高くなっている。また、「平等」は男性70歳以上で46.0%、男性30～39歳と男性50～59歳でともに45.6%と高くなっている。



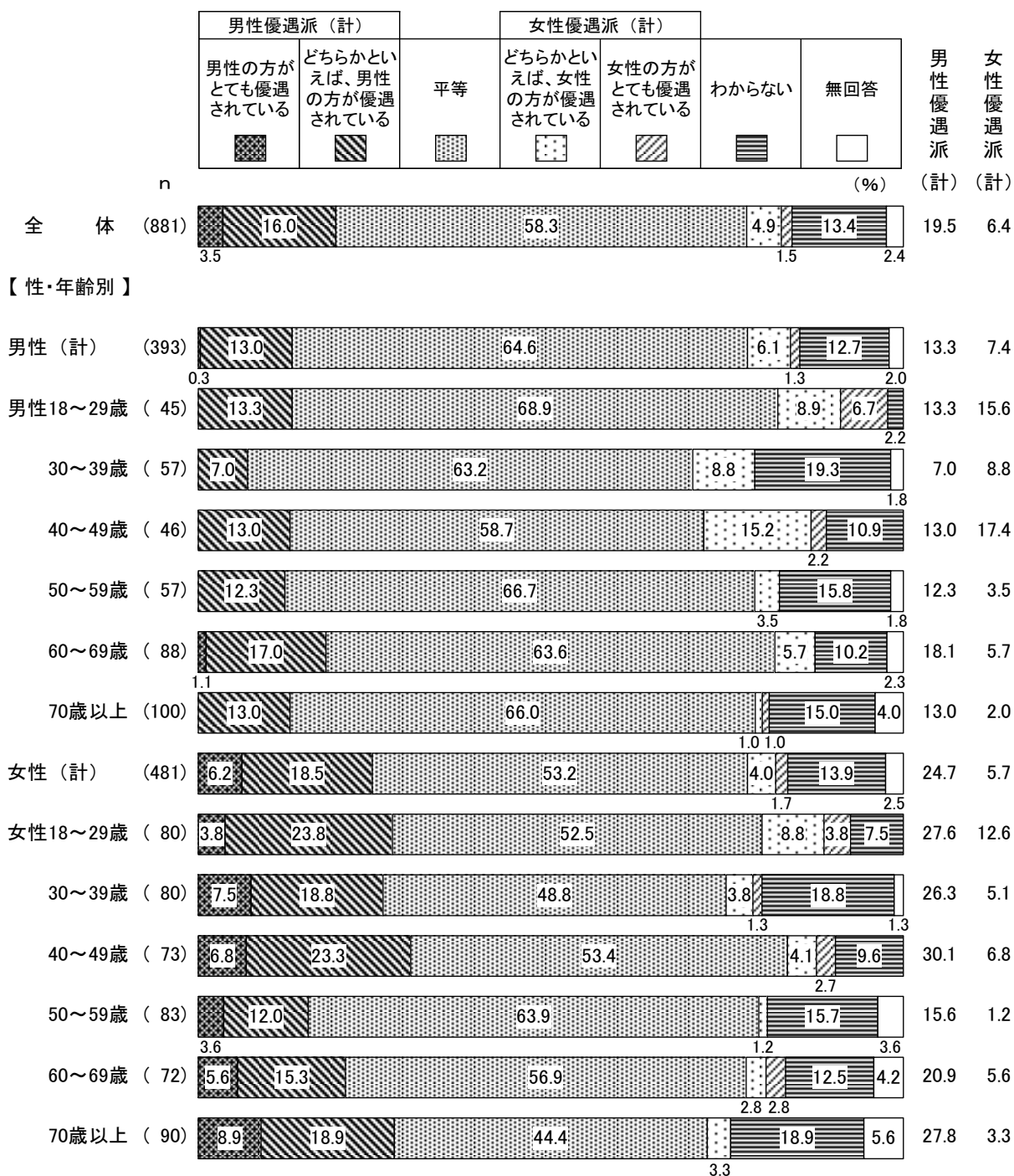
<性・年齢別> イ 地域活動の場で

「地域活動の場で」について性・年齢別でみると、『男性優遇派（計）』は女性60～69歳で51.4%、女性70歳以上で50.0%、女性40～49歳で49.4%と高くなっている。一方、『女性優遇派（計）』は男性30～39歳で21.1%と高くなっている。また、「平等」は男性18～29歳で46.7%と高くなっている。



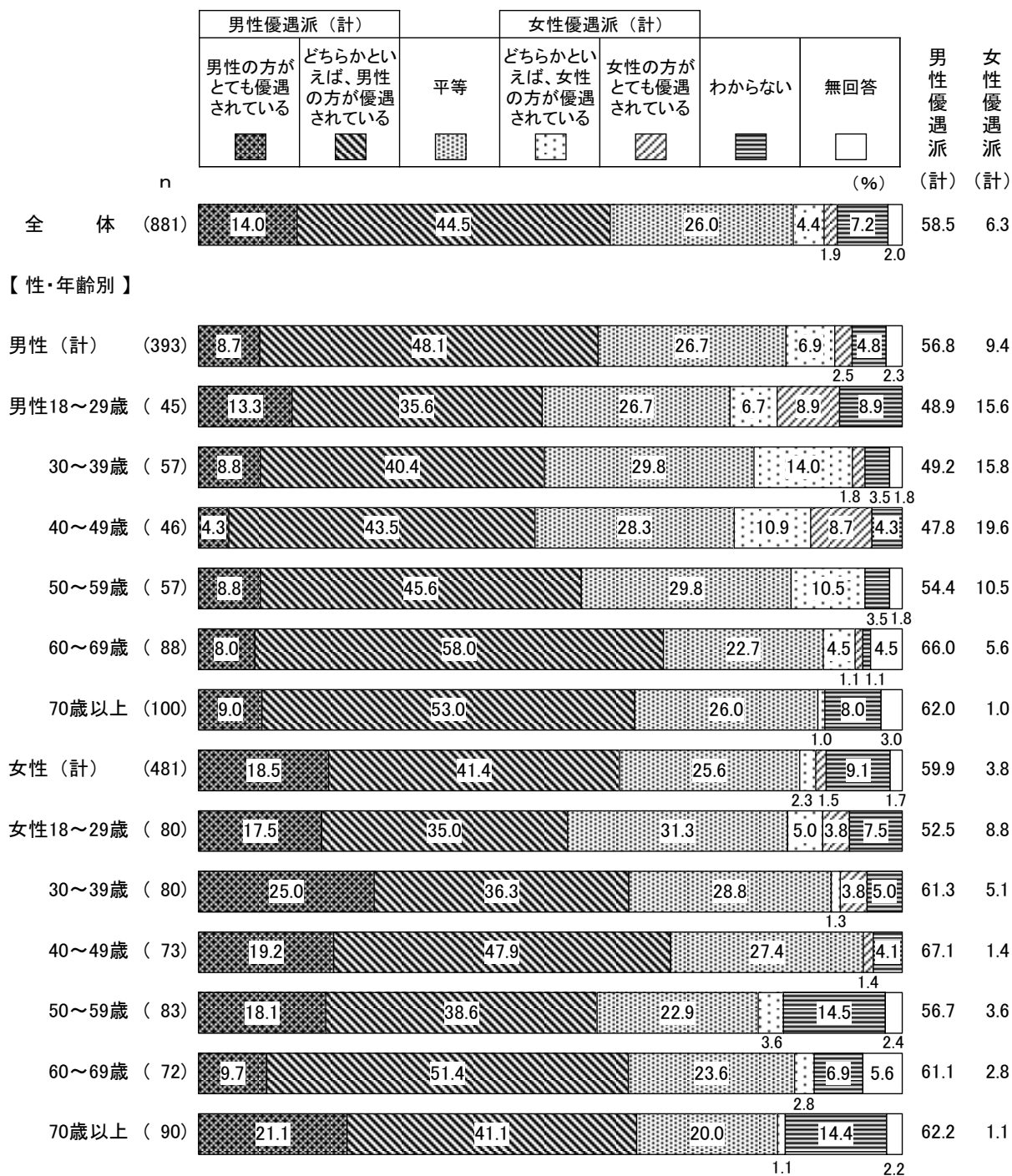
<性・年齢別> ウ 学校教育の場で

「学校教育の場で」について性・年齢別でみると、『男性優遇派（計）』は女性40～49歳で30.1%と高くなっている。また、「平等」は男性18～29歳で68.9%、男性50～59歳で66.7%、男性70歳以上で66.0%と高くなっている。



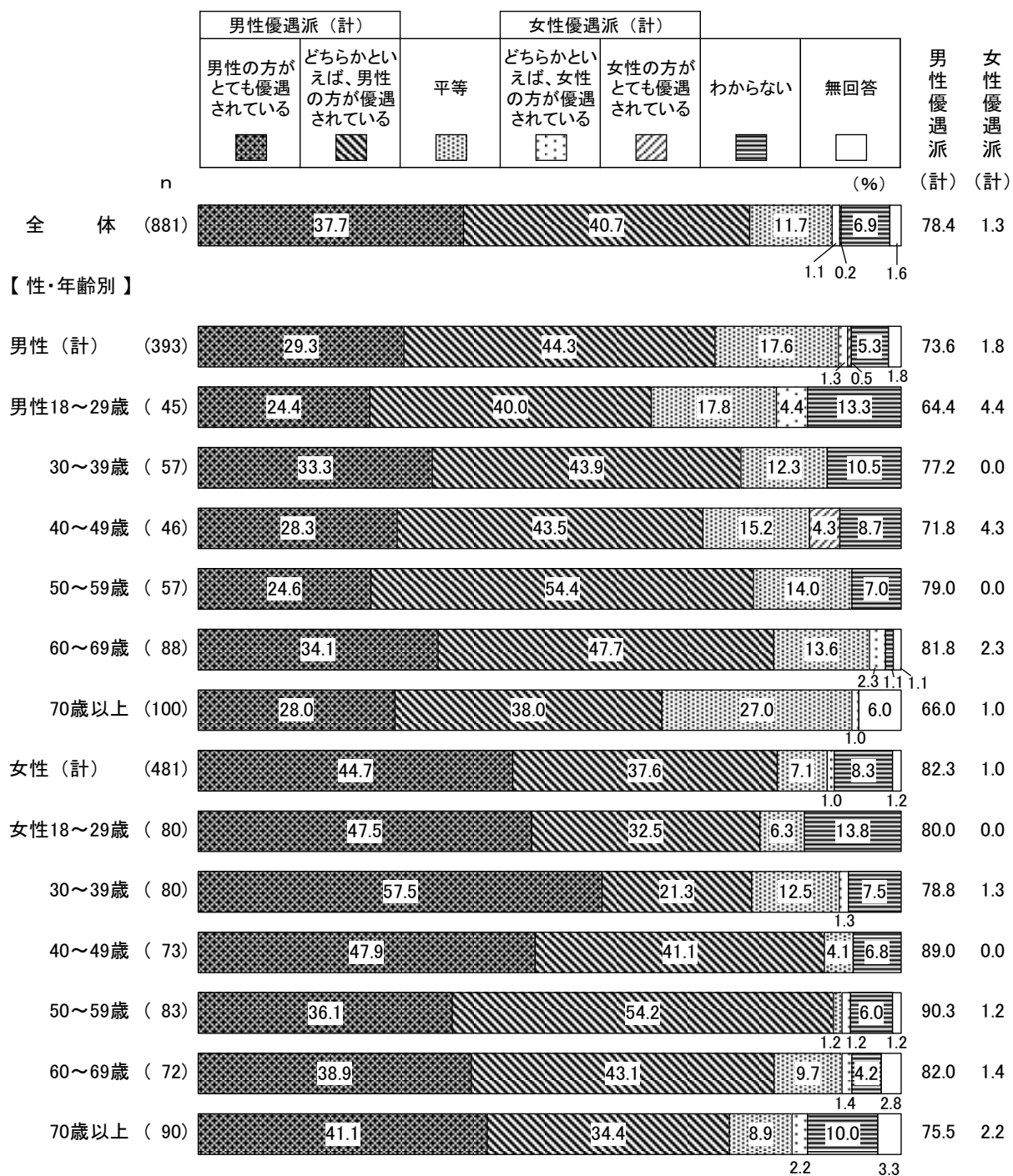
<性・年齢別> エ 職場で

「職場で」について性・年齢別でみると、『男性優遇派（計）』は女性40～49歳で67.1%、男性60～69歳で66.0%と高くなっている。一方、『女性優遇派（計）』は男性40～49歳で19.6%となっている。また、「平等」は女性18～29歳で31.3%と高くなっている。



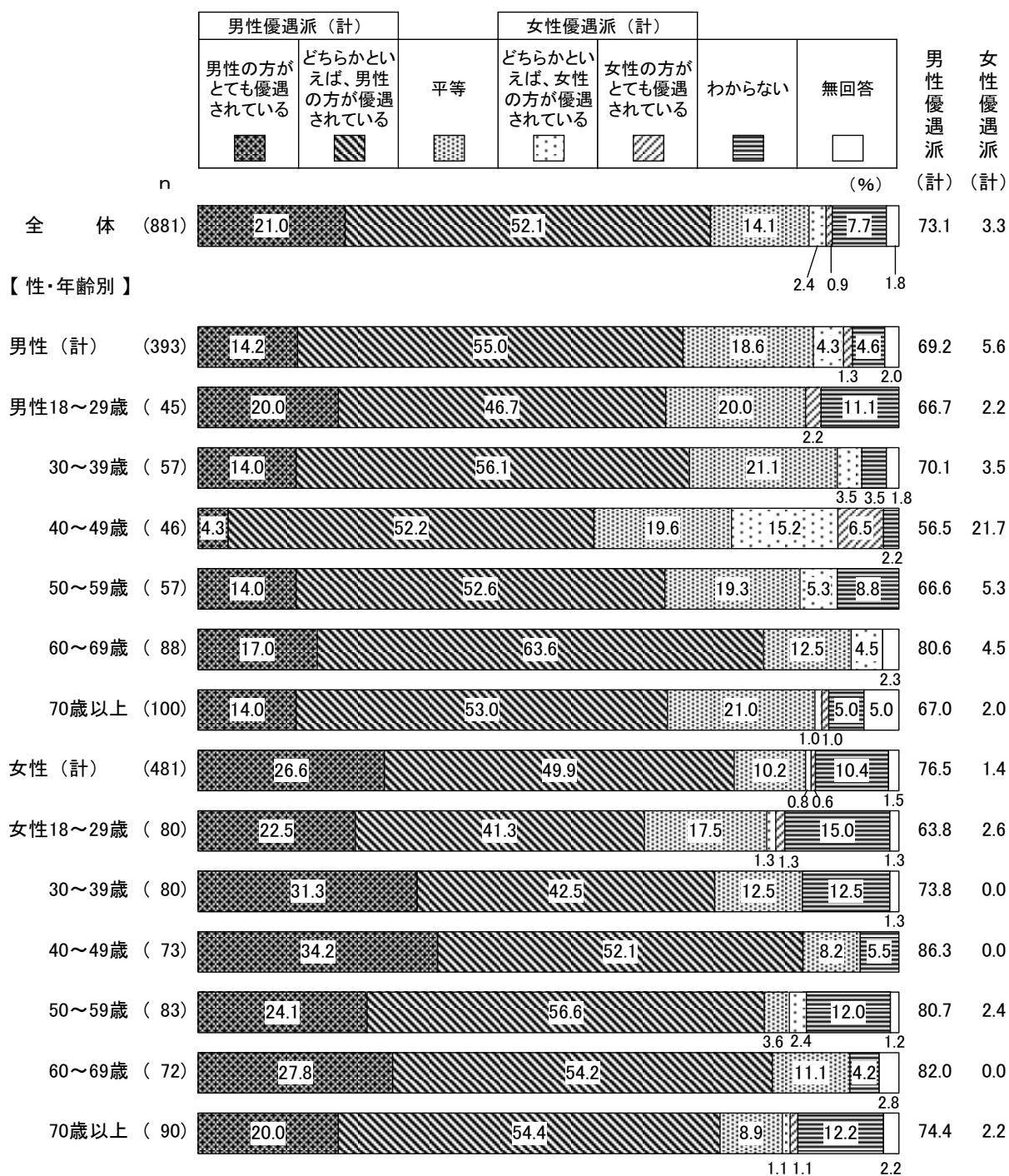
<性・年齢別> オ 政治の場で

「政治の場で」について性・年齢別でみると、『男性優遇派（計）』は女性50～59歳で90.3%、女性40～49歳で89.0%と高くなっている。また、「平等」は男性70歳以上で27.0%と高くなっている。



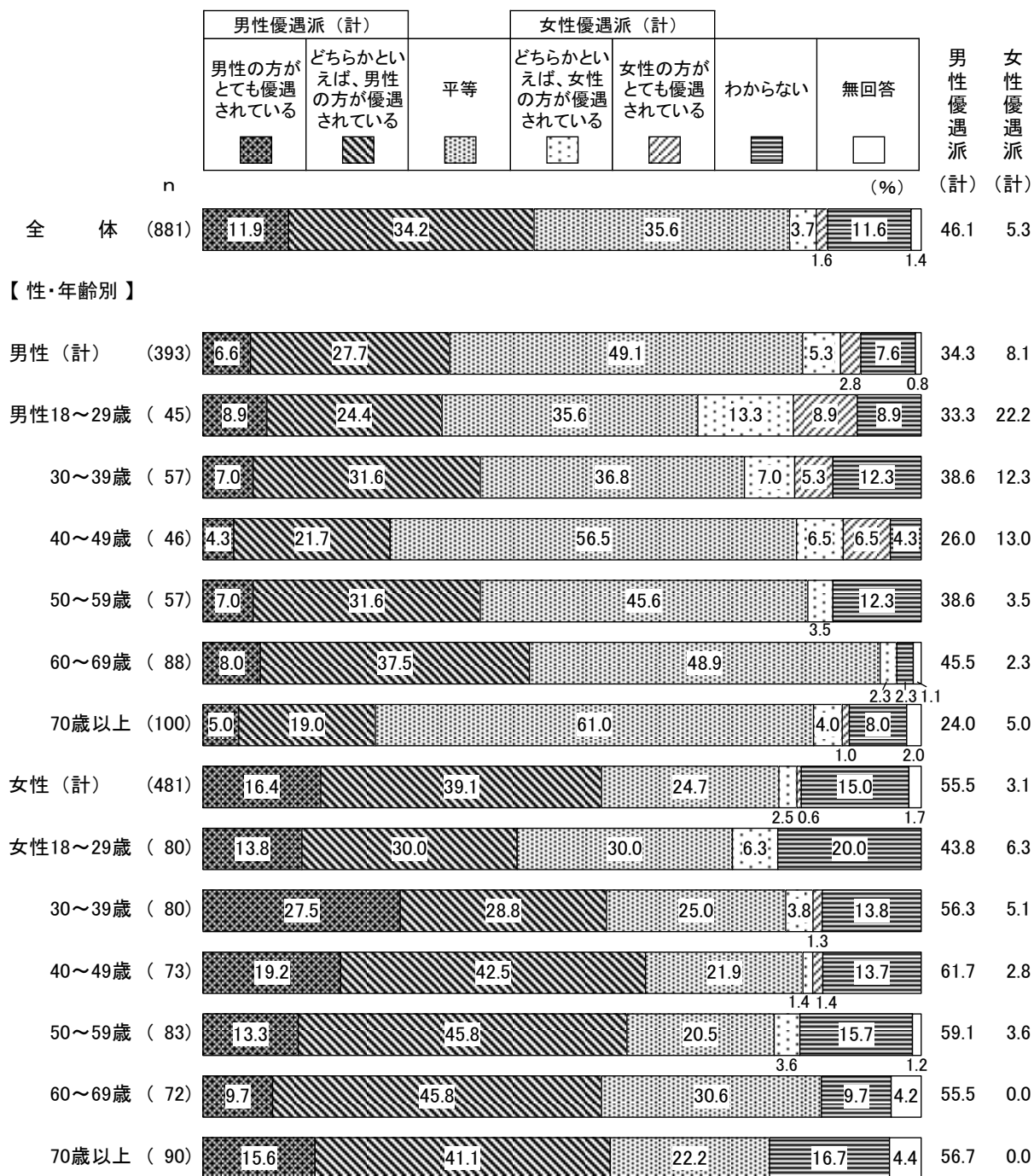
<性・年齢別> カ 社会通念や慣習など

「社会通念や慣習など」について性・年齢別でみると、『男性優遇派(計)』は女性40～49歳で86.3%と高くなっている。一方、『女性優遇派(計)』は男性40～49歳で21.7%と高くなっている。また、「平等」は男性30～39歳で21.1%、男性70歳以上で21.0%と高くなっている。



<性・年齢別> キ 法律や制度上で

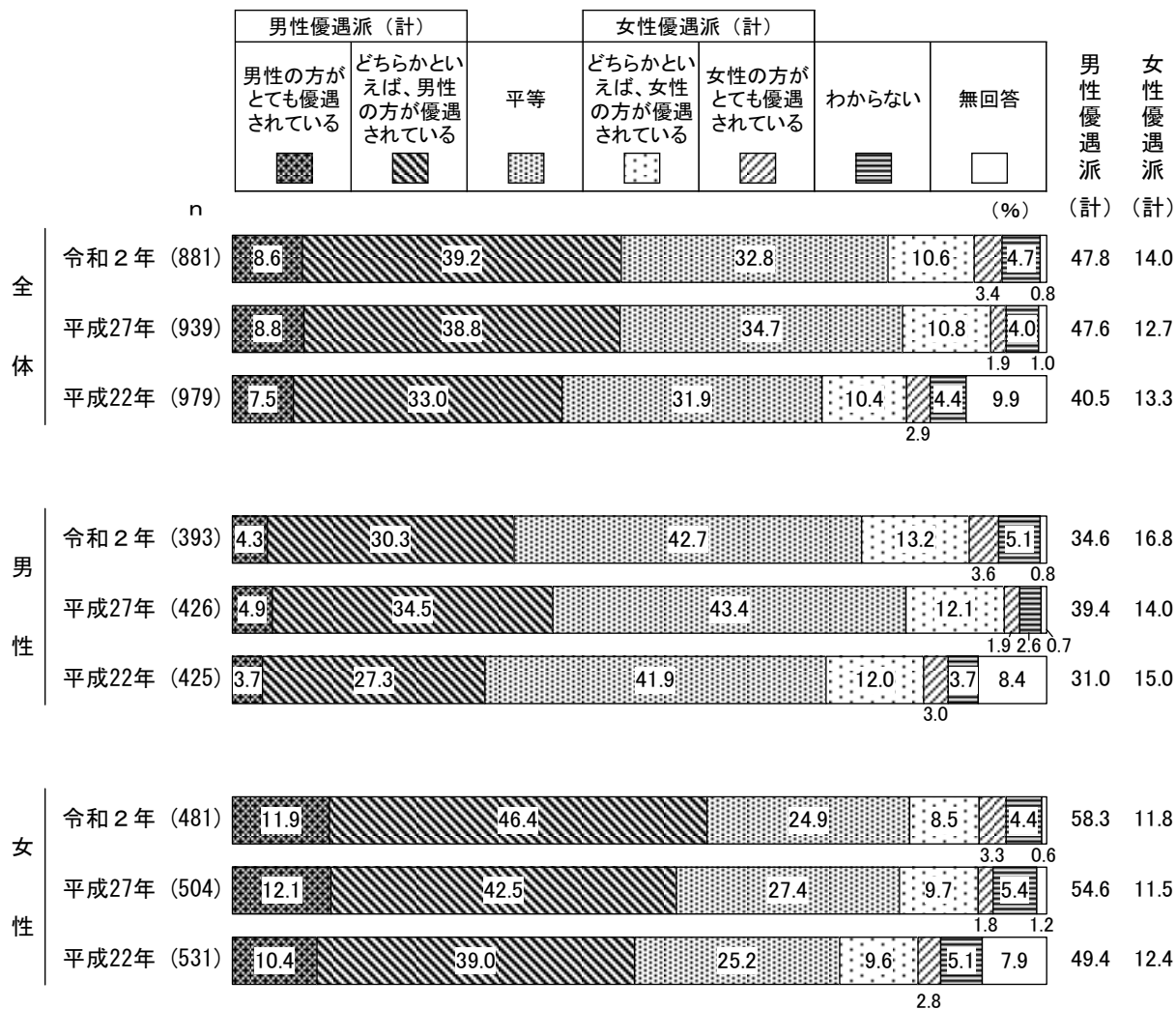
「法律や制度上で」について性・年齢別でみると、『男性優遇派（計）』は女性40～49歳で61.7%、女性50～59歳で59.1%と高くなっている。一方、『女性優遇派（計）』は男性18～29歳で22.2%と高くなっている。また、「平等」は男性70歳以上で61.0%、男性40～49歳で56.5%と高くなっている。



＜経年比較＞ ア 家庭生活の場で

「家庭生活の場で」について過年度調査と比較すると、全体では、『男性優遇派（計）』が平成22年以降増加傾向にある。

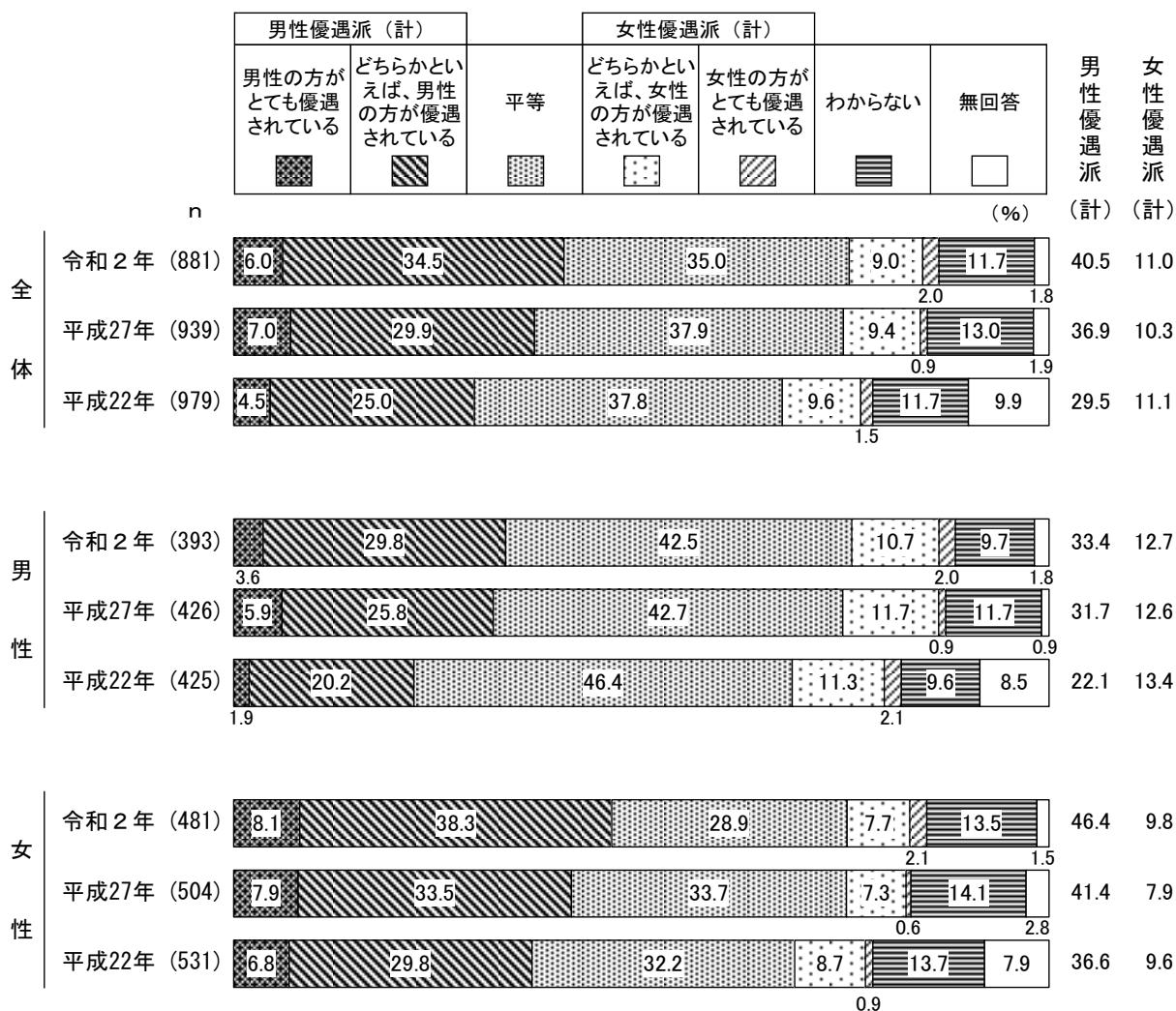
『男性優遇派（計）』が男性では平成27年より4.8ポイント減少し、女性では平成27年より3.7ポイント増加している。



＜経年比較＞ イ 地域活動の場で

「地域活動の場で」について過年度調査と比較すると、全体では、『男性優遇派（計）』が平成22年以降増加傾向にあり、平成27年より3.6ポイント増加している。

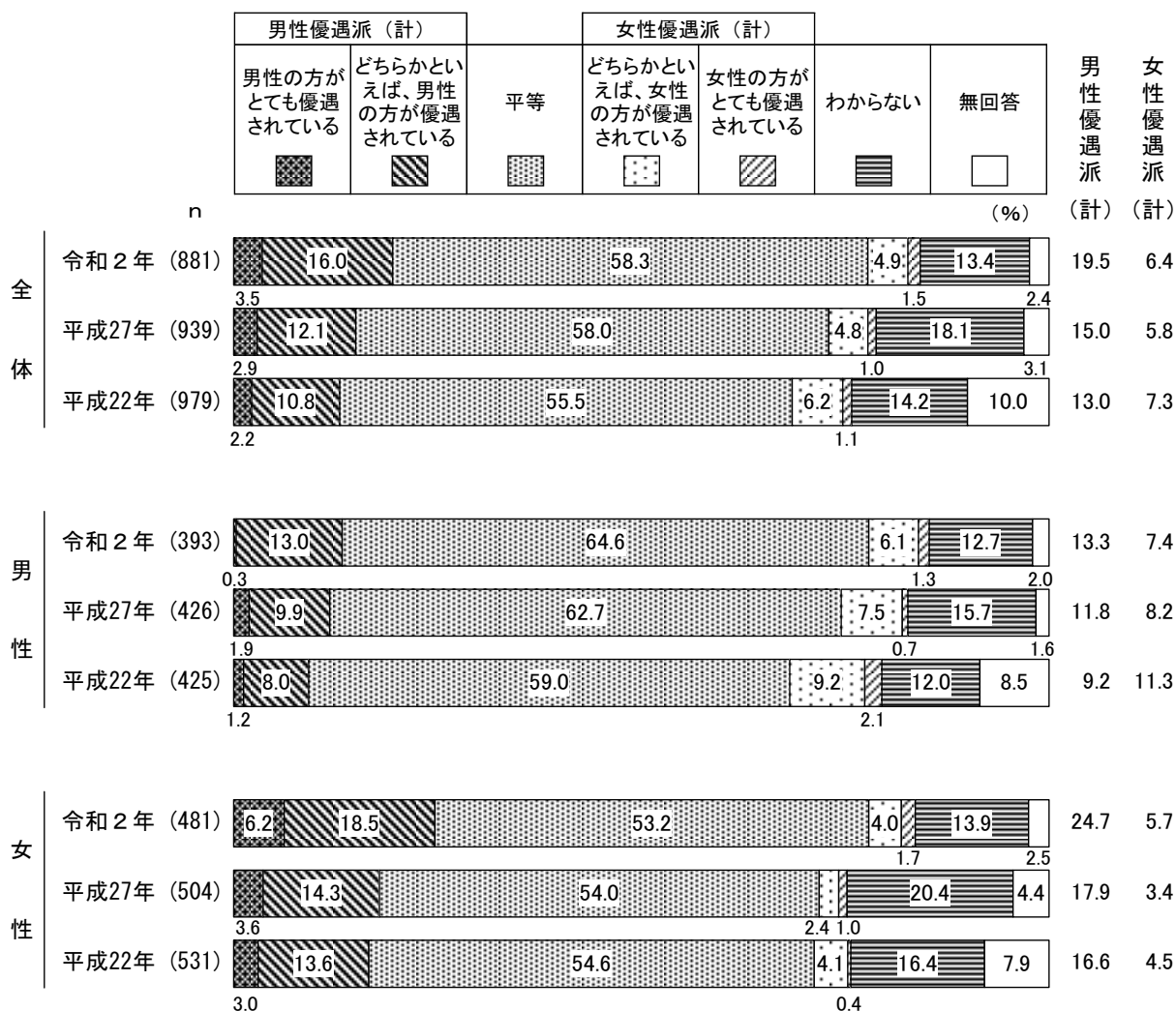
男性では平成27年と比べて大きな傾向の違いはみられない。女性では『男性優遇派（計）』が平成27年より5.0ポイント増加し、「平等」が平成27年より4.8ポイント減少している。



<経年比較> ウ 学校教育の場で

「学校教育の場で」について過年度調査と比較すると、全体では、『男性優遇派（計）』が平成22年以降増加傾向にあり、平成27年より4.5ポイント増加している。

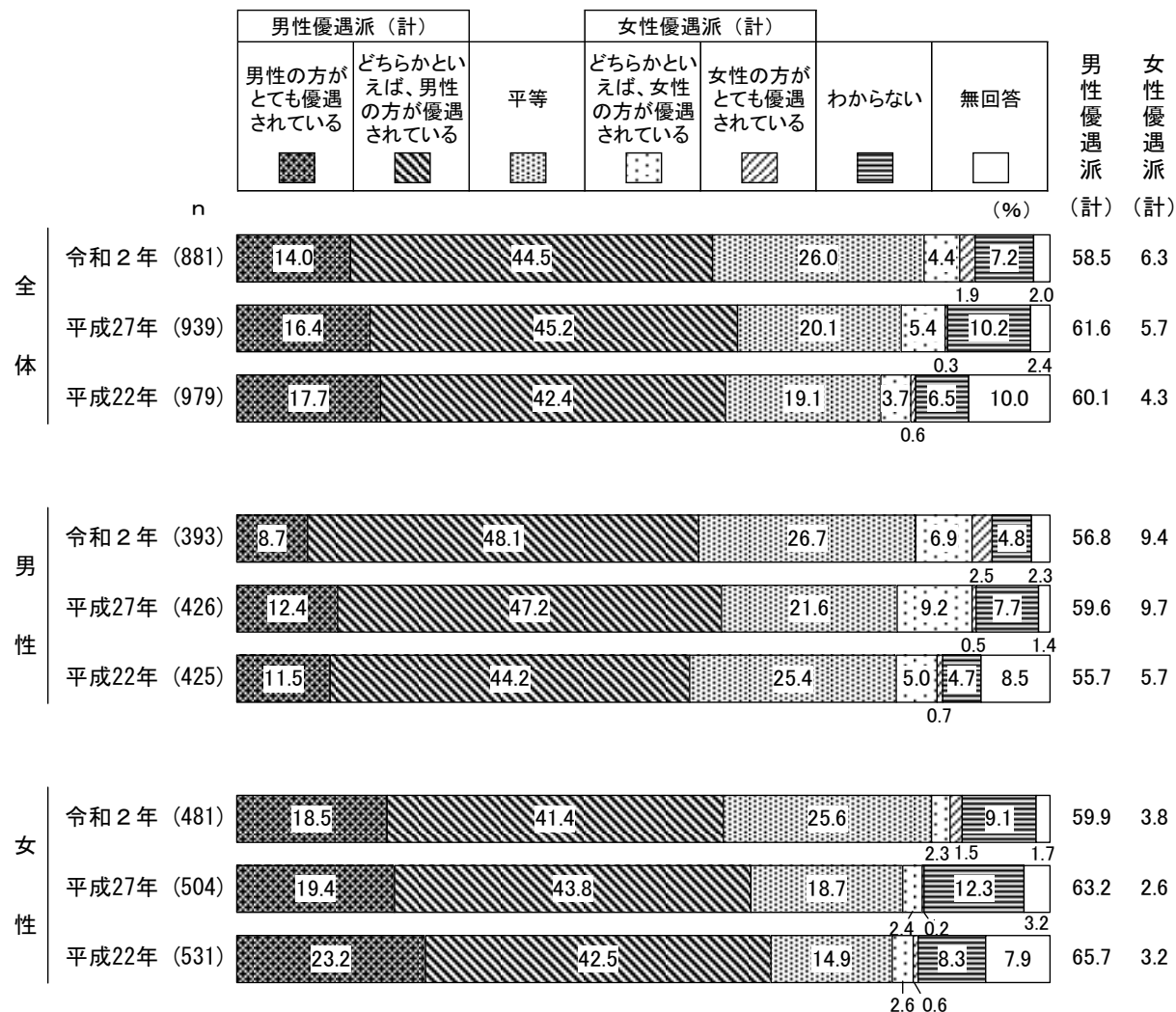
男性では平成27年と比べて大きな傾向の違いはみられない。女性では『男性優遇派（計）』が平成27年より6.8ポイント増加している。



＜経年比較＞ エ 職場で

「職場で」について過年度調査と比較すると、全体では、「平等」が平成22年以降増加傾向にあり、平成27年より5.9ポイント増加している。

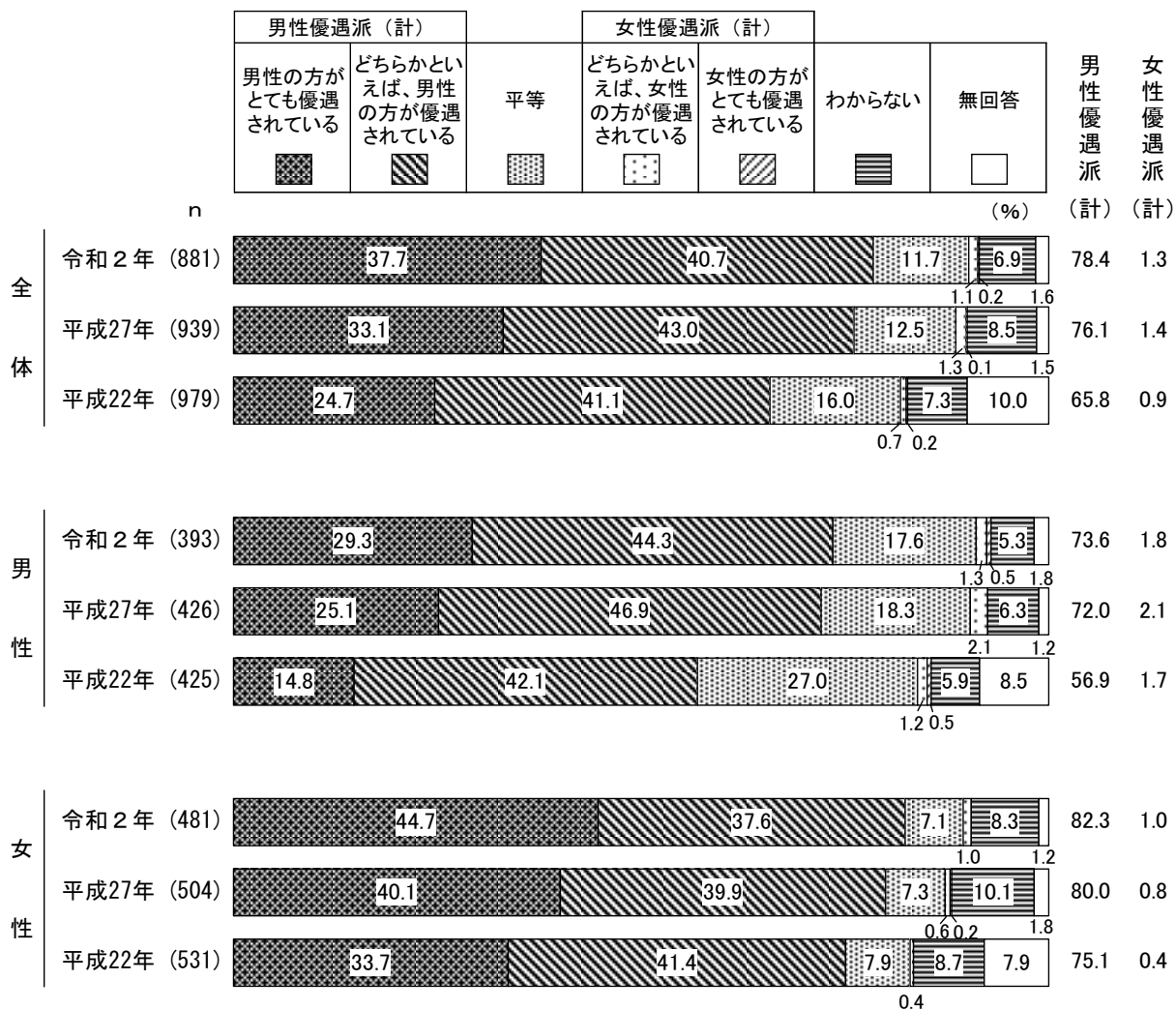
「平等」が男性では平成27年より5.1ポイント、女性では平成27年より6.9ポイント、それぞれ増加している。



<経年比較> オ 政治の場で

「政治の場で」について過年度調査と比較すると、全体では、『男性優遇派（計）』が平成22年以降増加傾向にある。

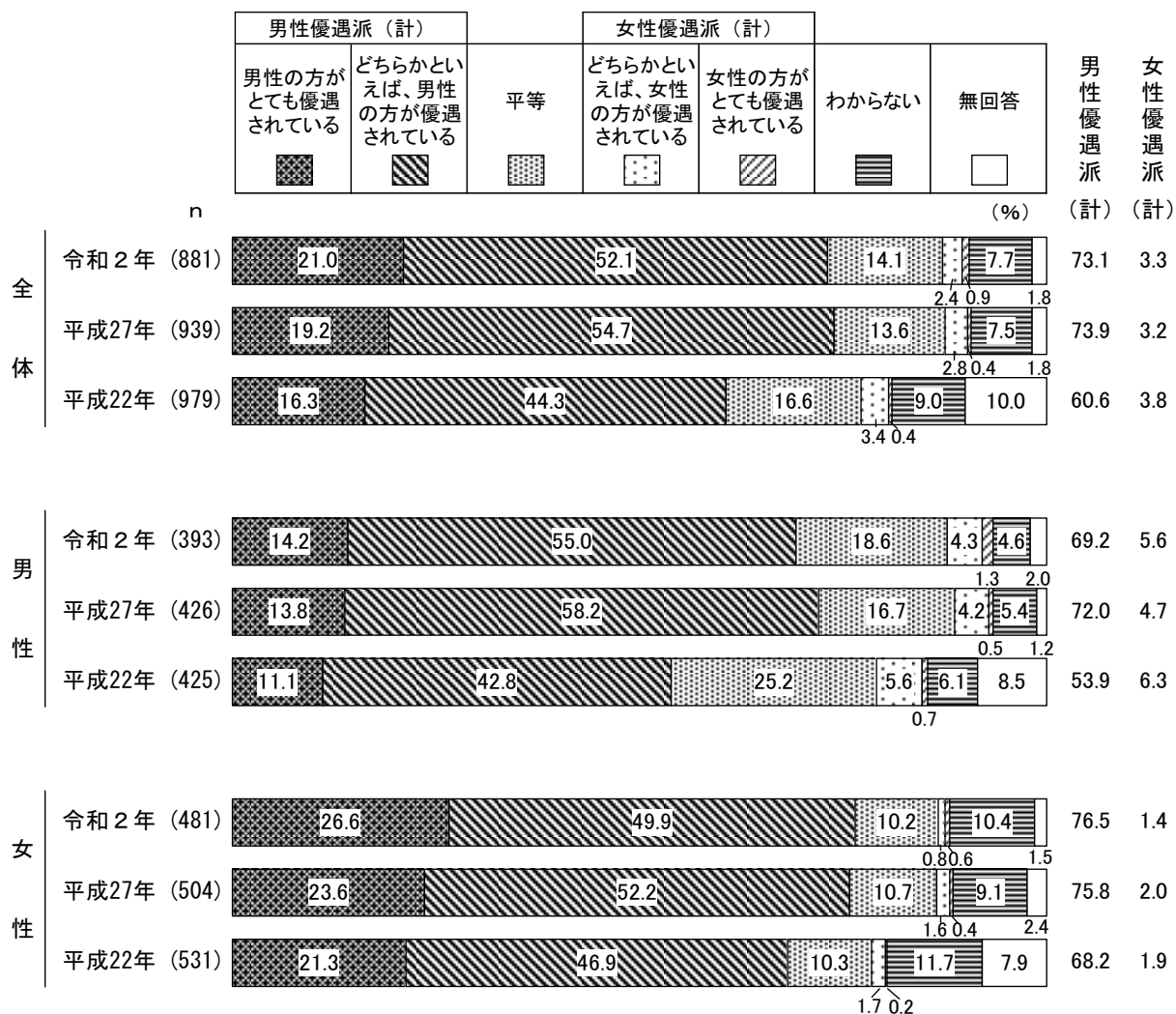
男女別では平成27年と比べて大きな傾向の違いはみられない。



<経年比較> カ 社会通念や慣習など

「社会通念や慣習など」について過年度調査と比較すると、全体では平成27年と比べて大きな傾向の違いはみられない。

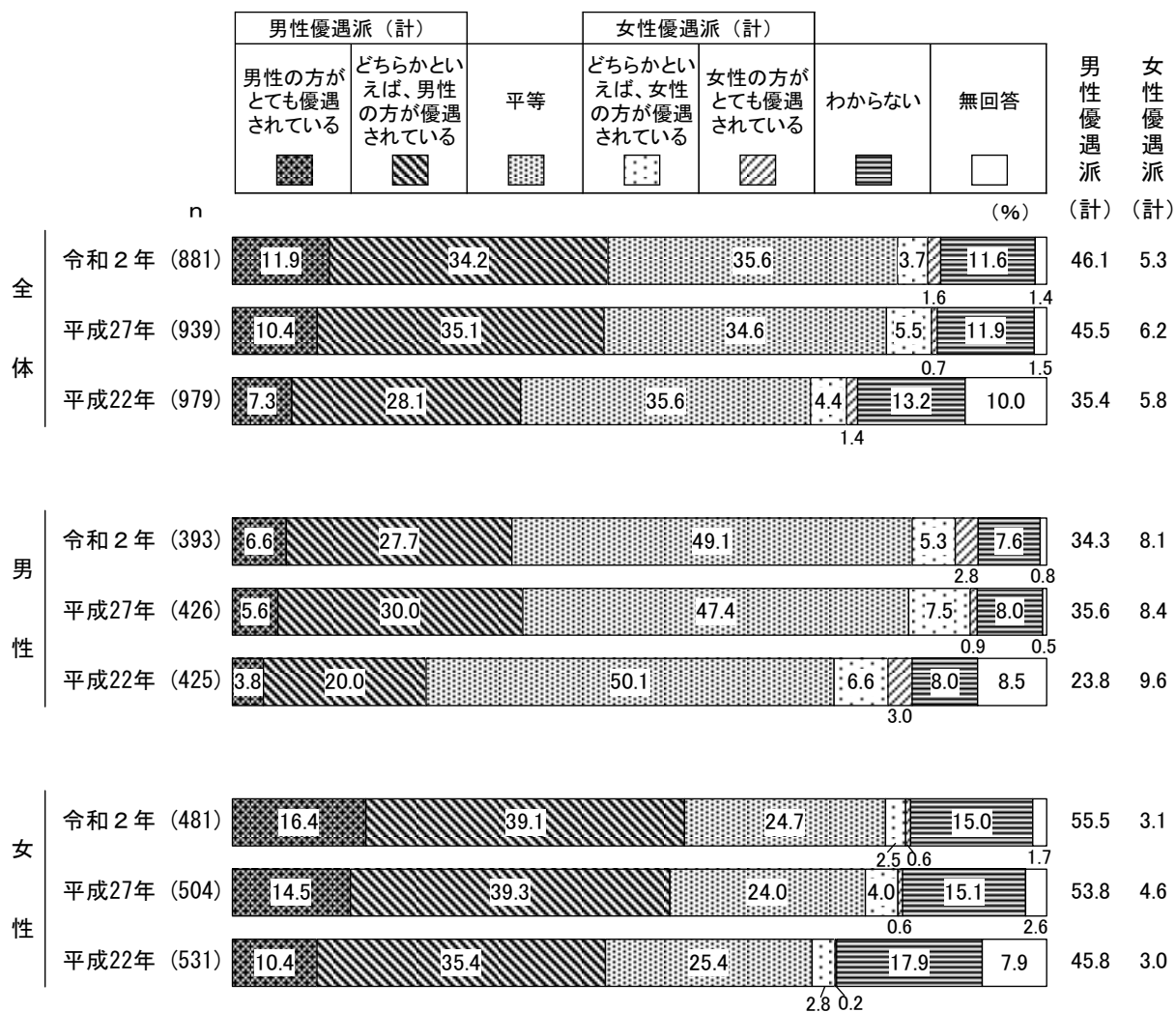
男女別では平成27年と比べて大きな傾向の違いはみられない。



<経年比較> キ 法律や制度上で

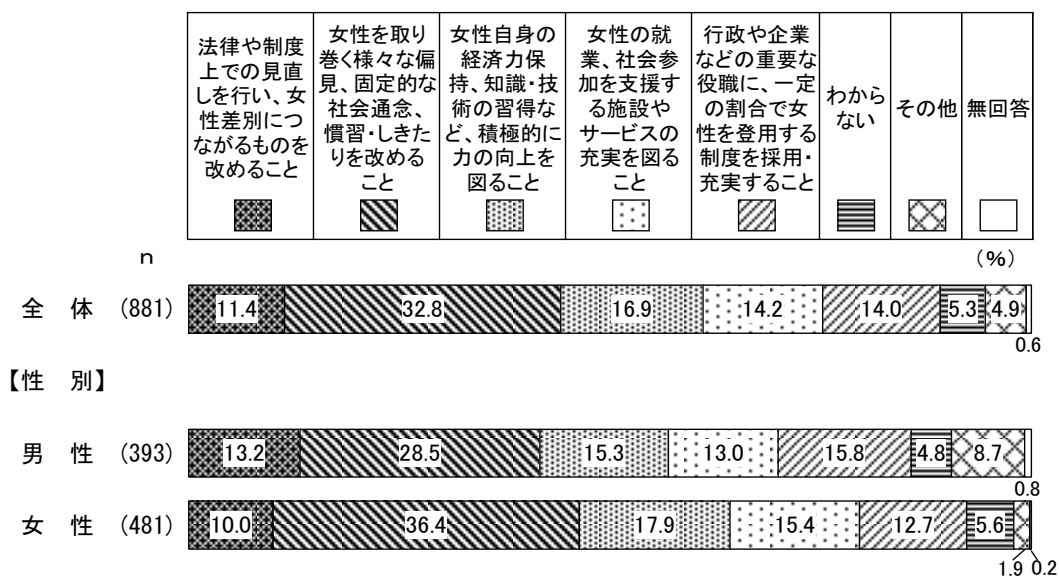
「法律や制度上で」について過年度調査と比較すると、全体では、『男性優遇派（計）』が平成22年以降増加傾向にある。

男女別では平成27年と比べて大きな傾向の違いはみられない。



(3) あらゆる分野で平等になるために重要なこと

問3 今後、男女が社会のあらゆる分野で更に平等になるために、最も重要だと思うことは何ですか。(回答は、1つだけ)



<全体／性別>

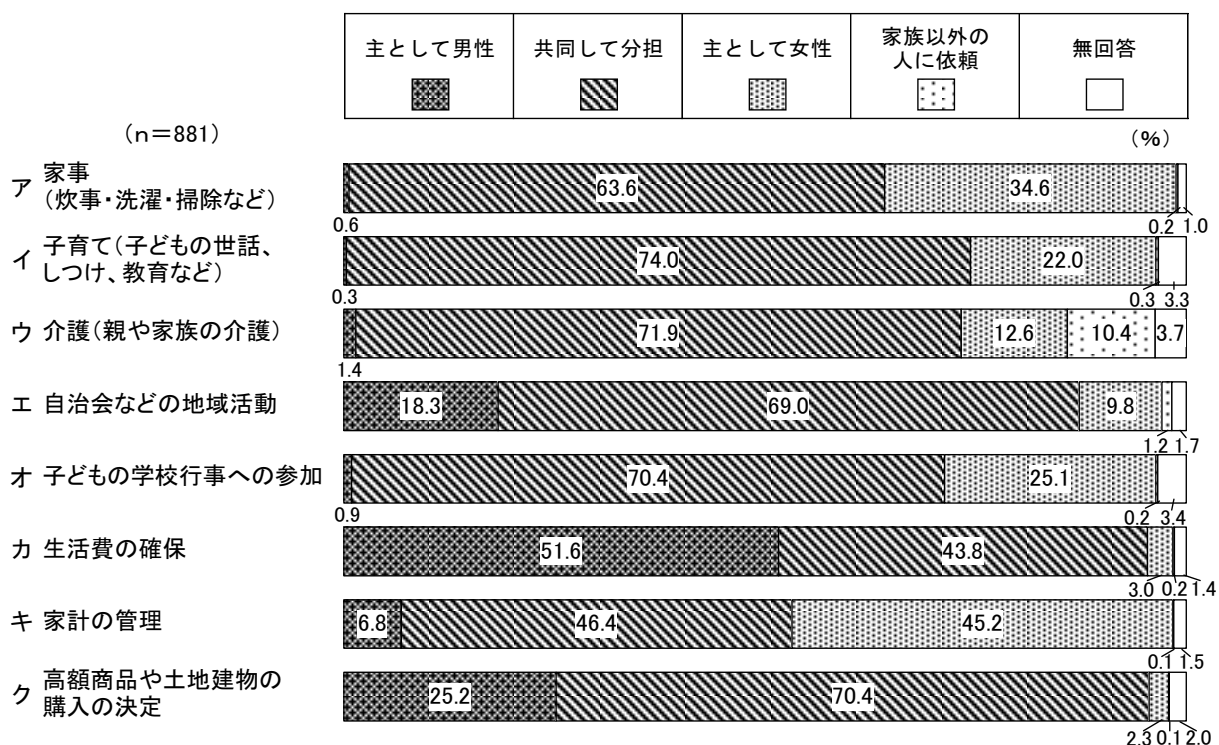
男女が社会のあらゆる分野で更に平等になるために、最も重要だと思うことを聞いたところ、全体では、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が32.8%で最も高く、次いで「女性自身の経済力保持、知識・技術の習得など、積極的に力の向上を図ること」(16.9%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(14.2%)、「行政や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」(14.0%)となっている。

性別でみると、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」は女性(36.4%)が男性(28.5%)より7.9ポイント高くなっている。

2. 家庭生活について

(1) 家事等は誰が行うことが望ましいか

問4 あなたの家庭では次のことがらを、主にどなたが行うことが望ましいと考えますか。
(回答は、アからクのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)



<全体>

家事等は誰が行うことが望ましいかを、8項目について聞いたところ、全体では、「主として男性」は“生活費の確保”が51.6%で最も高く、次いで“高額商品や土地建物の購入の決定”(25.2%)となっている。

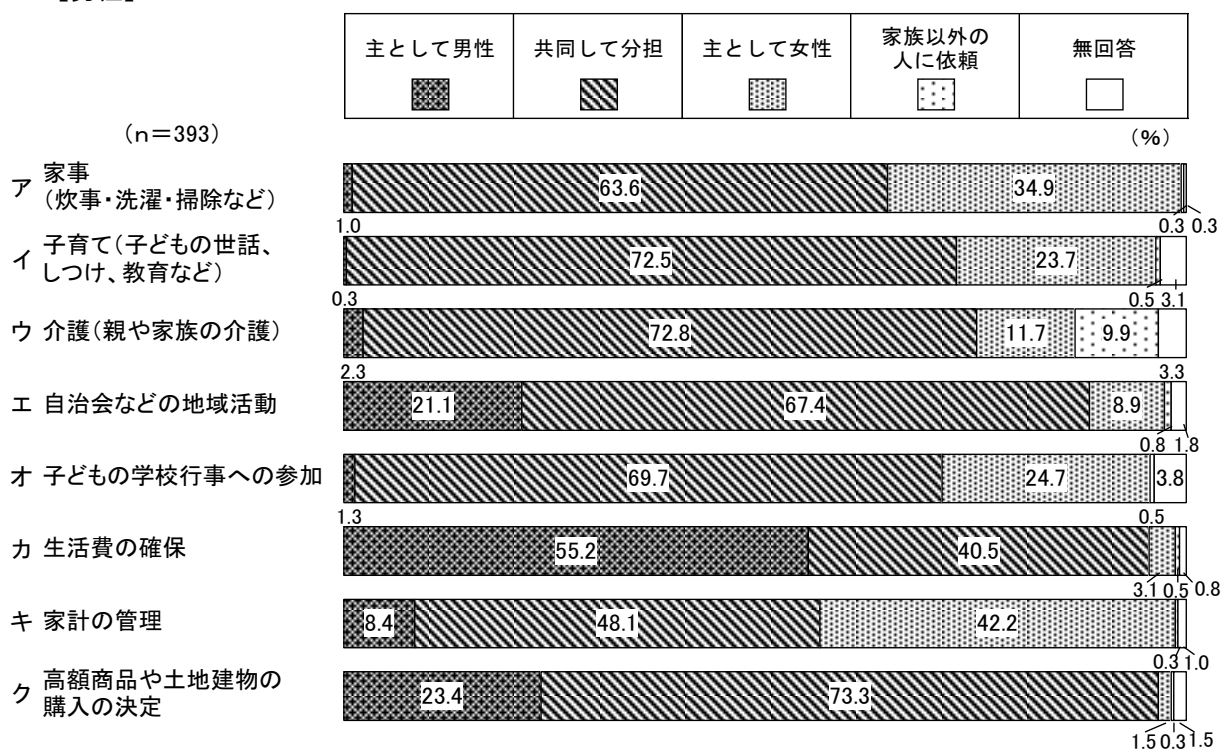
一方、「主として女性」は“家計の管理”が45.2%で最も高く、次いで“家事(炊事・洗濯・掃除など)”(34.6%)、“子どもの学校行事への参加”(25.1%)となっている。

また、「共同して分担」は“子育て(子どもの世話、しつけ、教育など)”が74.0%で最も高く、次いで“介護(親や家族の介護)”(71.9%)、“子どもの学校行事への参加”と“高額商品や土地建物の購入の決定”(ともに70.4%)となっている。

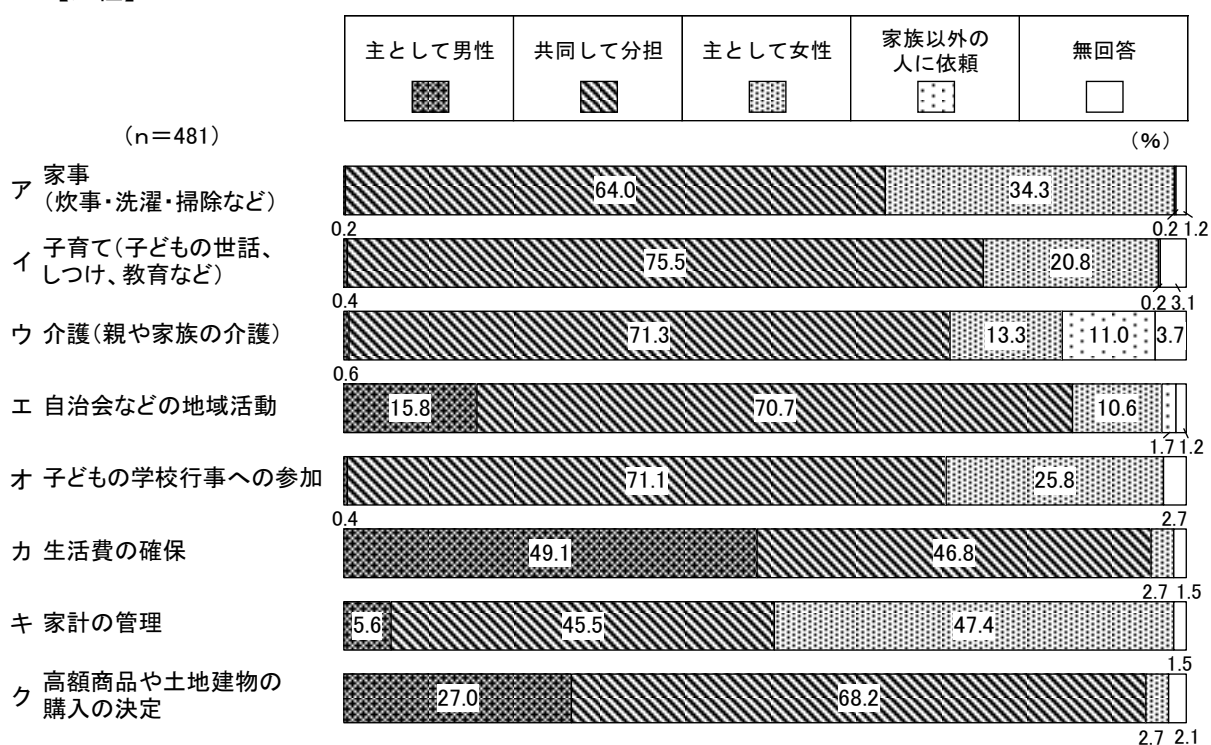
<性別>

性別でみると、「主として男性」は“生活費の確保”で男性（55.2%）が女性（49.1%）より6.1ポイント、“自治会などの地域活動”で男性（21.1%）が女性（15.8%）より5.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「主として女性」は“家計の管理”で女性（47.4%）が男性（42.2%）より5.2ポイント高くなっている。また、「共同して分担」は“生活費の確保”で女性（46.8%）が男性（40.5%）より6.3ポイント高くなっている。

【男性】

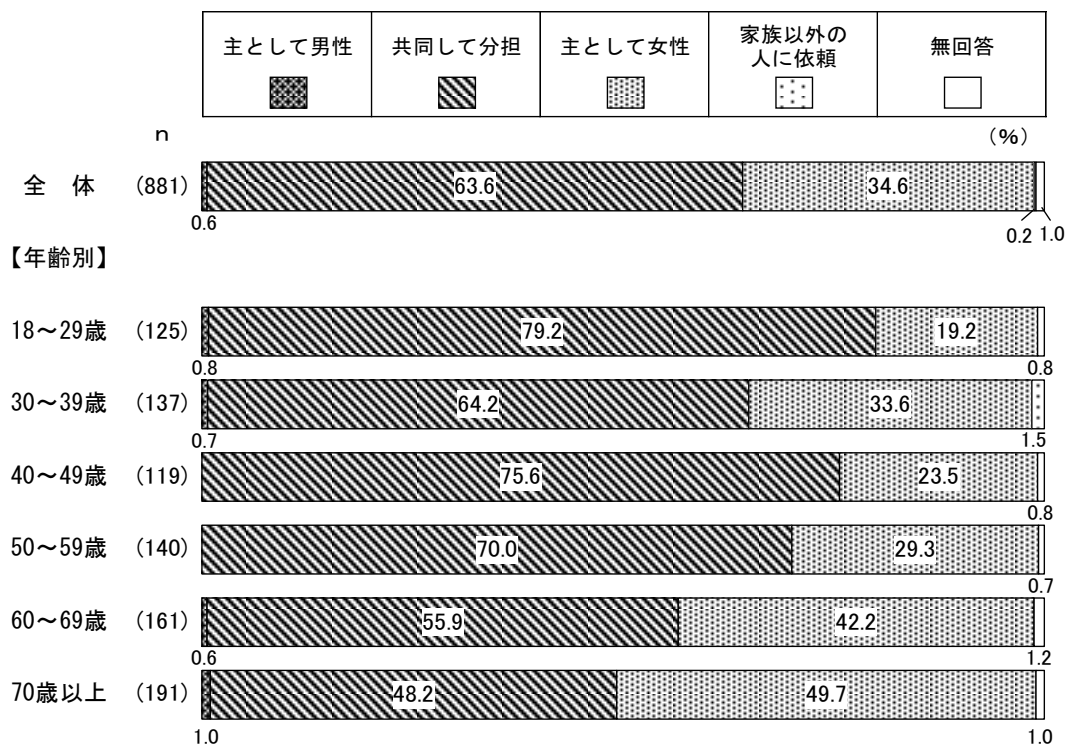


【女性】



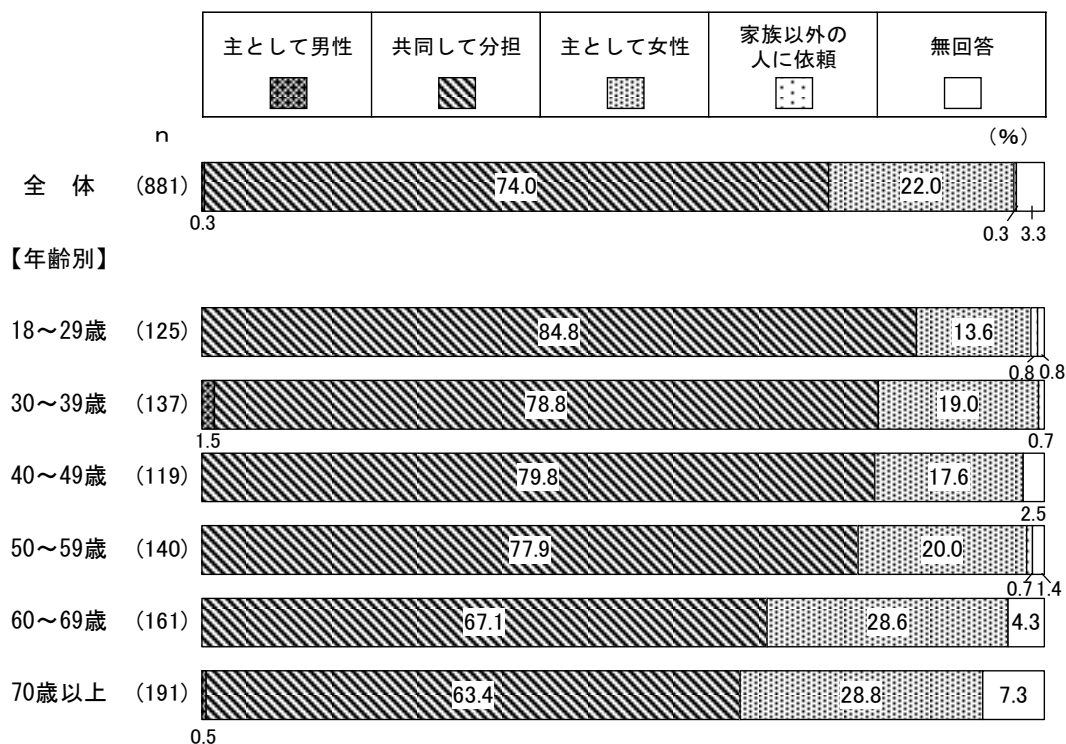
<年齢別> ア 家事（炊事・洗濯・掃除など）

「家事」について年齢別でみると、「共同して分担」はおおむね年齢が下がるにつれて高く、18～29歳で79.2%と高くなっている。「主として女性」は70歳以上で49.7%と高くなっている。



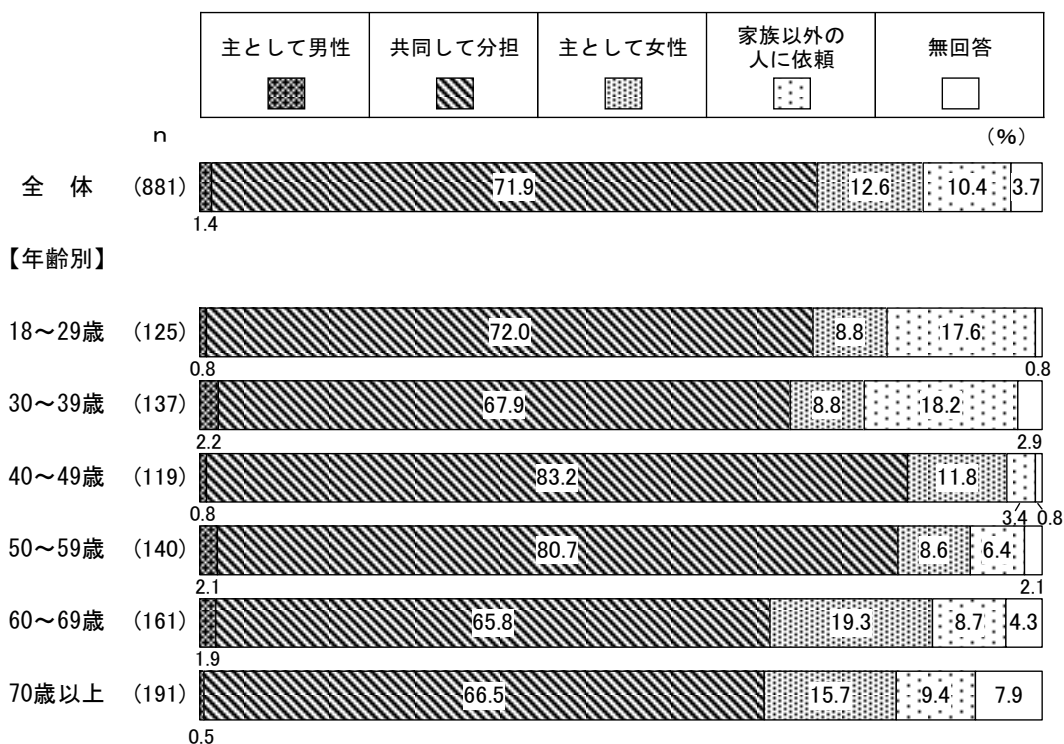
<年齢別> イ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）

「子育て」について年齢別でみると、「共同して分担」はおおむね年齢が下がるにつれて高く、18～29歳で84.8%と高くなっている。「主として女性」は70歳以上で28.8%、60～69歳で28.6%と高くなっている。



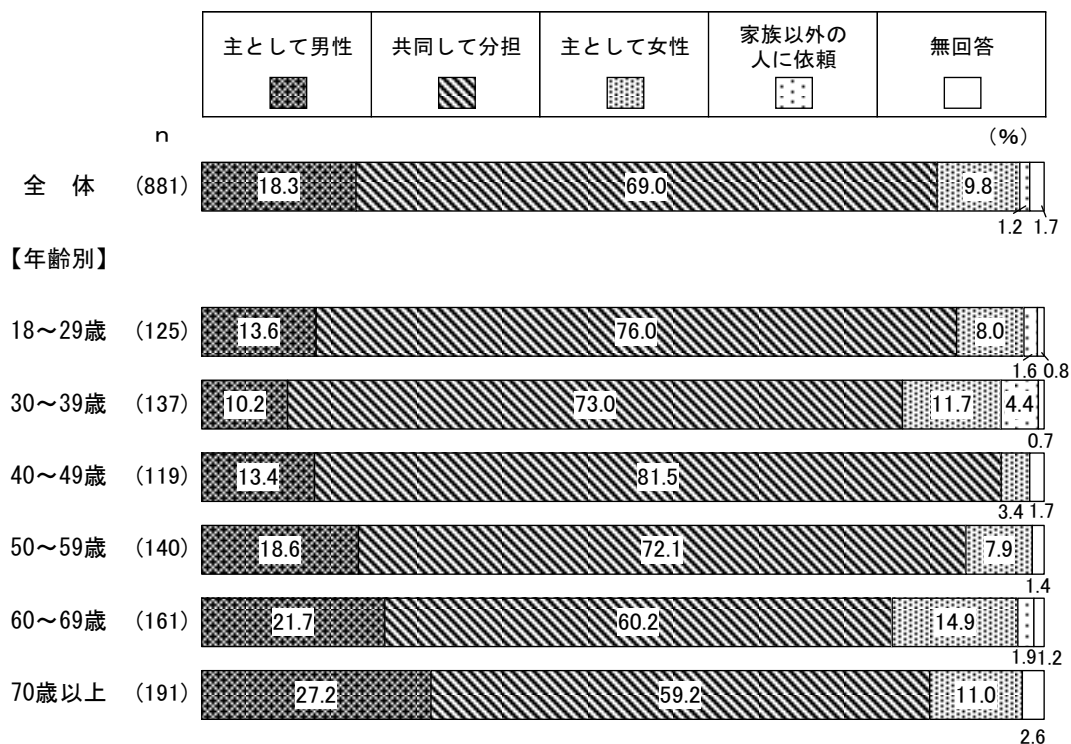
<年齢別> ウ 介護（親や家族の介護）

「介護」について年齢別でみると、「共同して分担」は40～49歳で83.2%、50～59歳で80.7%と高くなっている。



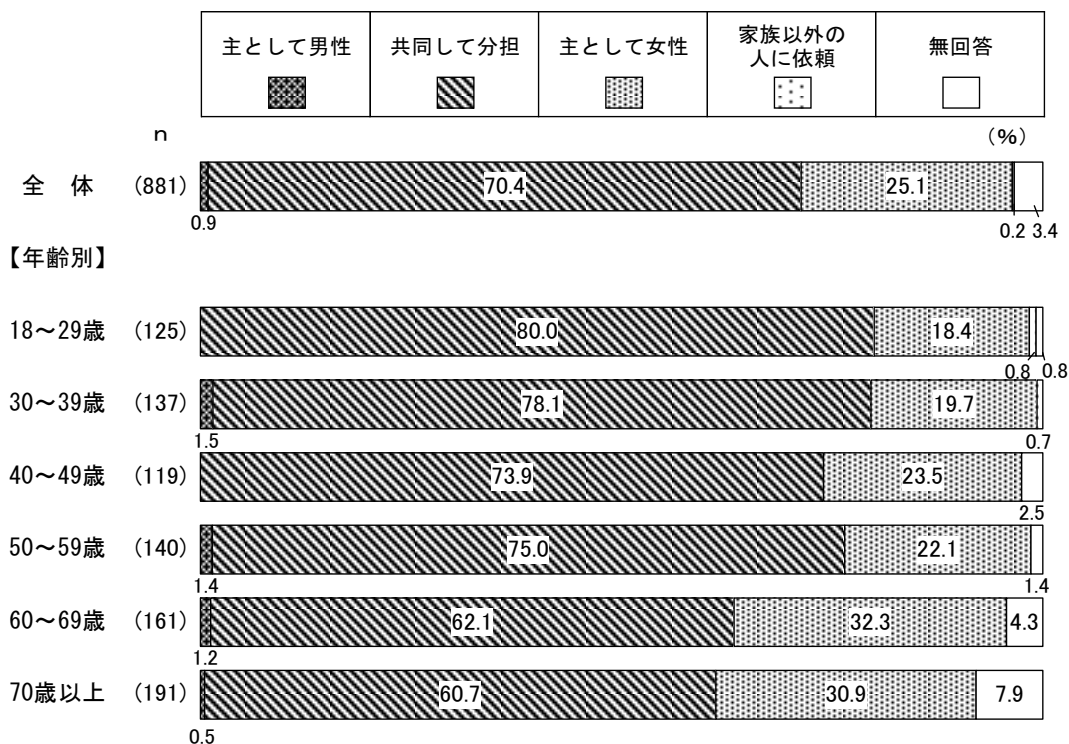
<年齢別> エ 自治会などの地域活動

「自治会などの地域活動」について年齢別でみると、「主として男性」は70歳以上で27.2%と高くなっている。「共同して分担」は40～49歳で81.5%と高くなっている。



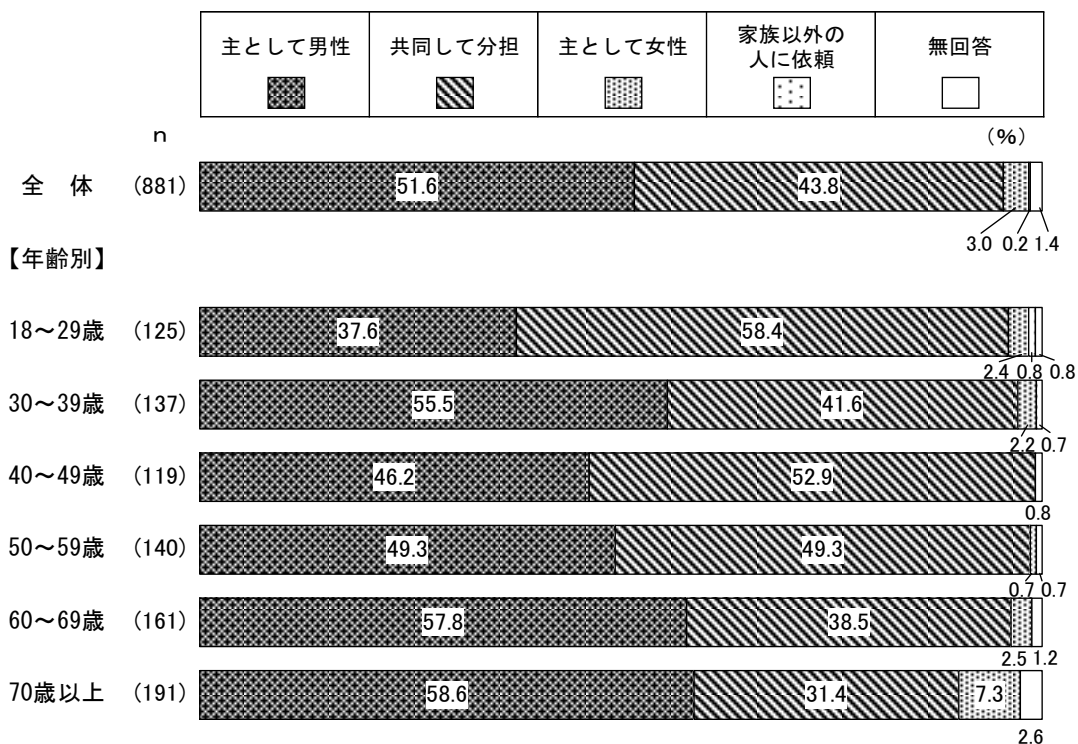
<年齢別> オ 子どもの学校行事への参加

「子どもの学校行事への参加」について年齢別でみると、「共同して分担」は18～29歳で80.0%と高くなっている。「主として女性」は60～69歳で32.3%、70歳以上で30.9%と高くなっている。



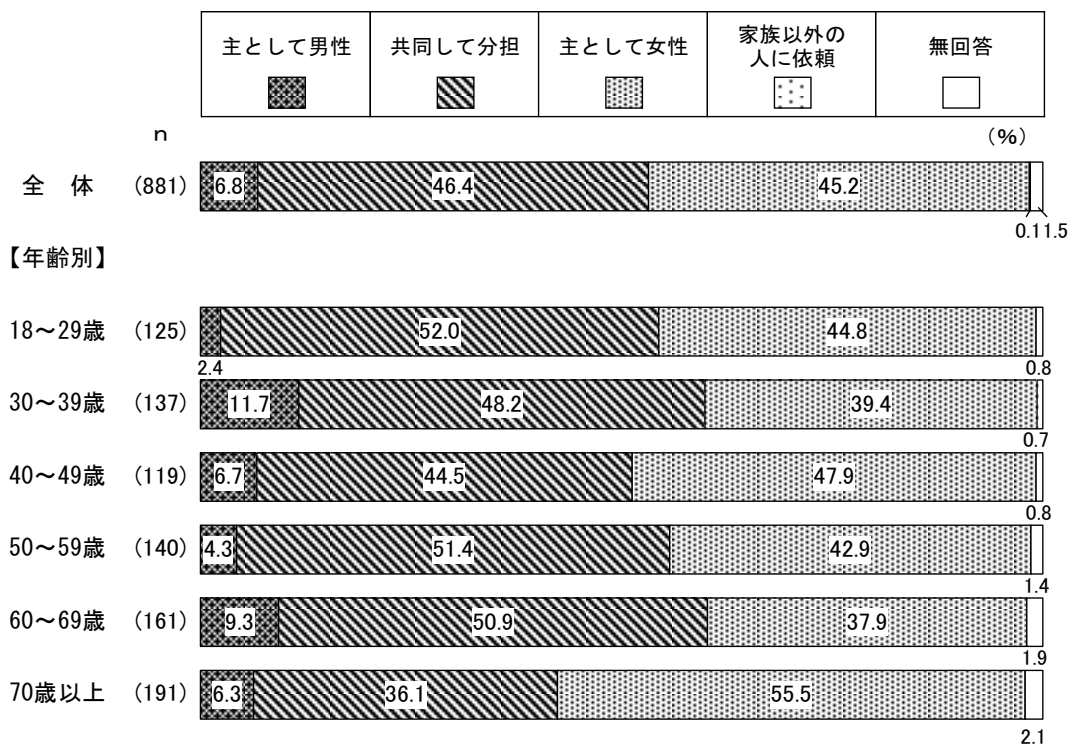
<年齢別> カ 生活費の確保

「生活費の確保」について年齢別でみると、「主として男性」は70歳以上で58.6%、60～69歳で57.8%と高くなっている。「共同して分担」は18～29歳で58.4%と高くなっている。



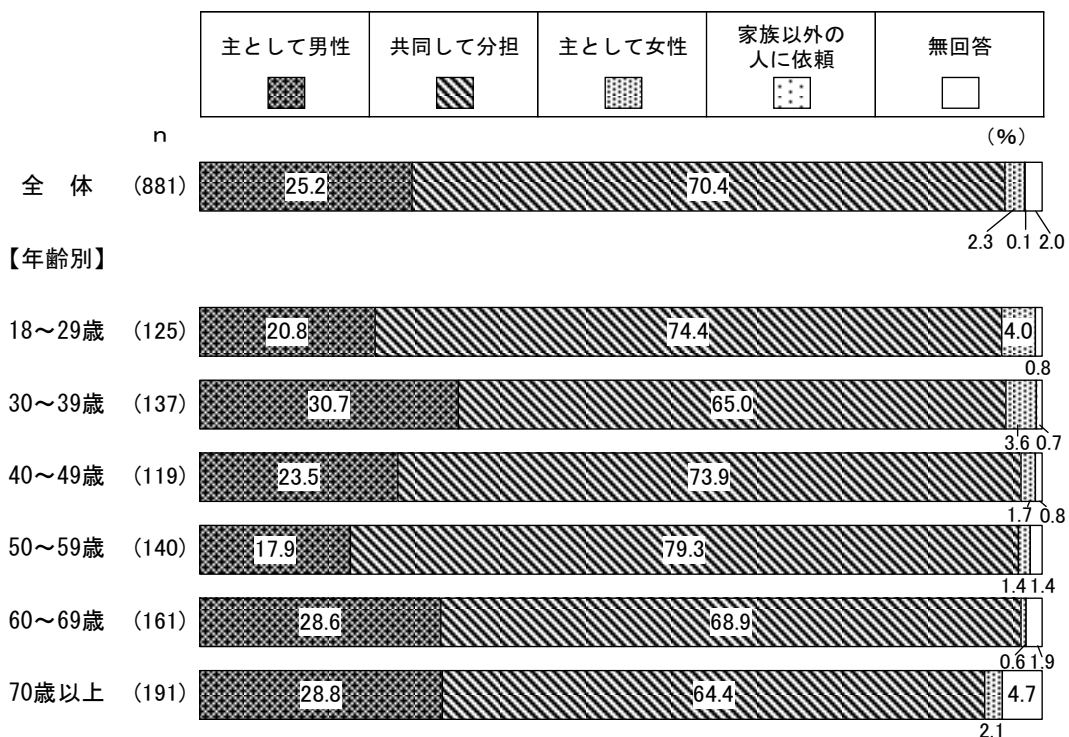
<年齢別> キ 家計の管理

「家計の管理」について年齢別でみると、「共同して分担」は18～29歳で52.0%と高くなっている。「主として女性」は70歳以上で55.5%と高くなっている。



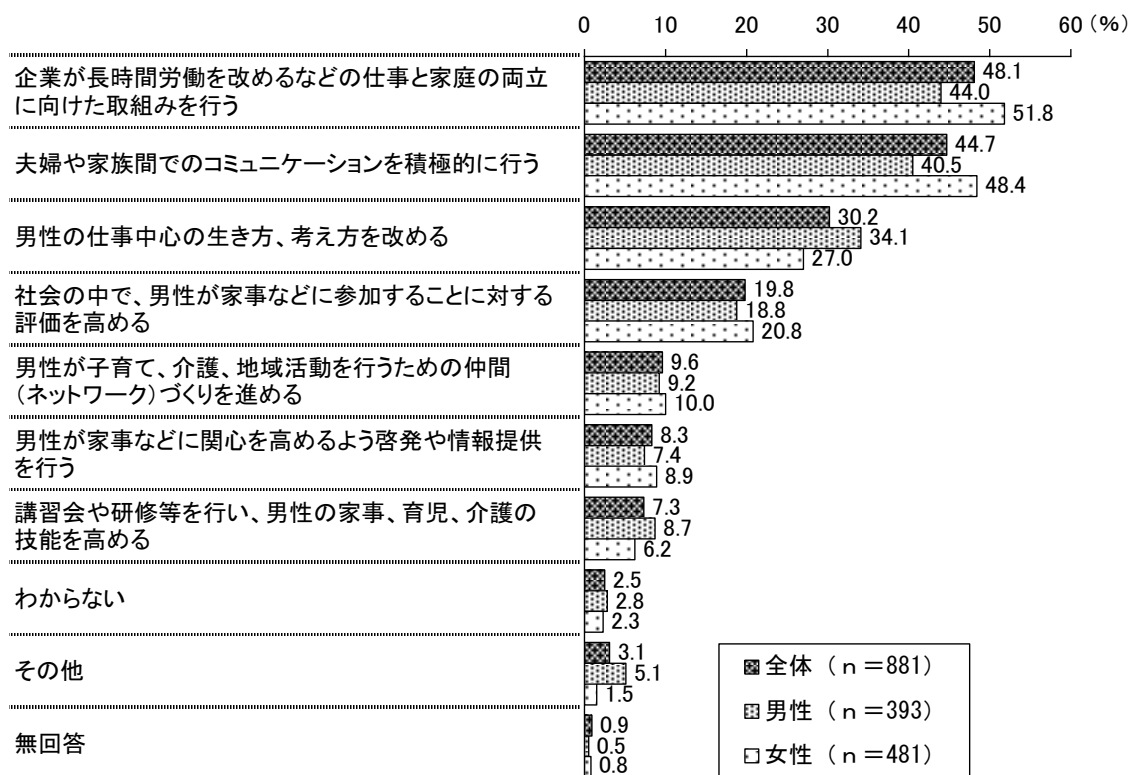
<年齢別> ク 高額商品や土地建物の購入の決定

「高額商品や土地建物の購入の決定」について年齢別でみると、「主として男性」は30～39歳で30.7%と高くなっている。「共同して分担」は50～59歳で79.3%と高くなっている。



(2) 男性が家事等に参加するために必要なこと

問5 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。(回答は、2つ以内)



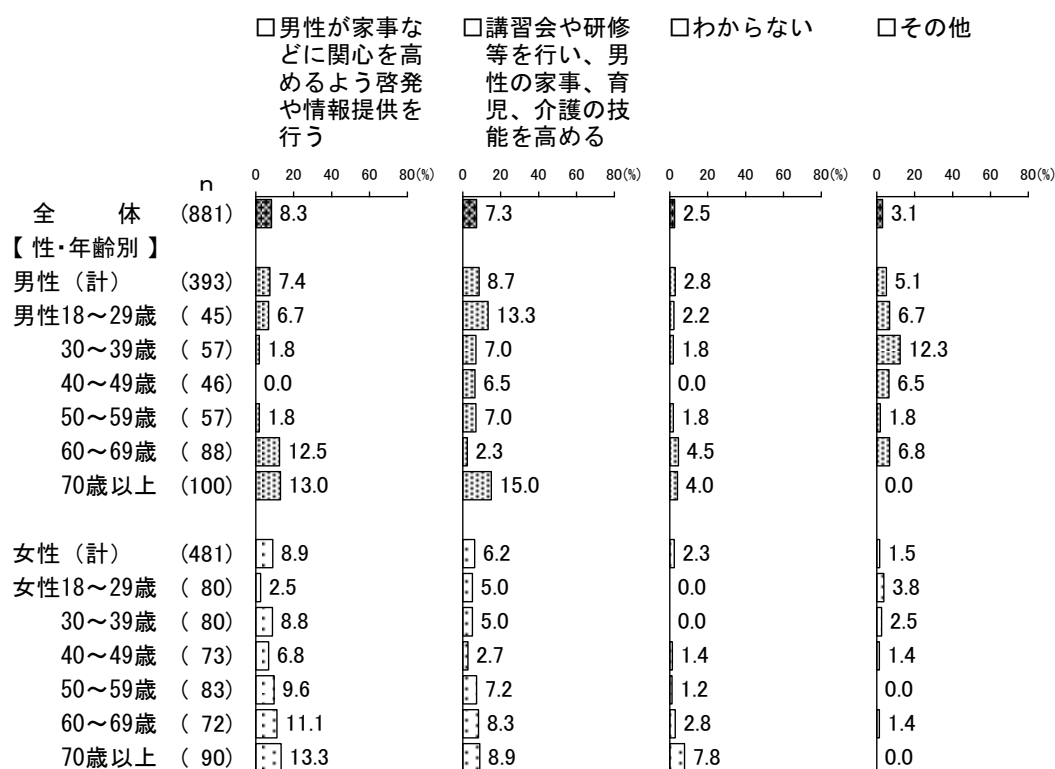
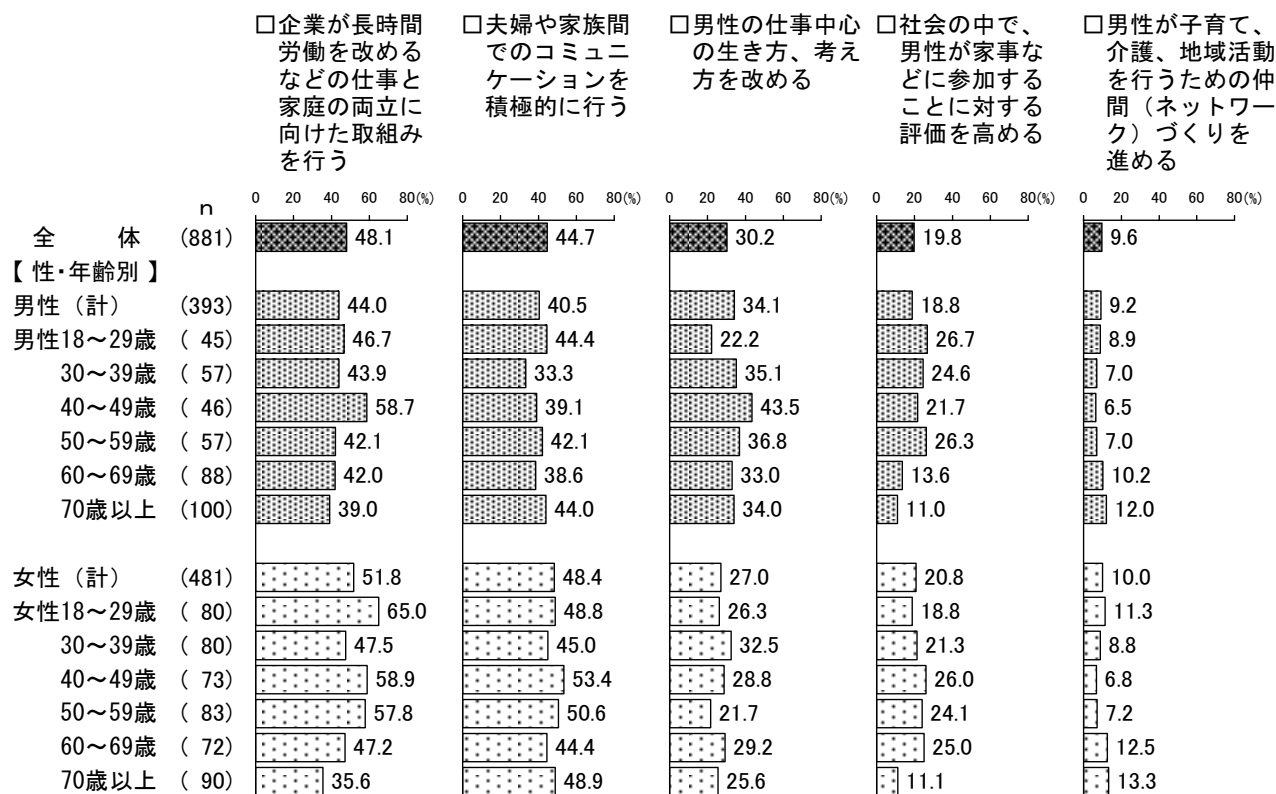
<全体／性別>

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思うか聞いたところ、全体では、「企業が長時間労働を改めるなどの仕事と家庭の両立に向けた取組を行う」が48.1%で最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う」(44.7%)、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」(30.2%)、「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」(19.8%)となっている。

性別でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う」は女性(48.4%)が男性(40.5%)より7.9ポイント、「企業が長時間労働を改めるなどの仕事と家庭の両立に向けた取組を行う」は女性(51.8%)が男性(44.0%)より7.8ポイント高くなっている。一方、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」は男性(34.1%)が女性(27.0%)より7.1ポイント高くなっている。

<性・年齢別>

性・年齢別でみると、「企業が長時間労働を改めるなどの仕事と家庭の両立に向けた取組を行う」は女性18～29歳で65.0%と高くなっている。「夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う」は女性40～49歳で53.4%、女性50～59歳で50.6%と高くなっている。「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」は男性40～49歳で43.5%と高くなっている。

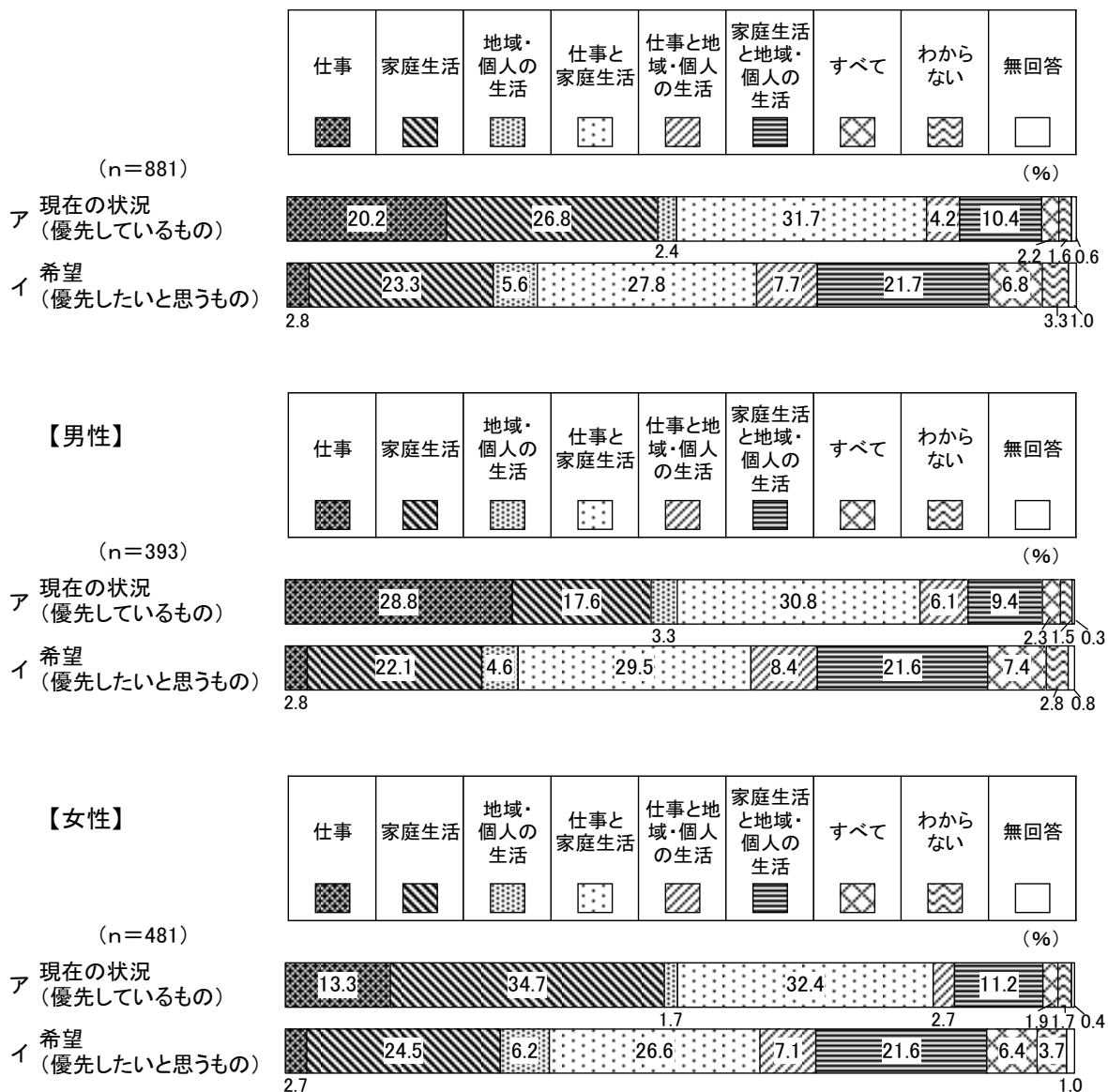


3. 家庭生活と地域活動と仕事について

(1) 生活に関する現在の状況と希望

問6 生活の中の優先度についておうかがいします。あなたの現在の状況で最優先のものを「ア 現在の状況（優先しているもの）」から、希望として最優先したいものを「イ 希望（優先したいと思うもの）」から、それぞれの項目から近いものを一つお答えください。

（ア 現在の状況 と イ 希望 のそれぞれの項目にあてはまるもの一つだけ）



<全体／性別>

生活に関する現在の状況と希望を聞いたところ、全体の「現在の状況」では、「仕事と家庭生活」が31.7%で最も高く、次いで「家庭生活」（26.8%）、「仕事」（20.2%）となっている。

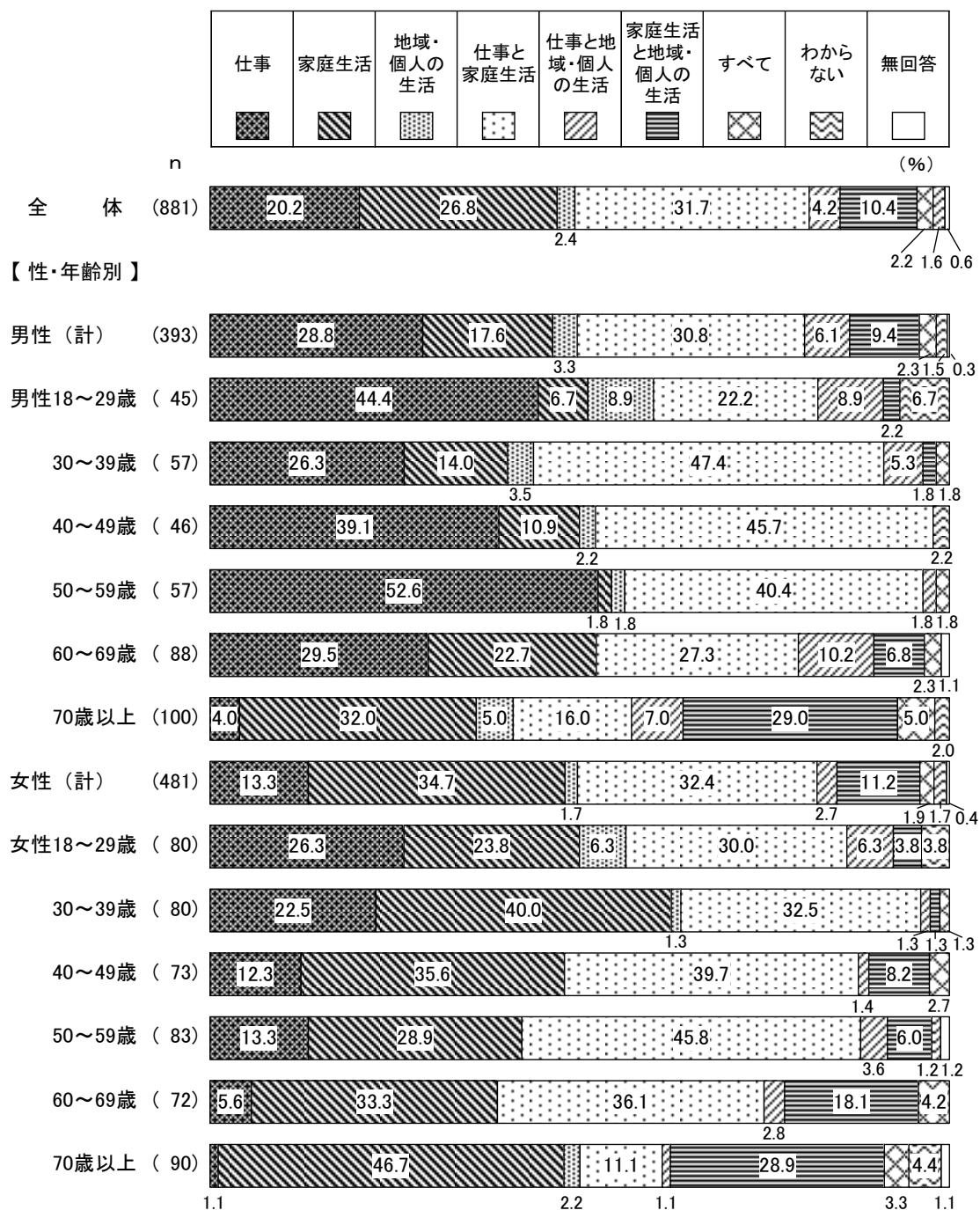
「希望」では、「仕事と家庭生活」が27.8%で最も高く、次いで「家庭生活」（23.3%）、「家庭生活と地域・個人の生活」（21.7%）となっている。

性別でみると、「現在の状況」では、「仕事」は男性（28.8%）が女性（13.3%）より15.5ポイント高く、「家庭生活」は女性（34.7%）が男性（17.6%）より17.1ポイント高くなっている。

「希望」では大きな傾向の違いはみられない。

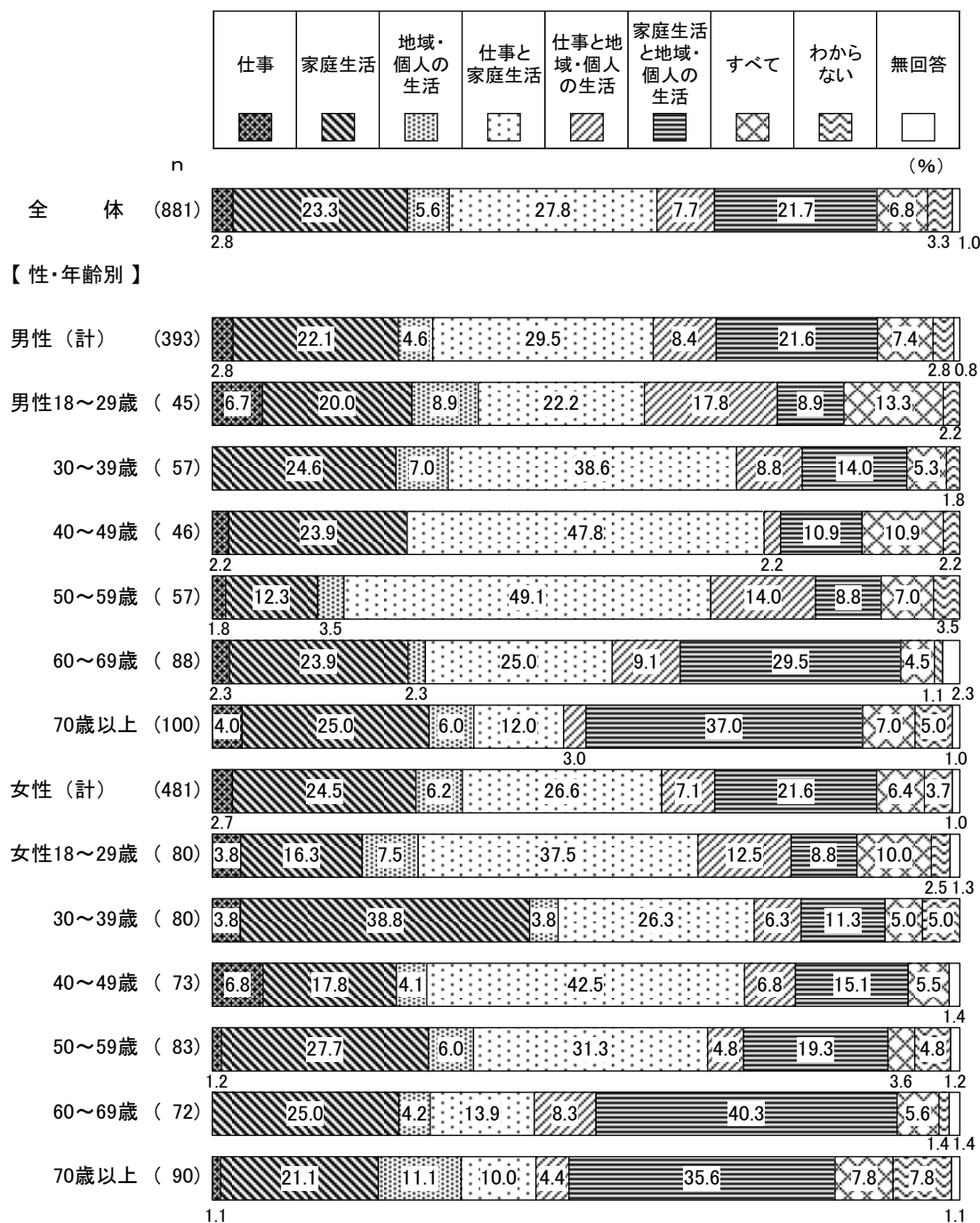
<性・年齢別> 「現在の状況」

「現在の状況」を性・年齢別でみると、「仕事」は男性50～59歳で52.6%、男性18～29歳で44.4%と高くなっている。「家庭生活」は女性70歳以上で46.7%と高くなっている。「仕事と家庭生活」は男性30～39歳で47.4%、女性50～59歳で45.8%、男性40～49歳で45.7%と高くなっている。



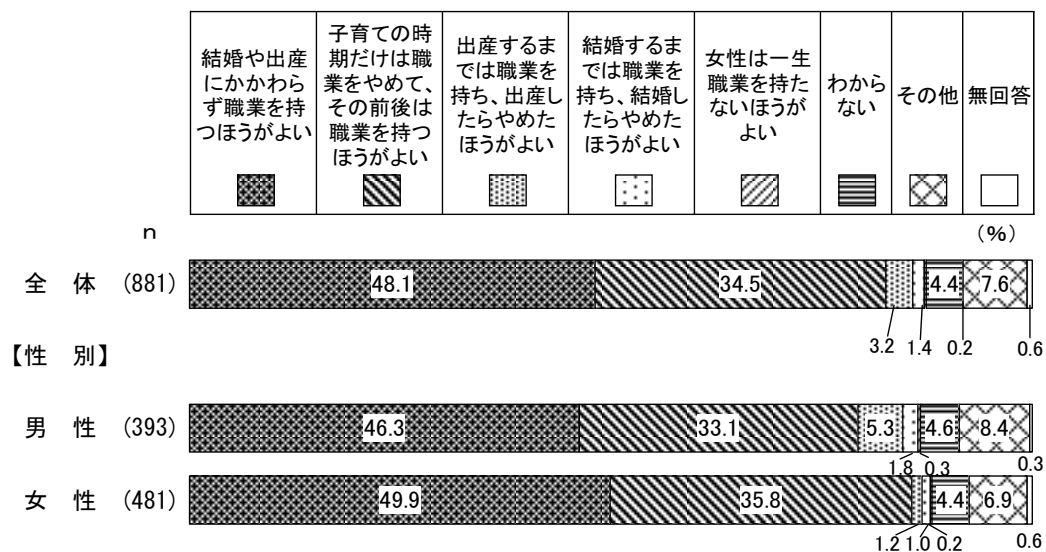
<性・年齢別> 「希望」

「希望」を性・年齢別でみると、「家庭生活」は女性30～39歳で38.8%と高くなっている。「仕事と家庭生活」は男性50～59歳で49.1%、男性40～49歳で47.8%と高くなっている。「家庭生活と地域・個人の生活」は女性60～69歳で40.3%、男性70歳以上で37.0%と高くなっている。



(2) 女性が職業を持つこと

問7 女性が職業を持つことについて、どうお考えですか。(回答は、1つだけ)



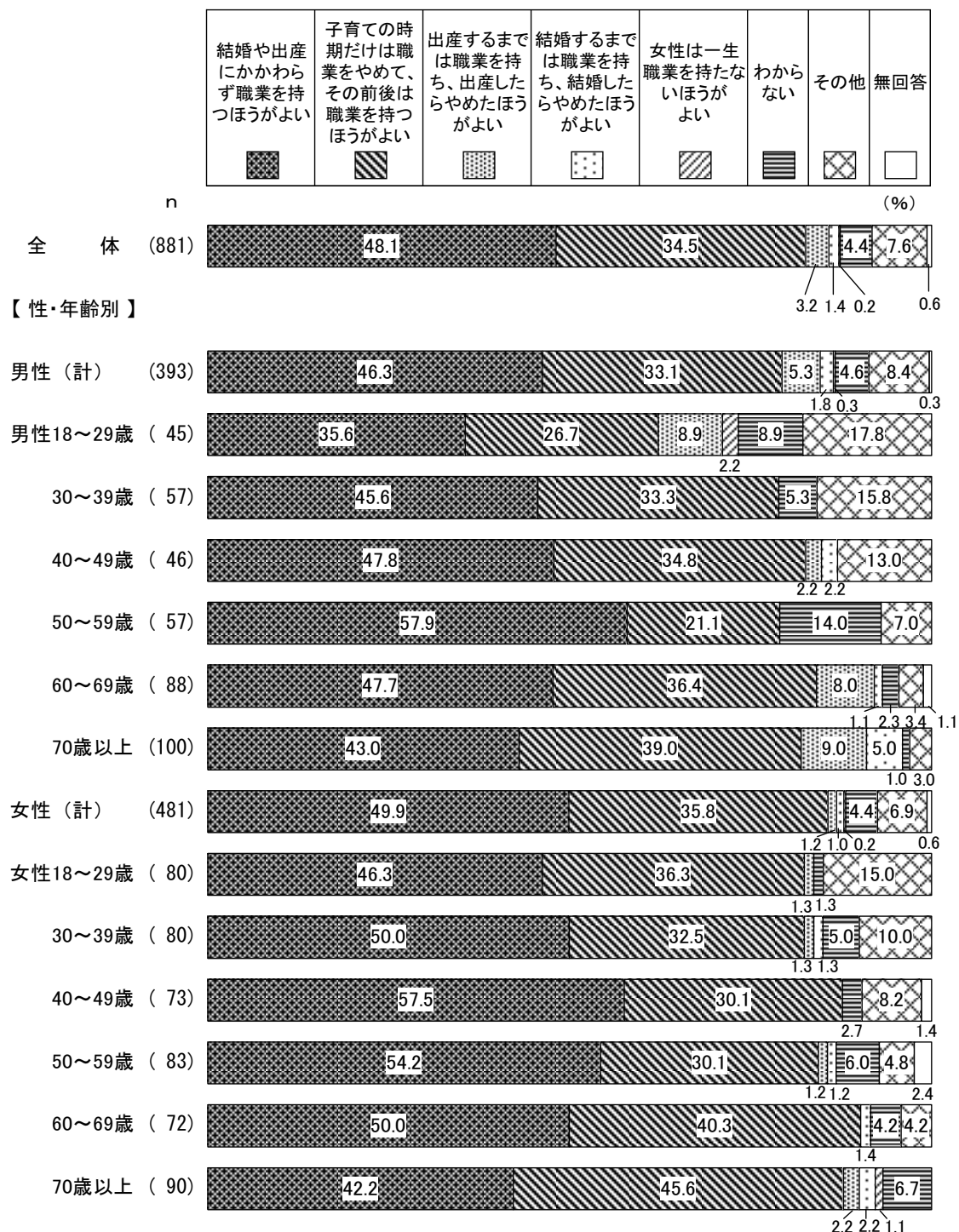
<全体／性別>

女性が職業を持つことについて聞いたところ、全体では、「結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい」が48.1%で最も高く、次いで「子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい」(34.5%)となっている。

性別でみると、「出産するまでは職業を持ち、出産したらやめたほうがよい」は男性(5.3%)が女性(1.2%)より4.1ポイント高くなっている。一方、「結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい」は女性(49.9%)が男性(46.3%)より3.6ポイント高くなっている。

<性・年齢別>

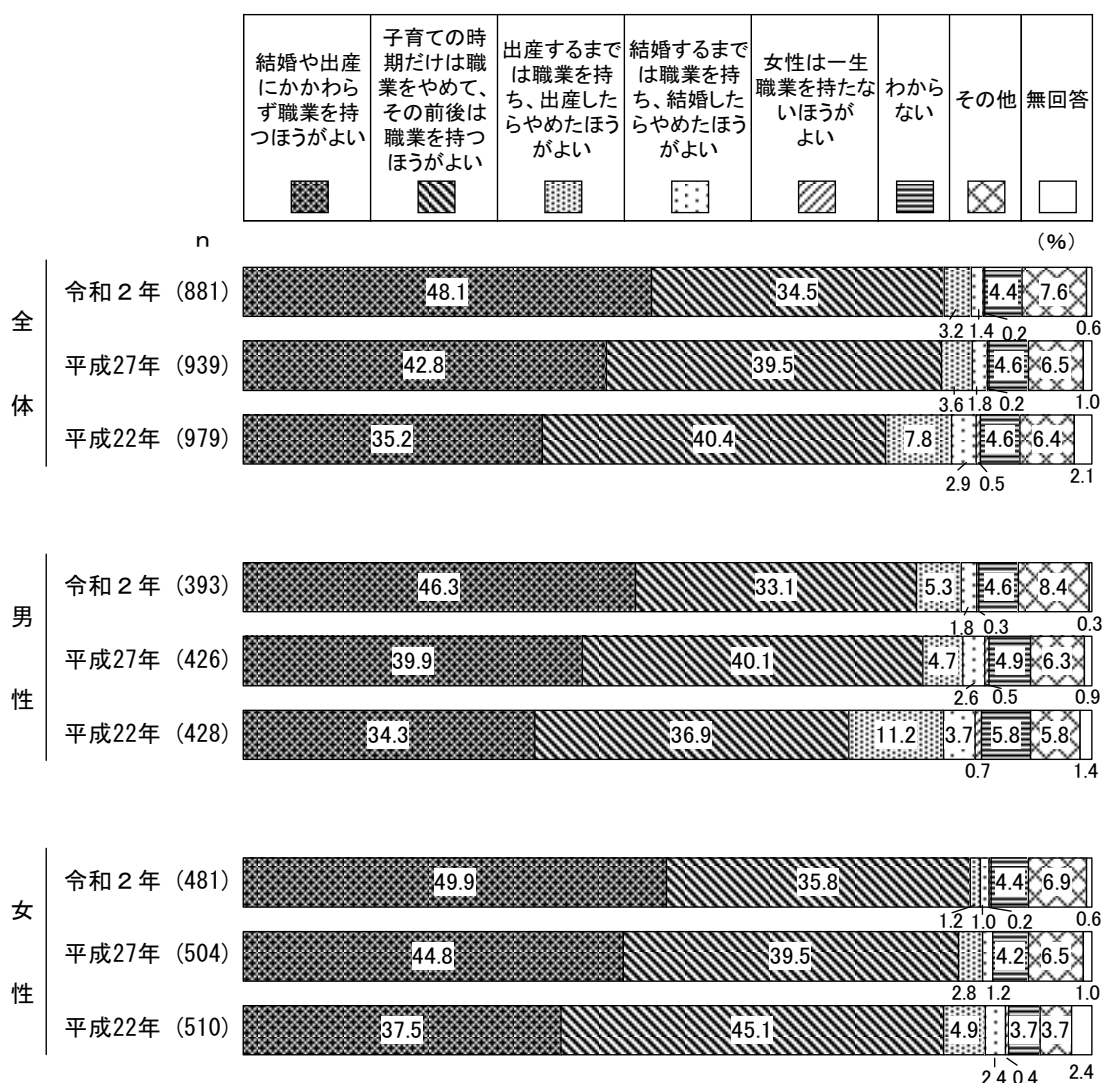
性・年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい」は男性50～59歳で57.9%、女性40～49歳で57.5%と高くなっている。「子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい」は女性70歳以上で45.6%と高くなっている。



＜経年比較＞

過年度調査と比較すると、全体では、「結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい」が平成22年以降増加傾向にあり、平成27年より5.3ポイント増加している。一方、「子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい」が平成22年以降減少傾向にあり、平成27年より5.0ポイント減少している。

「結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい」が男性では平成27年より6.4ポイント、女性では平成27年より5.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい」が男性では平成27年より7.0ポイント、女性では平成27年より3.7ポイント、それぞれ減少している。

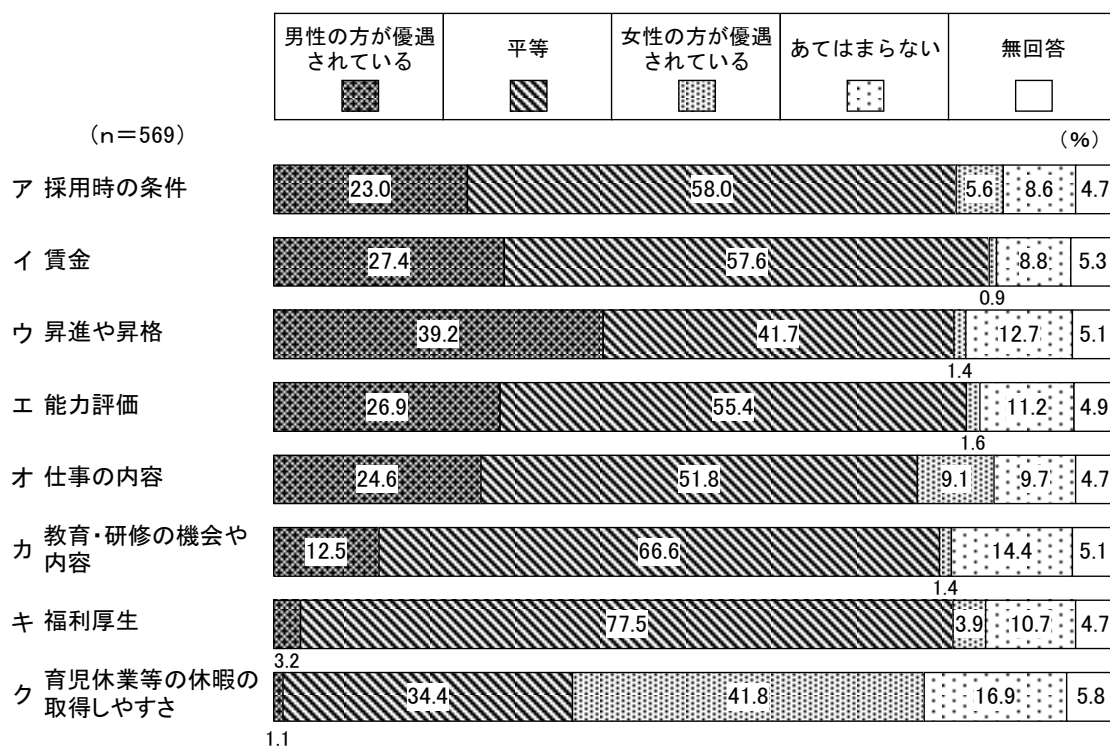


(3) 職場における男女の平等

<現在働いている方におうかがいします。>

問8 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか。

(回答は、アからクのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)



<全体>

職場において男女が平等になっているかを、8項目について聞いたところ、全体では、「男性の方が優遇されている」は“昇進や昇格”が39.2%で最も高く、次いで“賃金”(27.4%)、“能力評価”(26.9%)となっている。

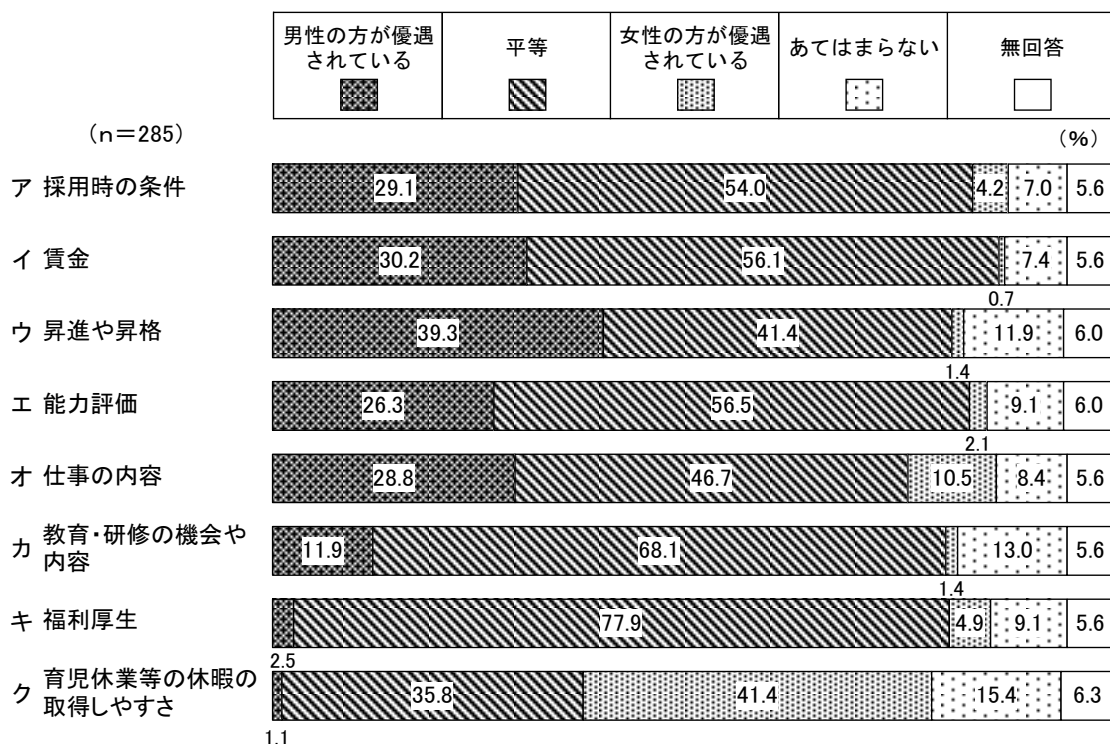
一方、「女性の方が優遇されている」は“育児休業等の休暇の取得しやすさ”が41.8%で最も高く、次いで“仕事の内容”(9.1%)となっている。

また、「平等」は“福利厚生”が77.5%で最も高く、次いで“教育・研修の機会や内容”(66.6%)、“採用時の条件”(58.0%)となっている。

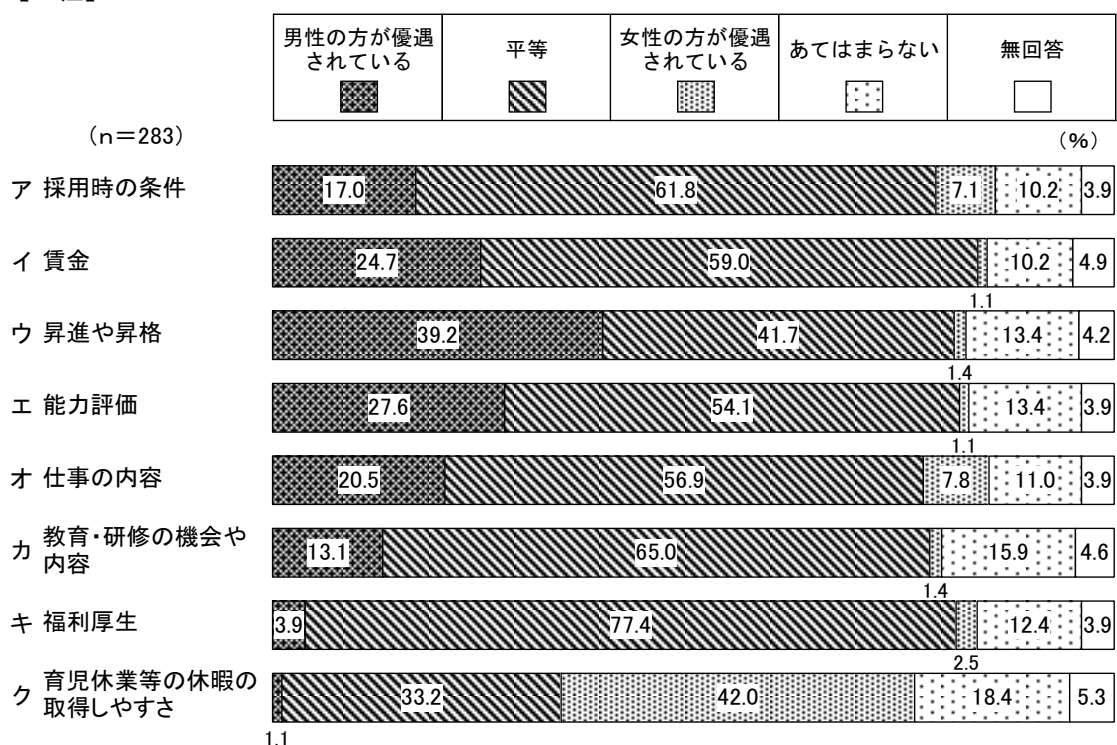
<性別>

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は“採用時の条件”で男性（29.1%）が女性（17.0%）より12.1ポイント、“仕事の内容”で男性（28.8%）が女性（20.5%）より8.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「平等」は“仕事の内容”で女性（56.9%）が男性（46.7%）より10.2ポイント、“採用時の条件”で女性（61.8%）が男性（54.0%）より7.8ポイント、それぞれ高くなっている。

【男性】

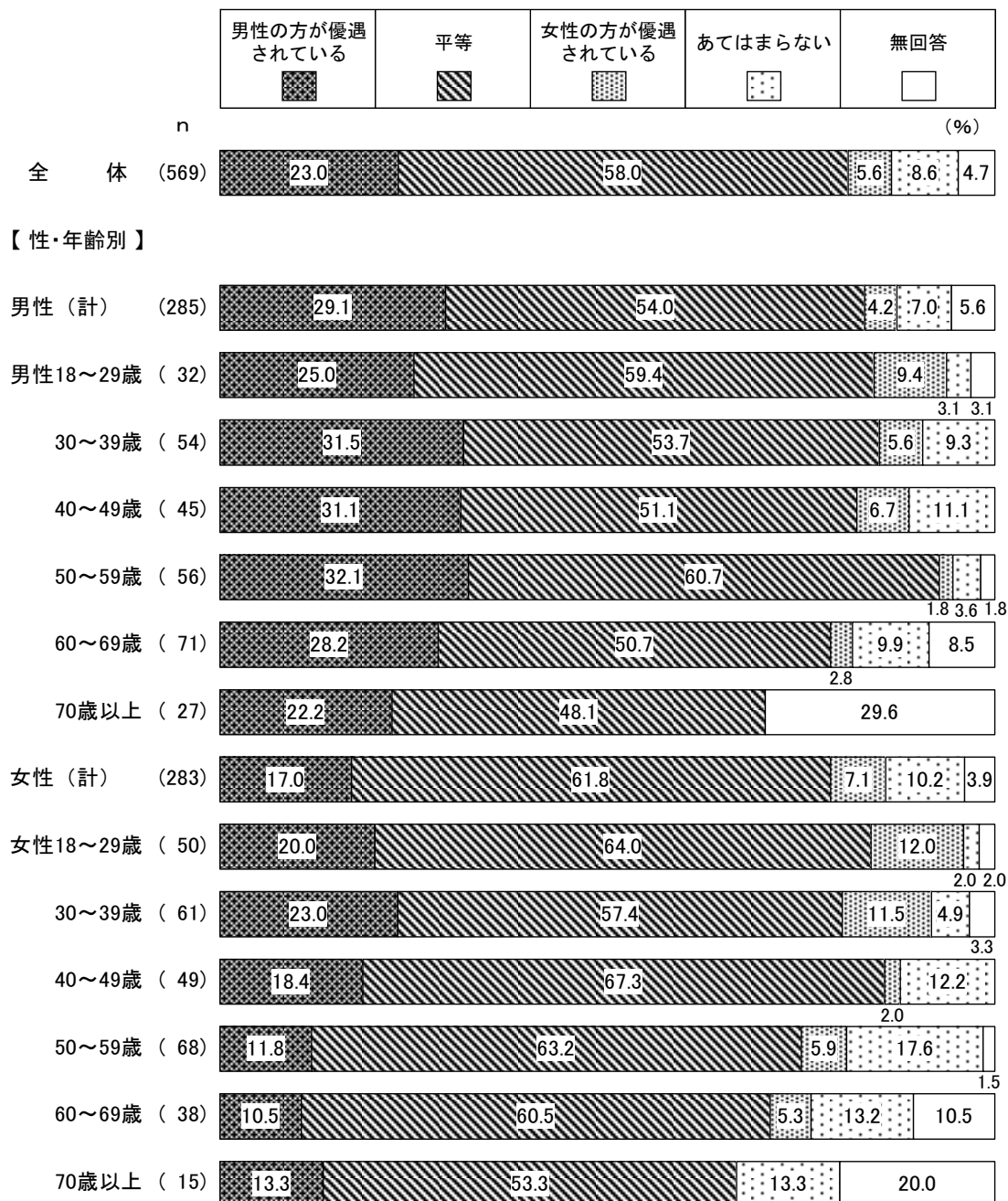


【女性】



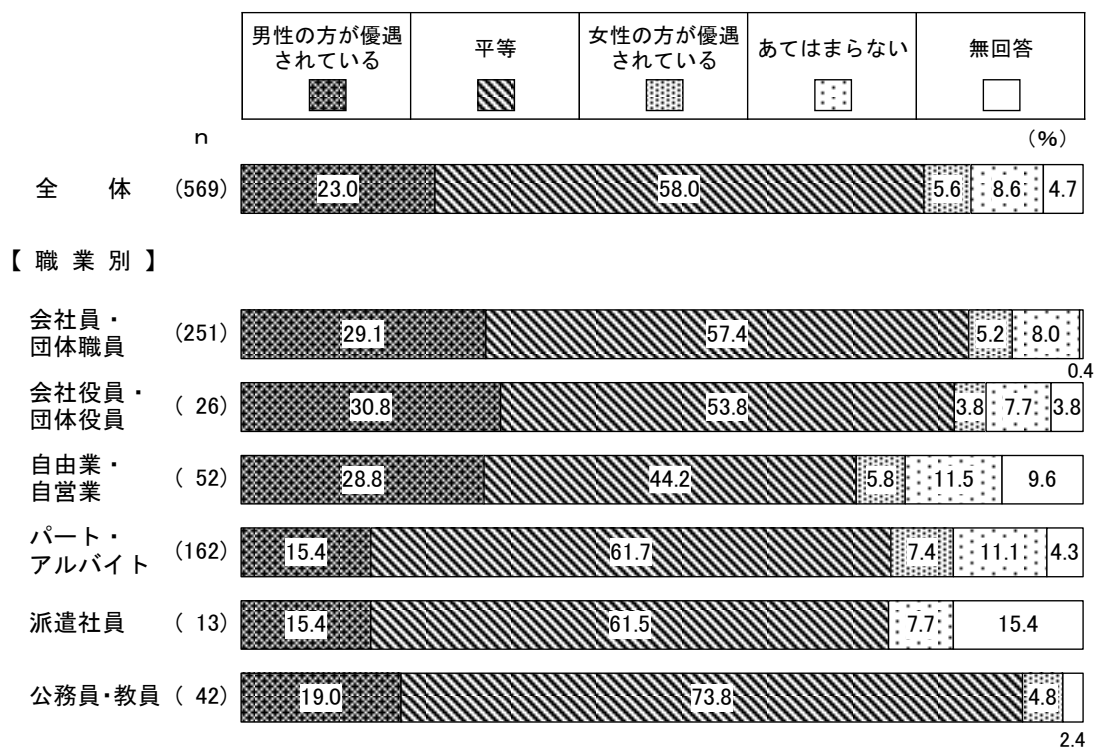
<性・年齢別> ア 採用時の条件

「採用時の条件」について性・年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性50～59歳で32.1%、男性30～39歳で31.5%、男性40～49歳で31.1%と高くなっている。「平等」は女性40～49歳で67.3%、女性18～29歳で64.0%と高くなっている。「女性の方が優遇されている」は女性18～29歳で12.0%、女性30～39歳で11.5%、男性18～29歳で9.4%と高くなっている。



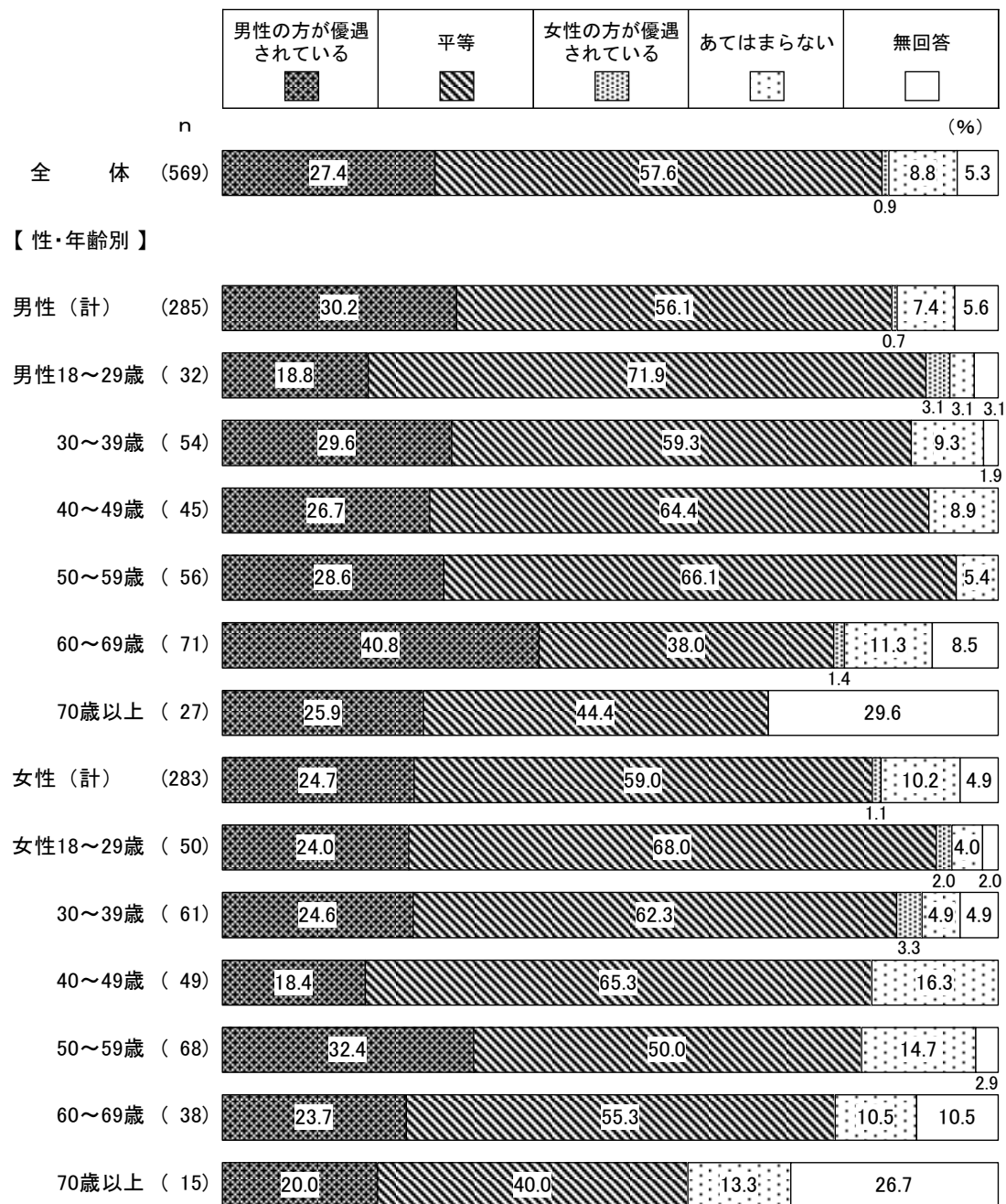
<職業別> ア 採用時の条件

「採用時の条件」について職業別でみると、「男性の方が優遇されている」は会社役員・団体役員で30.8%、会社員・団体職員で29.1%、自由業・自営業で28.8%と高くなっている。「平等」は公務員・教員で73.8%、パート・アルバイトで61.7%と高くなっている。



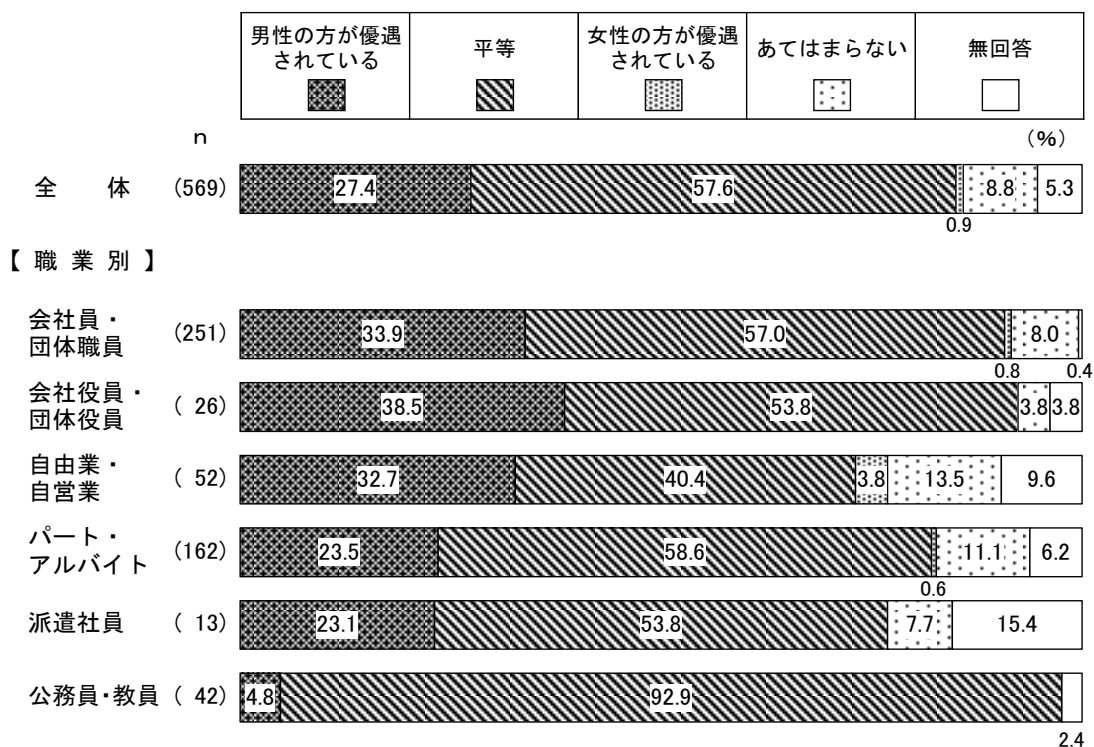
＜性・年齢別＞ イ 賃金

「賃金」について性・年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性60～69歳で40.8%、女性50～59歳で32.4%と高くなっている。「平等」は男性18～29歳で71.9%、女性18～29歳で68.0%と高くなっている。



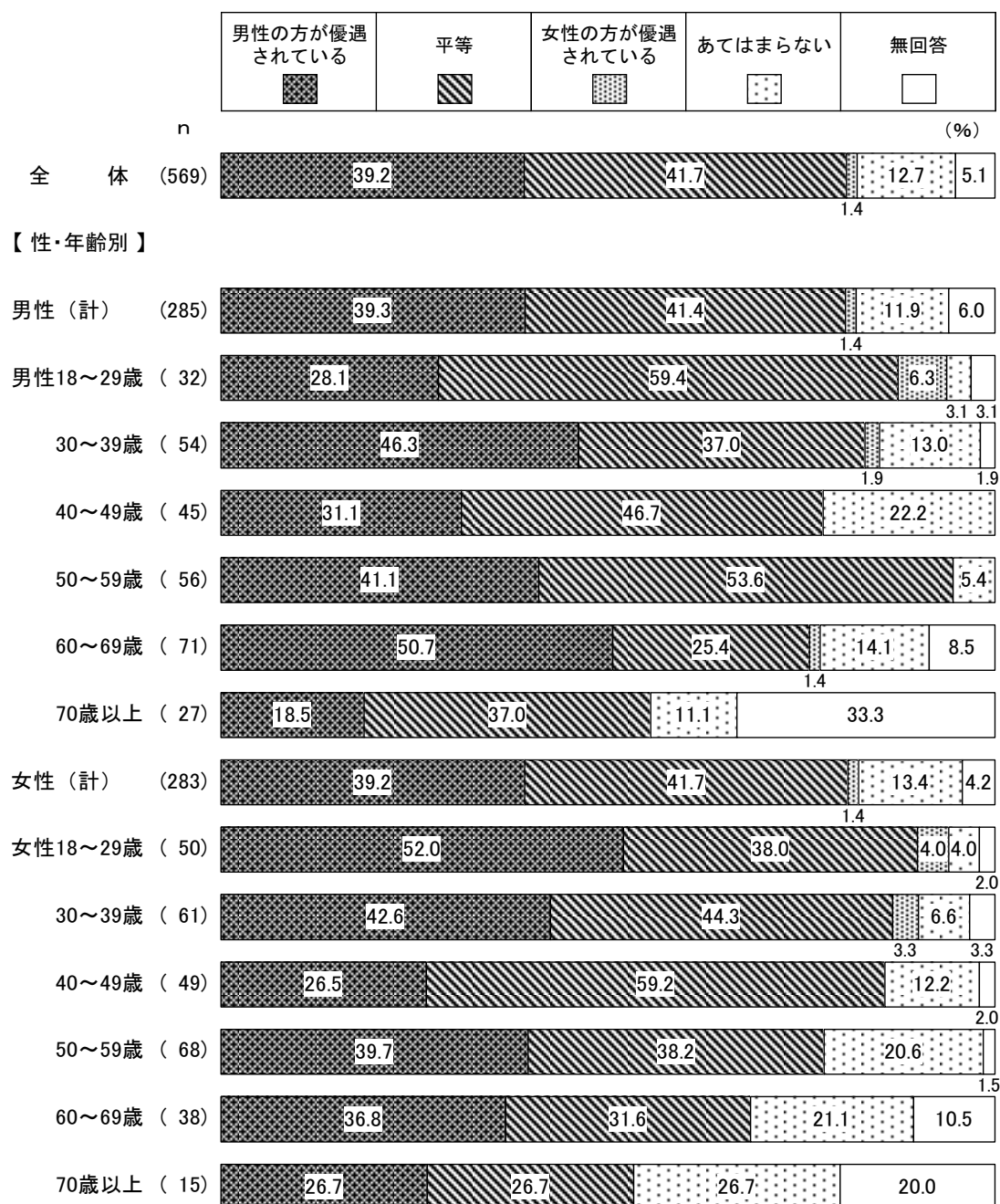
＜職業別＞ イ 賃金

「賃金」について職業別でみると、「男性の方が優遇されている」は会社役員・団体役員で38.5%、会社員・団体職員で33.9%と高くなっている。「平等」は公務員・教員で92.9%と高くなっている。



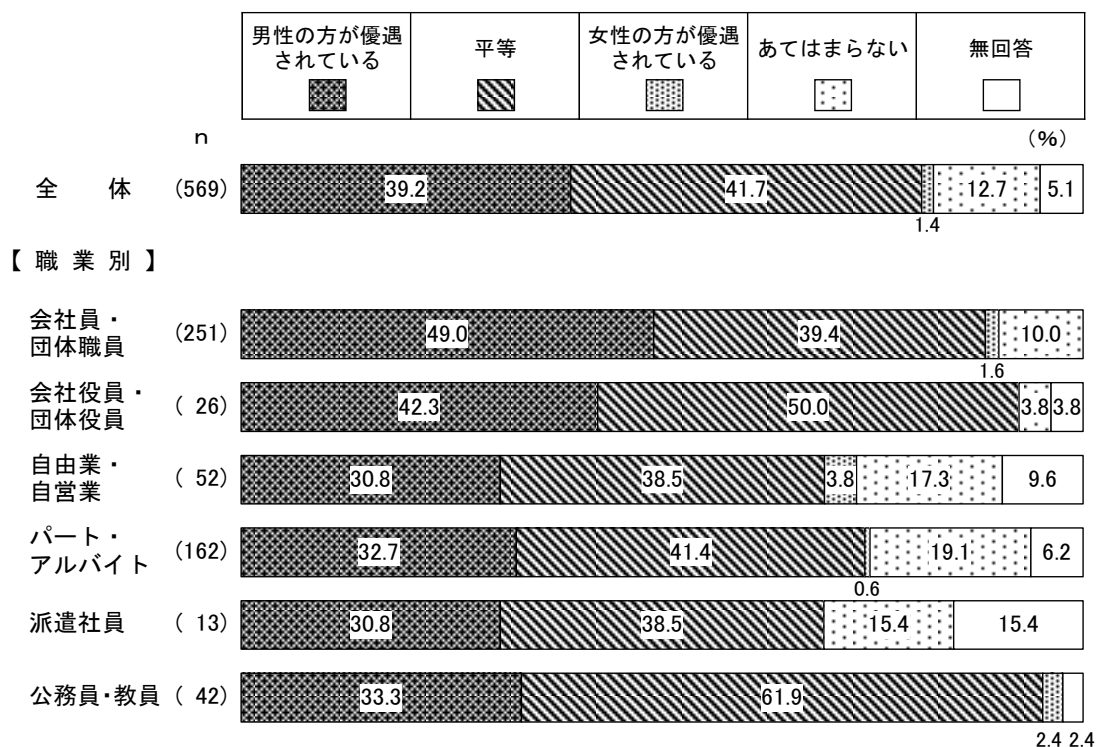
<性別／性・年齢別> ウ 昇進や昇格

「昇進や昇格」について性・年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」は女性18～29歳で52.0%、男性60～69歳で50.7%と高くなっている。「平等」は男性18～29歳で59.4%、女性40～49歳で59.2%、男性50～59歳で53.6%と高くなっている。



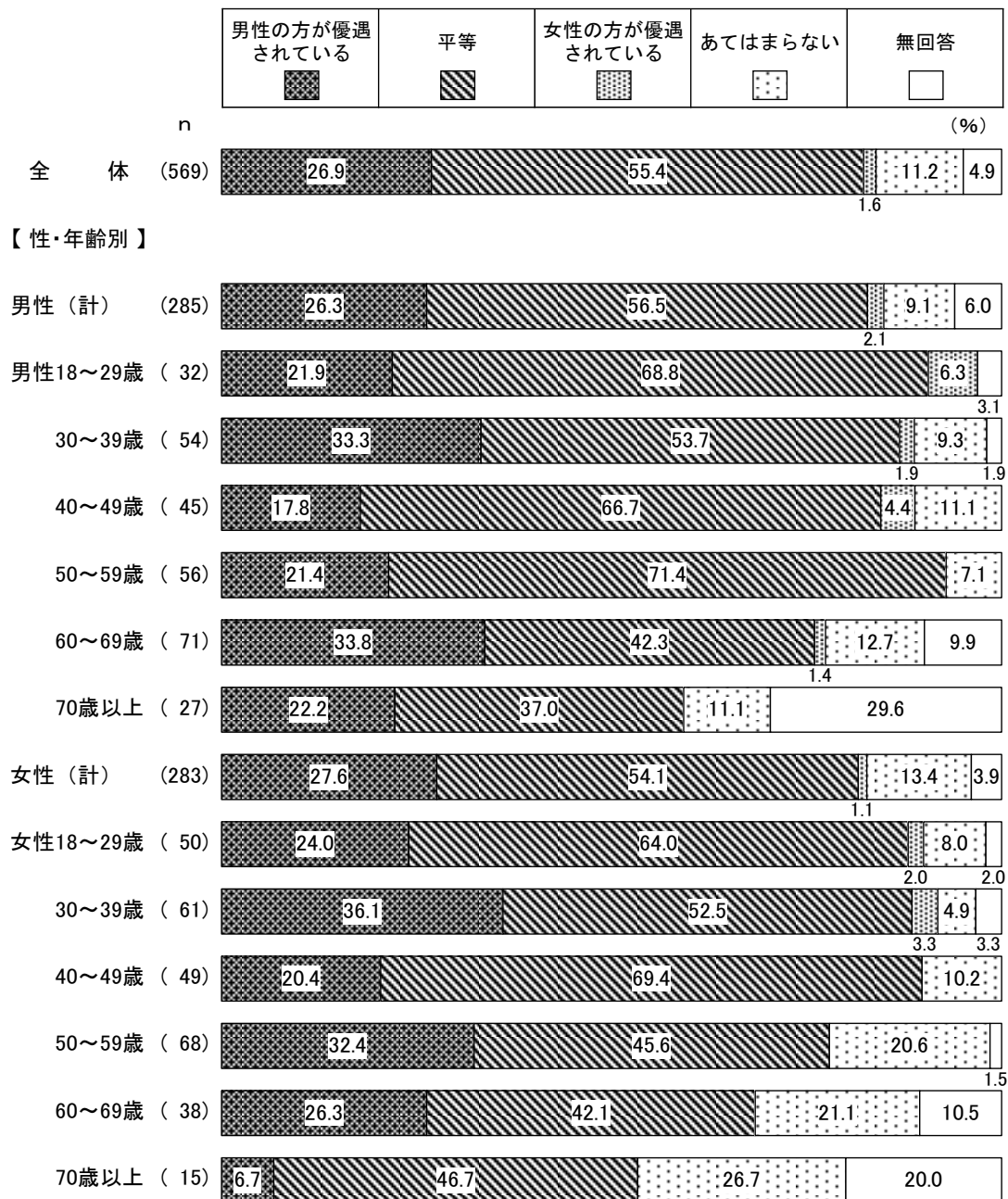
<職業別> ウ 昇進や昇格

「昇進や昇格」について職業別でみると、「男性の方が優遇されている」は会社員・団体職員で49.0%、会社役員・団体役員で42.3%と高くなっている。「平等」は公務員・教員で61.9%と高くなっている。



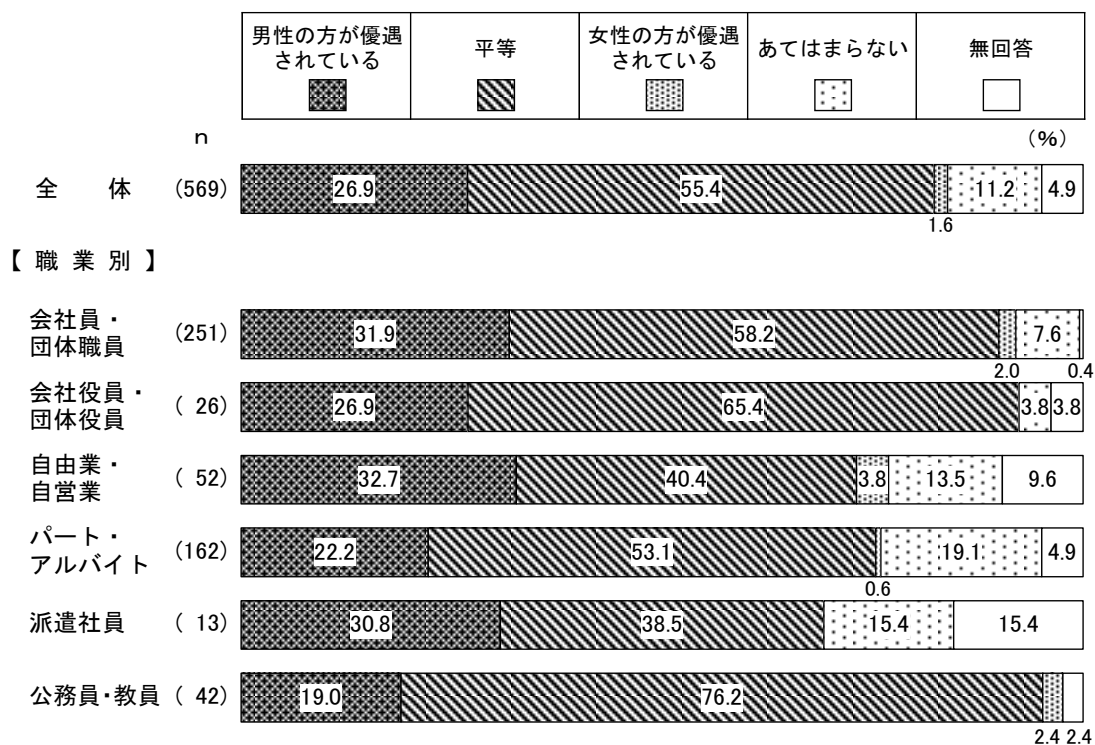
<性別／性・年齢別> エ 能力評価

「能力評価」について性・年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」は女性30～39歳で36.1%と高くなっている。「平等」は男性50～59歳で71.4%、女性40～49歳で69.4%、男性18～29歳で68.8%と高くなっている。



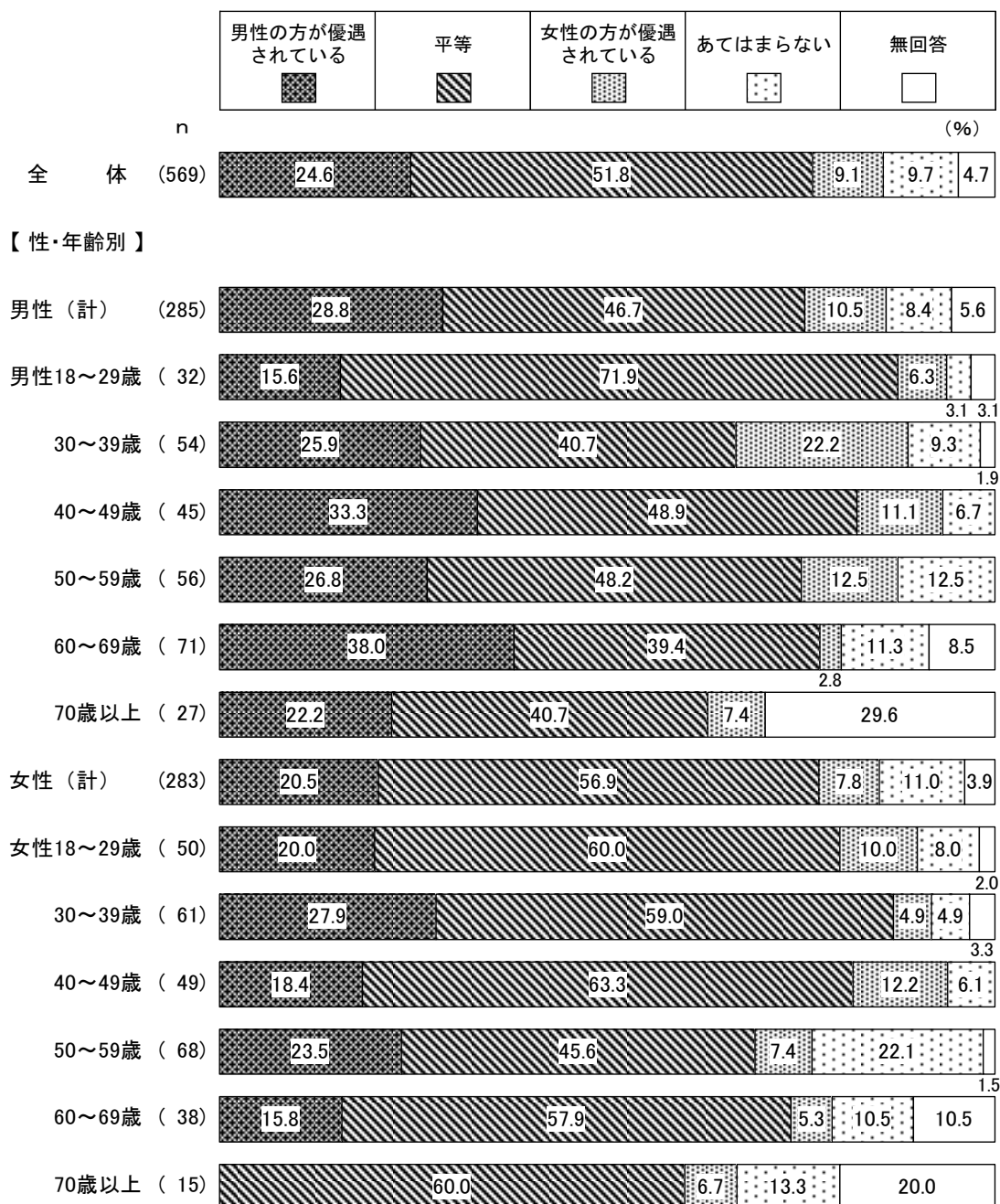
<職業別> エ 能力評価

「能力評価」について職業別でみると、「男性の方が優遇されている」は自由業・自営業で32.7%、会社員・団体職員で31.9%と高くなっている。「平等」は公務員・教員で76.2%、会社役員・団体役員で65.4%と高くなっている。



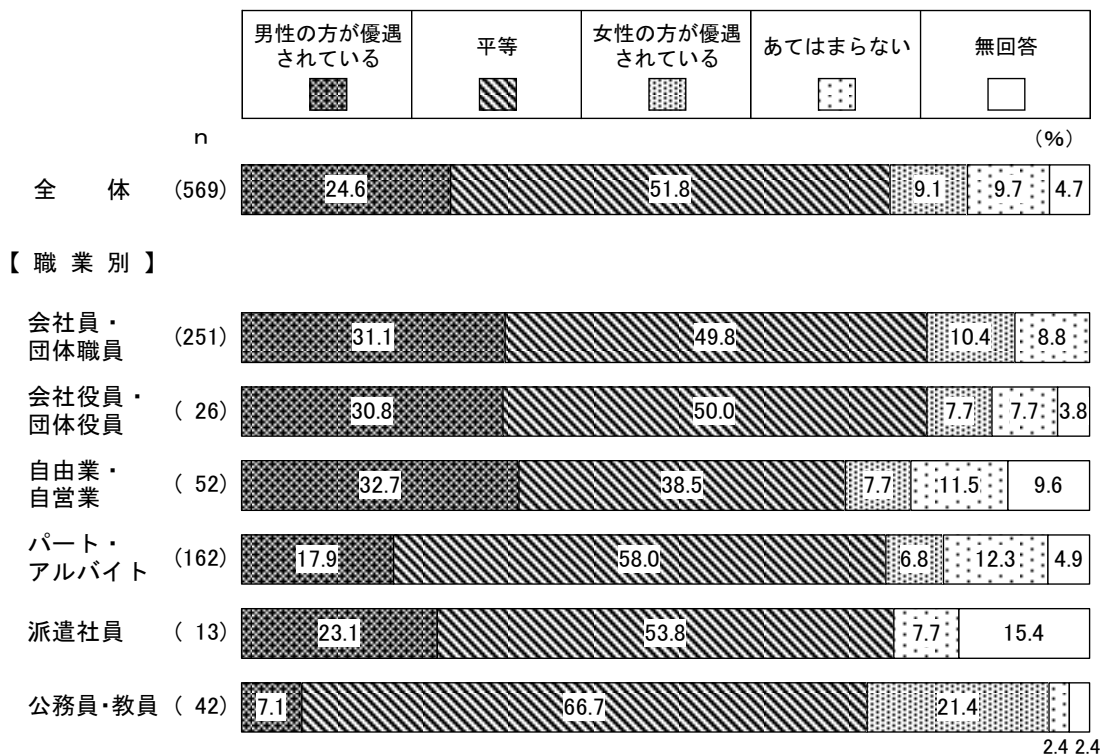
<性別／性・年齢別> オ 仕事の内容

「仕事の内容」について性・年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性60～69歳で38.0%、男性40～49歳で33.3%と高くなっている。「平等」は男性18～29歳で71.9%と高くなっている。「女性の方が優遇されている」は男性30～39歳で22.2%と高くなっている。



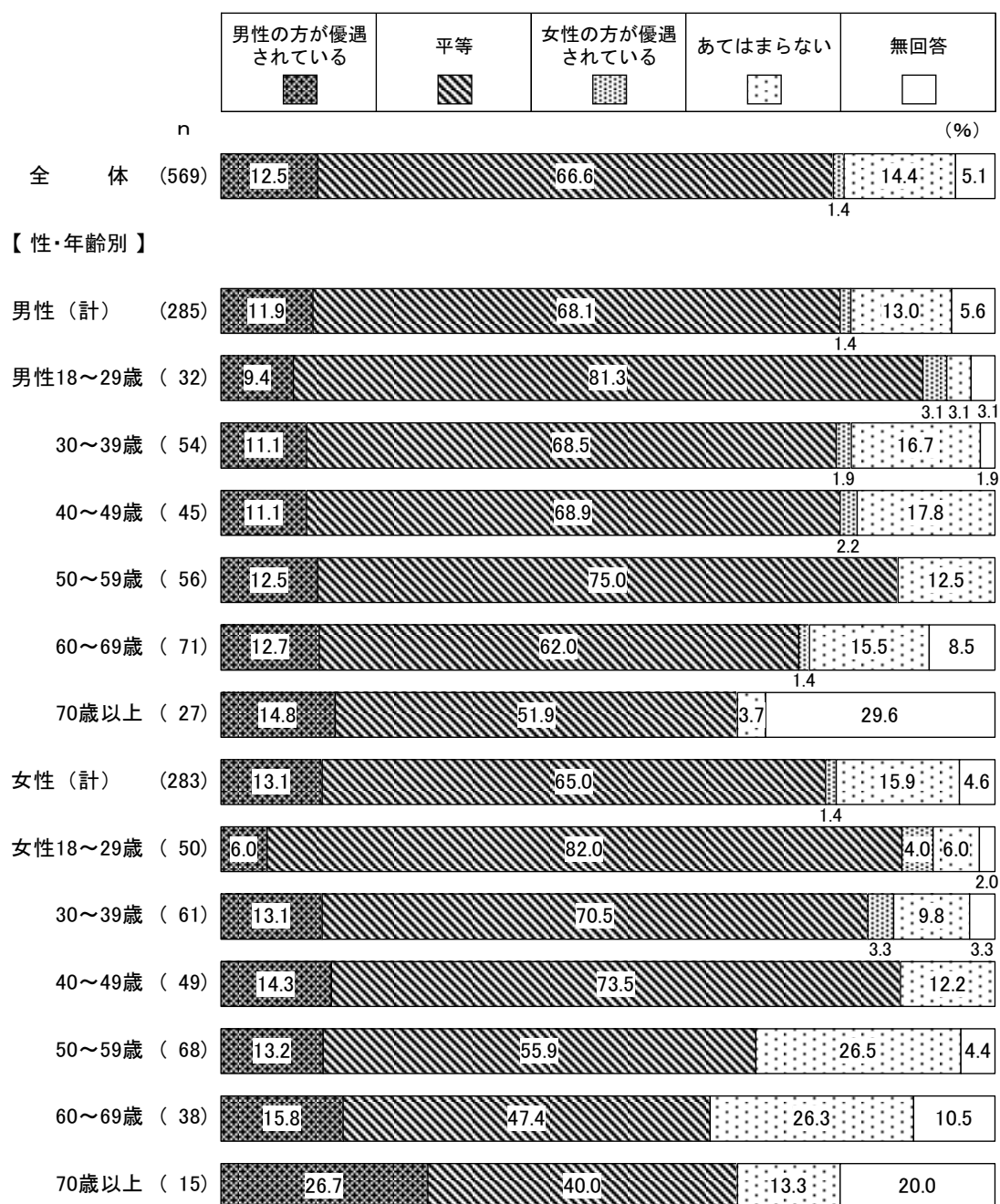
<職業別> オ 仕事の内容

「仕事の内容」について職業別でみると、「男性の方が優遇されている」は自由業・自営業で32.7%、会社員・団体職員で31.1%、会社役員・団体役員で30.8%と高くなっている。「平等」は公務員・教員で66.7%、パート・アルバイトで58.0%と高くなっている。「女性の方が優遇されている」は公務員・教員で21.4%と高くなっている。「あてはまらない」はパート・アルバイトで12.3%と高くなっている。「無回答」はパート・アルバイトで4.9%と高くなっている。



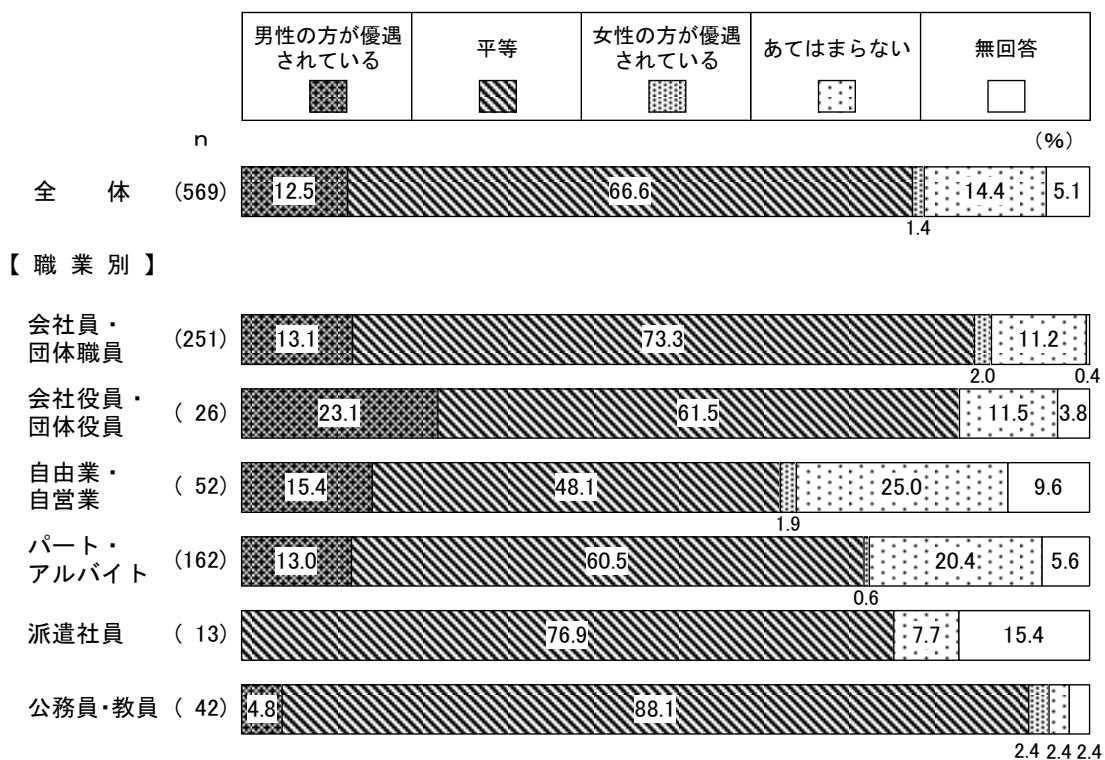
<性別／性・年齢別> カ 教育・研修の機会や内容

「教育・研修の機会や内容」について性・年齢別でみると、「平等」は女性18～29歳で82.0%、男性18～29歳で81.3%と高くなっている。



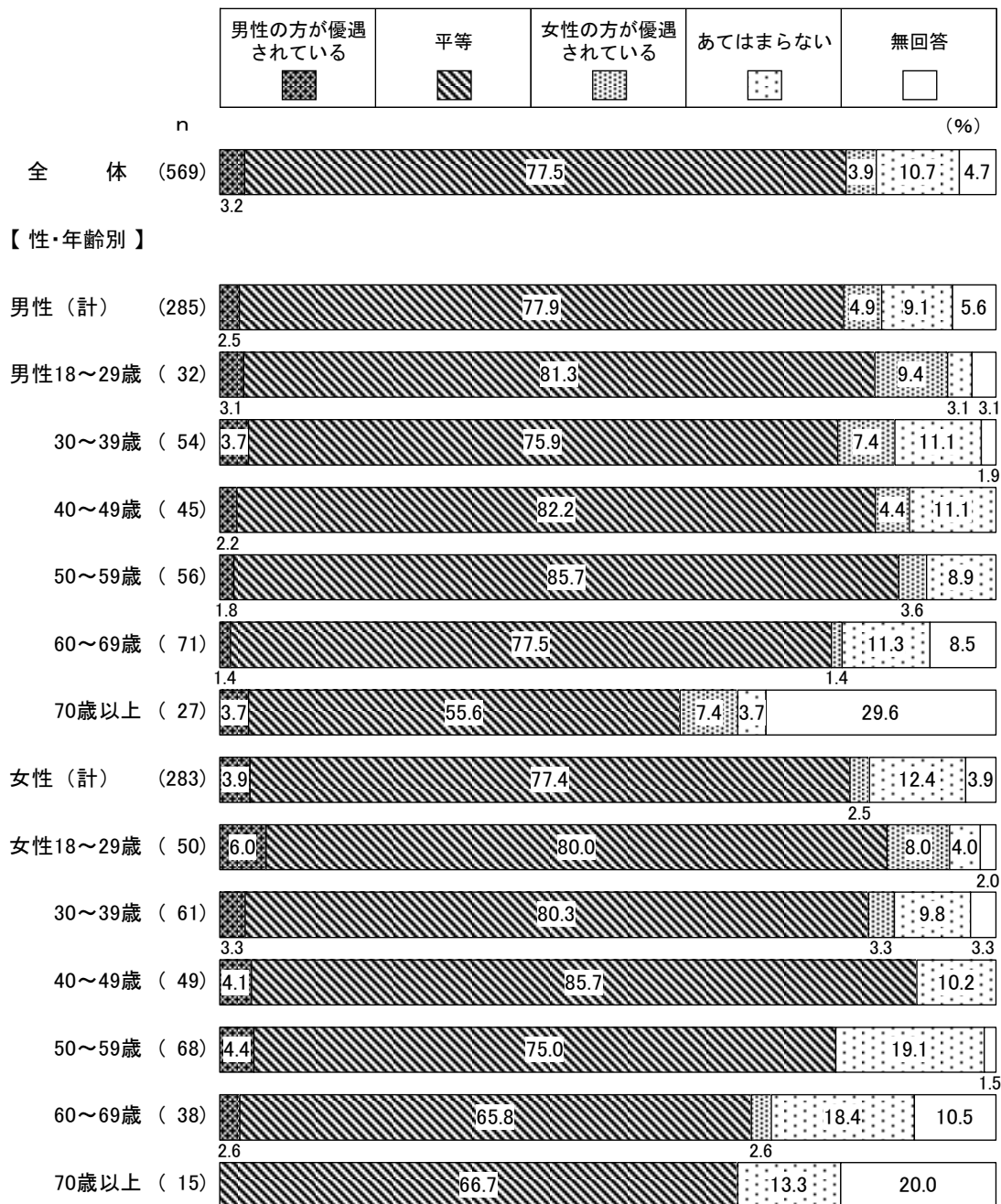
<職業別> カ 教育・研修の機会や内容

「教育・研修の機会や内容」について職業別でみると、「男性の方が優遇されている」は会社役員・団体役員で23.1%と高くなっている。「平等」は公務員・教員で88.1%と高くなっている。



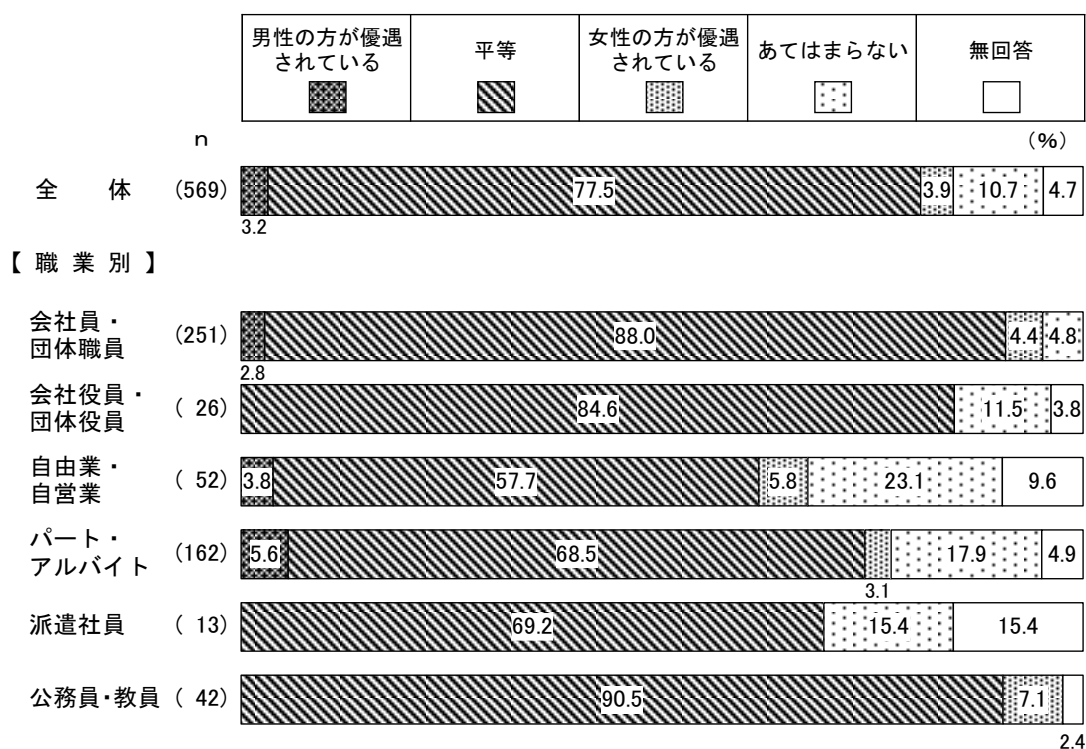
<性別／性・年齢別> キ 福利厚生

「福利厚生」について性・年齢別でみると、「平等」は男性50～59歳と女性40～49歳でともに85.7%と高くなっている。「女性の方が優遇されている」は男性18～29歳で9.4%、女性18～29歳で8.0%と高くなっている。



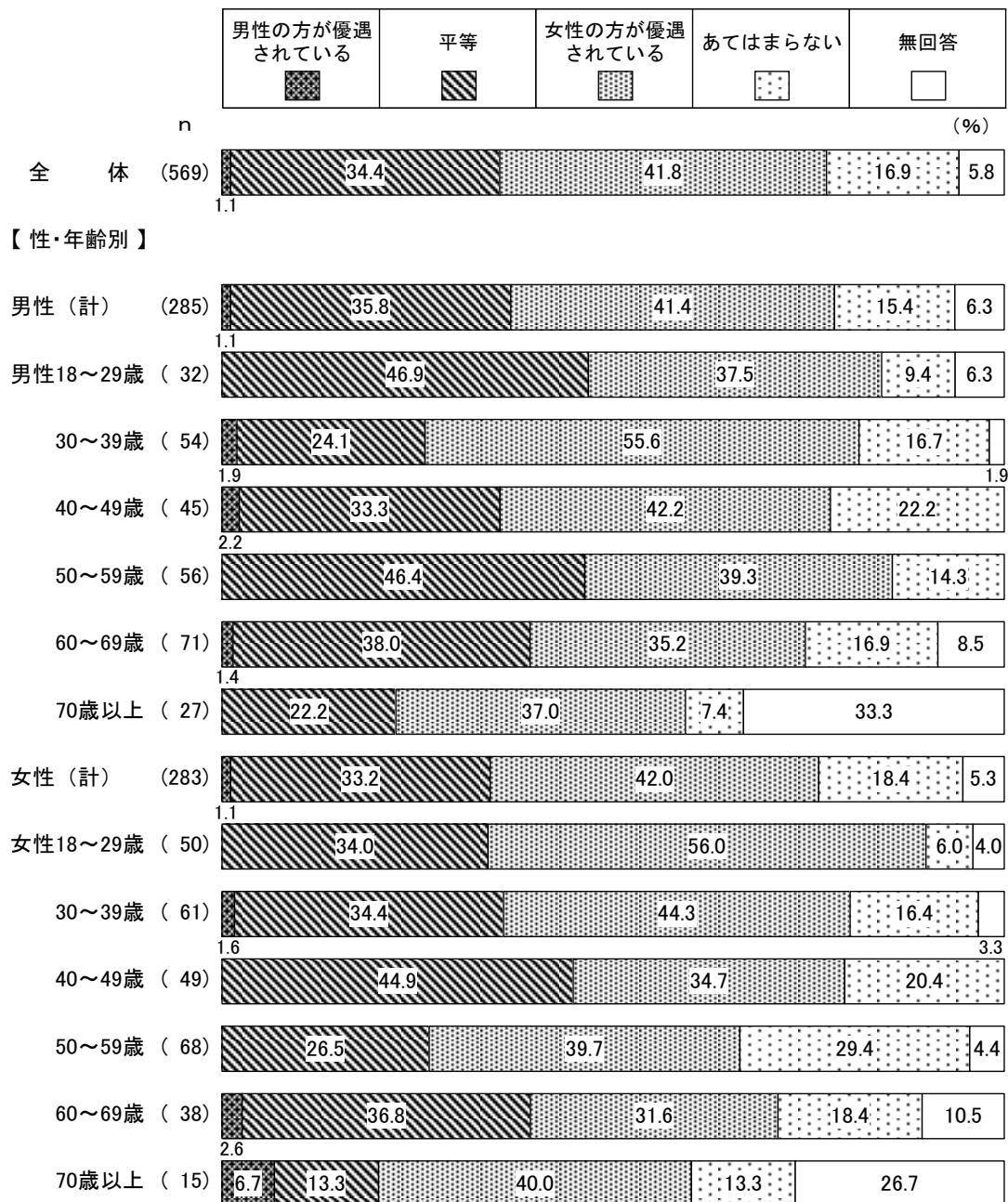
<職業別> キ 福利厚生

「福利厚生」について職業別でみると、「平等」は公務員・教員で90.5%、会社員・団体職員で88.0%と高くなっている。



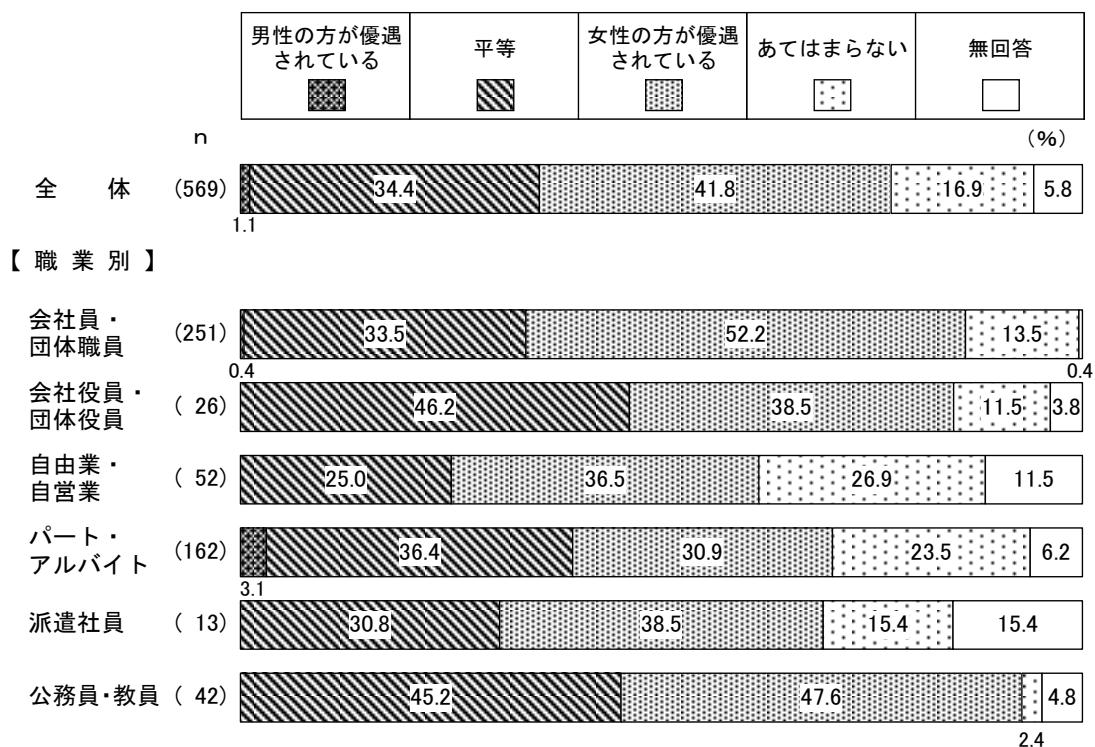
<性別／性・年齢別> ク 育児休業等の休暇の取得しやすさ

「育児休業等の休暇の取得しやすさ」について性・年齢別でみると、「平等」は男性18～29歳で46.9%、男性50～59歳で46.4%、女性40～49歳で44.9%と高くなっている。「女性の方が優遇されている」は女性18～29歳で56.0%、男性30～39歳で55.6%と高くなっている。



<職業別> ク 育児休業等の休暇の取得しやすさ

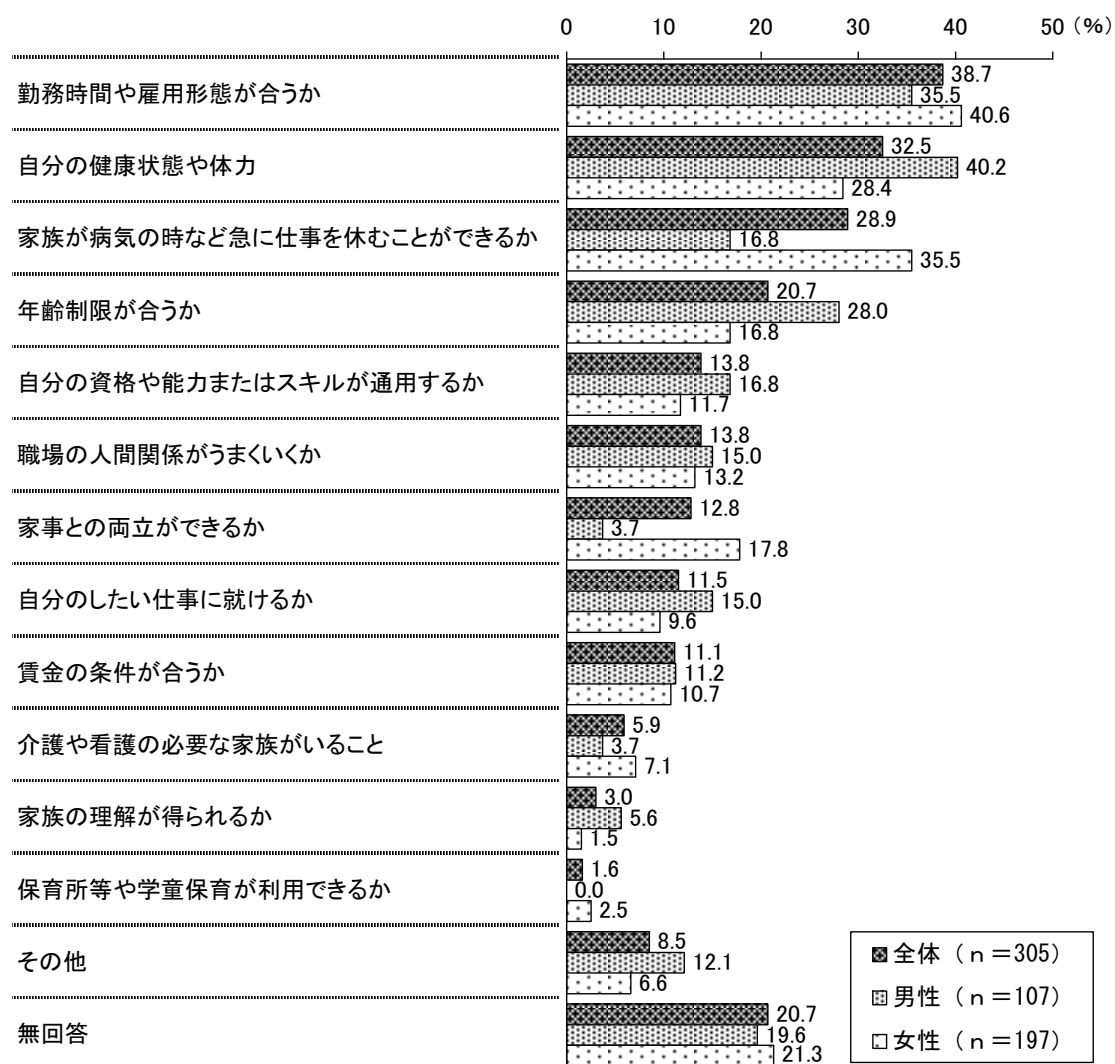
「育児休業等の休暇の取得しやすさ」について職業別でみると、「平等」は会社役員・団体役員で46.2%、公務員・教員で45.2%と高くなっている。「女性の方が優遇されている」は会社員・団体職員で52.2%、公務員・教員で47.6%と高くなっている。



（４）働きたいと思ったときに気がかりなこと

＜現在働いていない方におうかがいします。＞

問９ 今後働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか。（回答は、３つ以内）



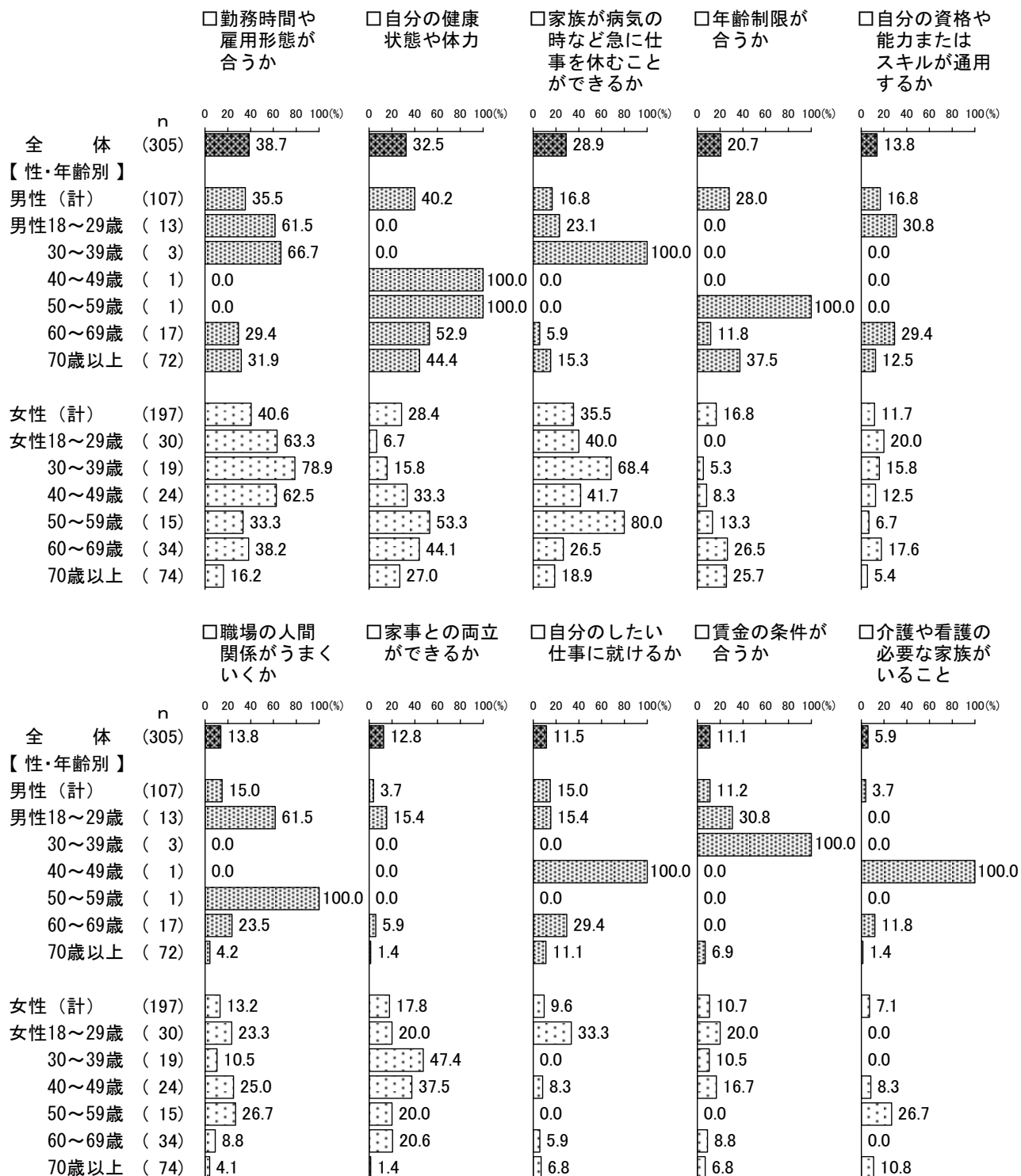
＜全体／性別＞

今後働きたいと思ったときに気がかりなことを聞いたところ、全体では、「勤務時間や雇用形態が合うか」が38.7%で最も高く、次いで「自分の健康状態や体力」(32.5%)、「家族が病気の時など急に仕事を休むことができるか」(28.9%)、「年齢制限が合うか」(20.7%)となっている。

性別でみると、「家族が病気の時など急に仕事を休むことができるか」は女性(35.5%)が男性(16.8%)より18.7ポイント、「家事との両立ができるか」は女性(17.8%)が男性(3.7%)より14.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「自分の健康状態や体力」は男性(40.2%)が女性(28.4%)より11.8ポイント、「年齢制限が合うか」は男性(28.0%)が女性(16.8%)より11.2ポイント、それぞれ高くなっている。

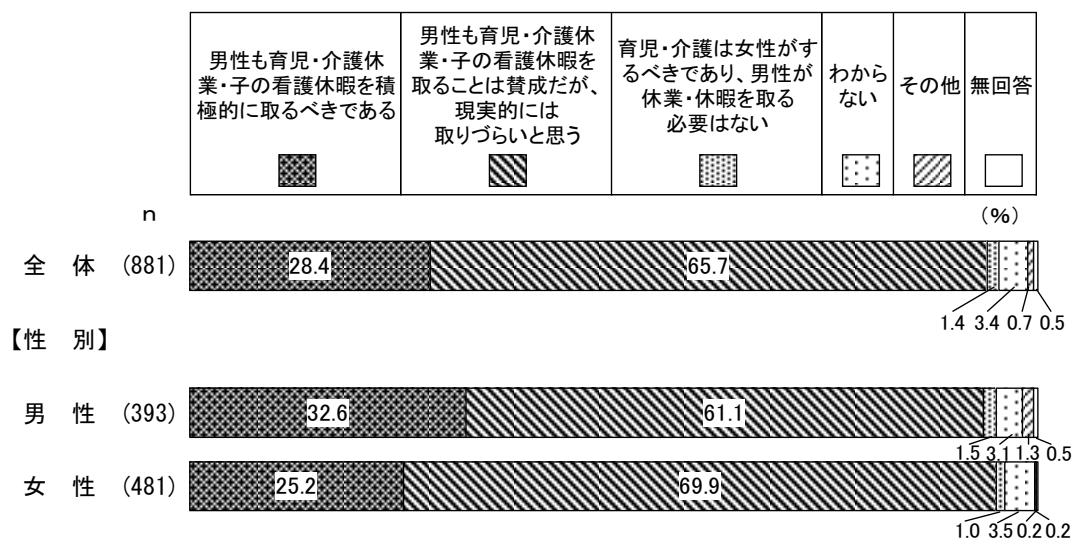
<性・年齢別>（上位10項目）

性・年齢別でみると、「勤務時間や雇用形態が合うか」は女性18～29歳で63.3%、女性40～49歳で62.5%と高くなっている。「自分の健康状態や体力」は男性70歳以上で44.4%、女性60～69歳で44.1%と高くなっている。



（５）育児・介護休業等の制度の活用

問10 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇等の休業や休暇を取得できる制度があります。男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。（回答は、１つだけ）



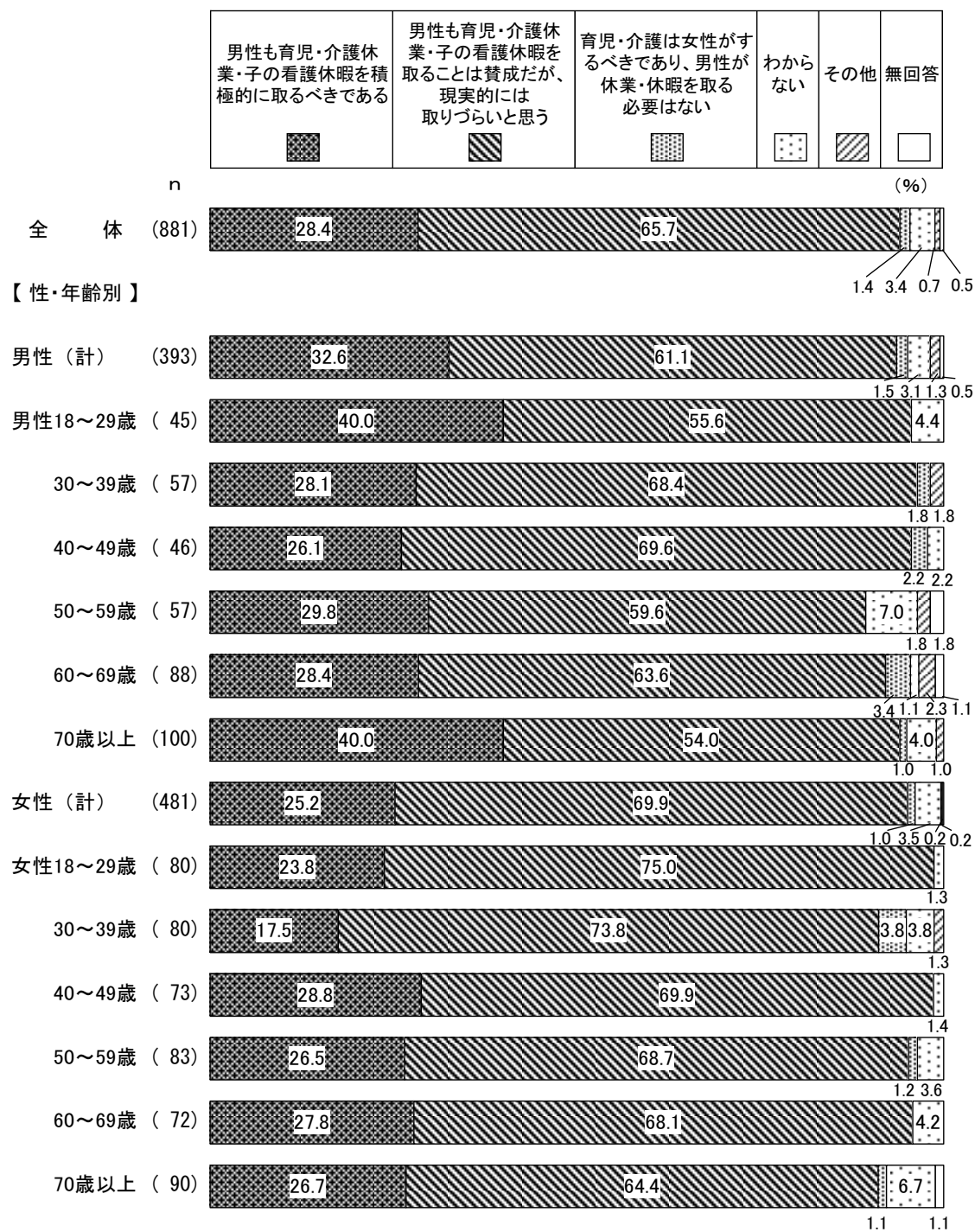
＜全体／性別＞

男性が育児・介護休業等の制度を活用することについて聞いたところ、全体では、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が65.7%で最も高く、次いで「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」（28.4%）となっている。

性別でみると、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」は女性（69.9%）が男性（61.1%）より8.8ポイント高くなっている。一方、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」は男性（32.6%）が女性（25.2%）より7.4ポイント高くなっている。

<性・年齢別>

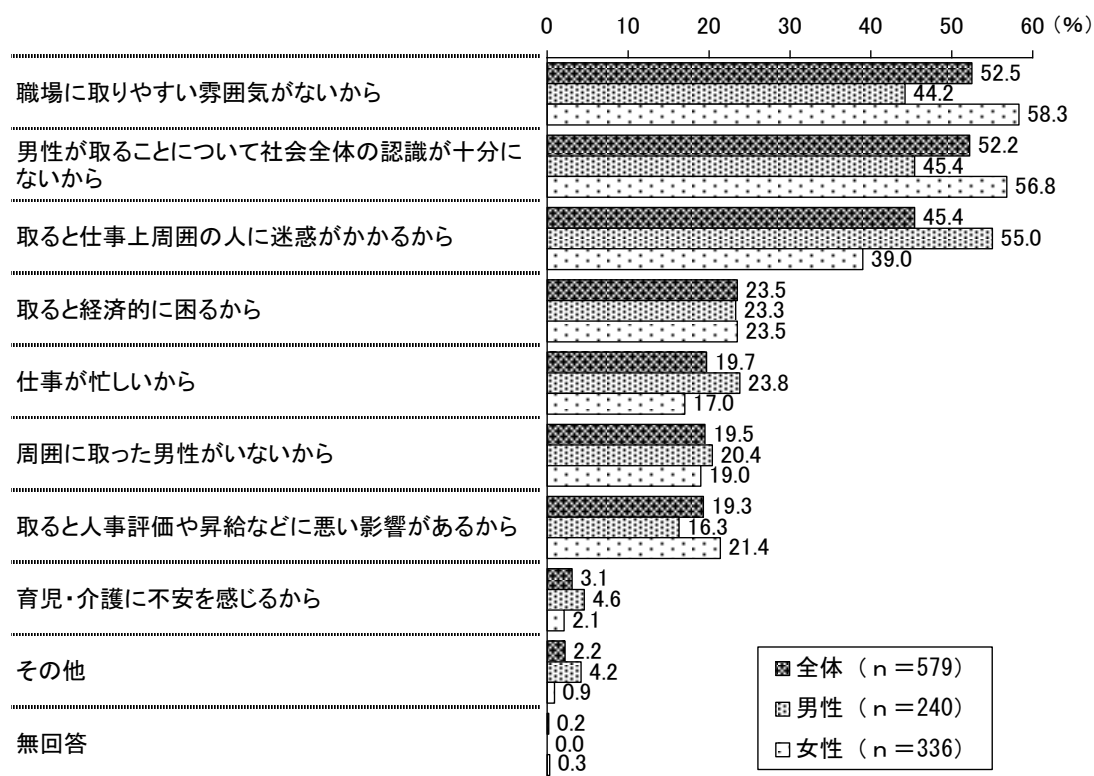
性・年齢別でみると、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」は男性18～29歳と男性70歳以上でともに40.0%と高くなっている。「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」は女性18～29歳で75.0%、女性30～39歳で73.8%と高くなっている。



（６）育児・介護休業等を取得しづらい理由

＜問10で「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と回答した方におうかがいします。＞

問10－１ その理由は何だと思えますか。（回答は、３つ以内）



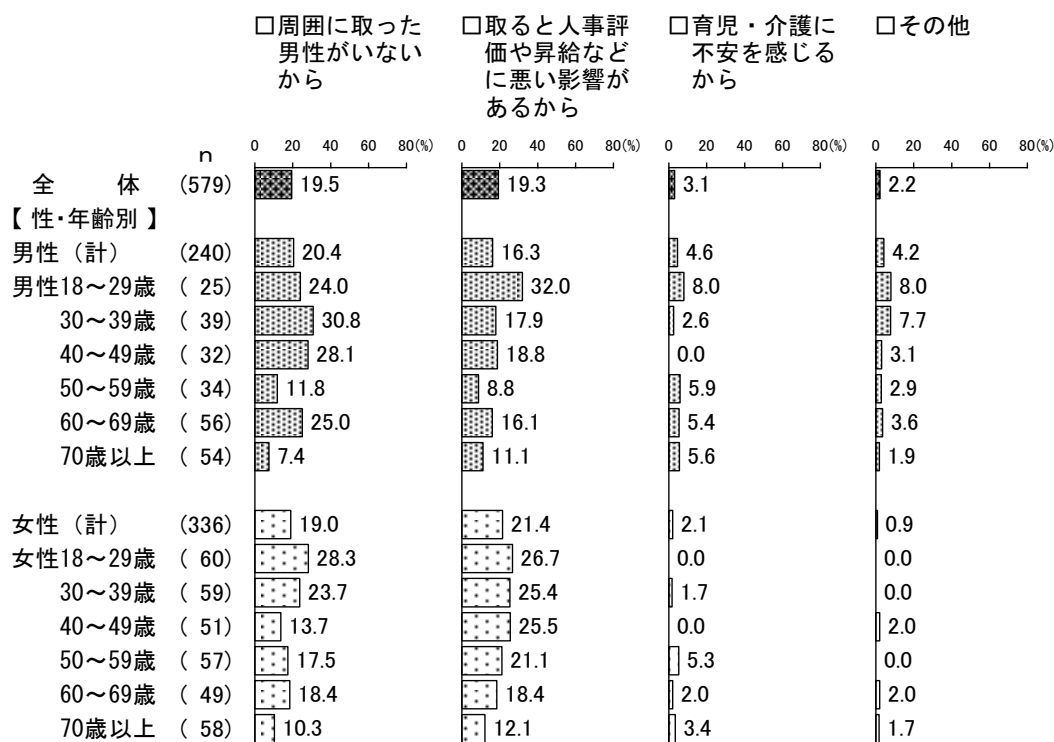
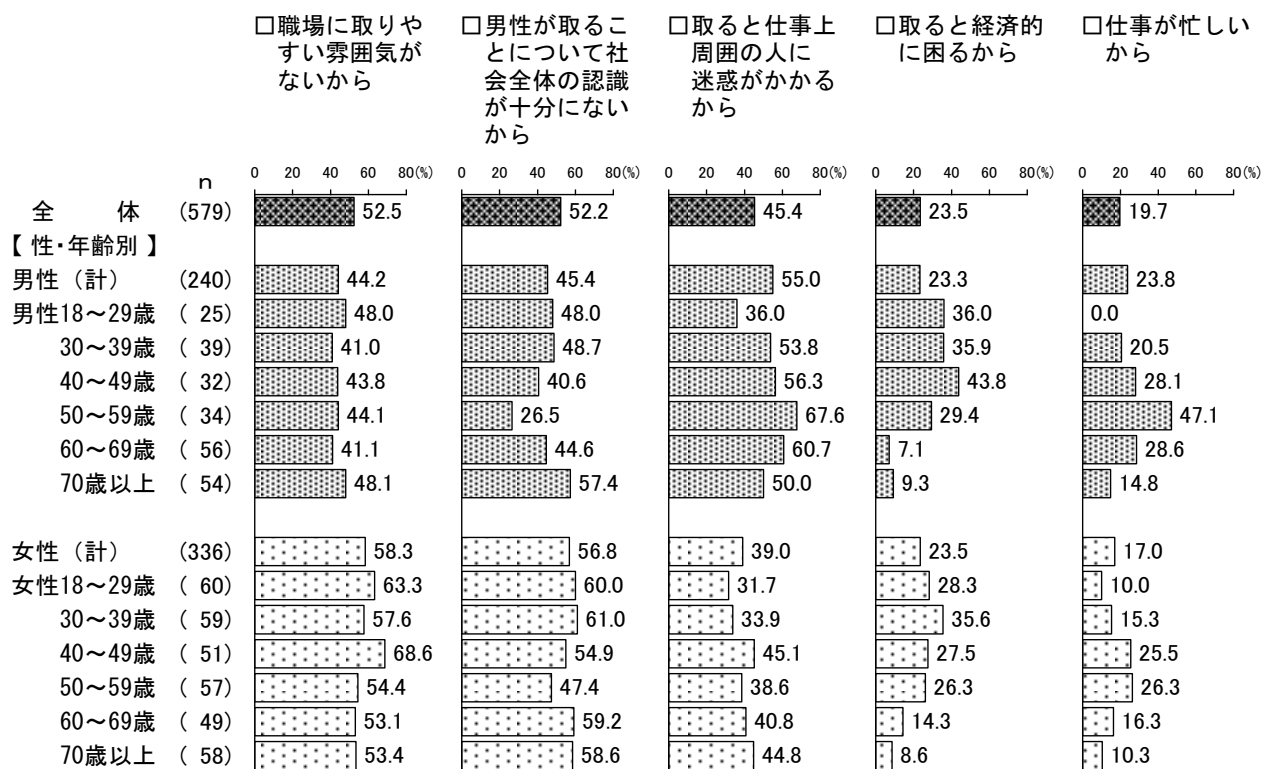
＜全体／性別＞

育児・介護休業等を取得しづらい理由を聞いたところ、全体では、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が52.5%で最も高く、次いで「男性が取ることに社会全体の認識が十分でないから」(52.2%)、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」(45.4%)、「取ると経済的に困るから」(23.5%)となっている。

性別でみると、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は男性(55.0%)が女性(39.0%)より16.0ポイント高くなっている。一方、「職場に取りやすい雰囲気がないから」は女性(58.3%)が男性(44.2%)より14.1ポイント、「男性が取ることに社会全体の認識が十分でないから」は女性(56.8%)が男性(45.4%)より11.4ポイント、それぞれ高くなっている。

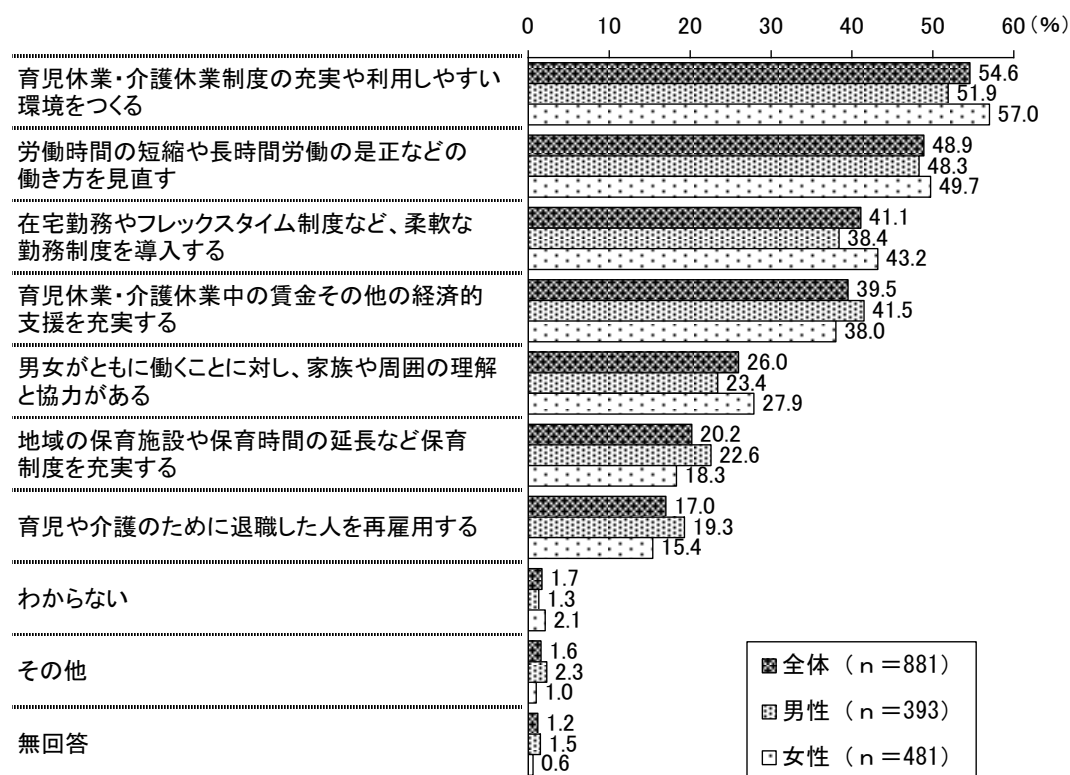
<性・年齢別>

性・年齢別でみると、「職場に取りやすい雰囲気がないから」は女性40～49歳で68.6%、女性18～29歳で63.3%と高くなっている。「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は男性50～59歳で67.6%と高くなっている。「仕事が忙しいから」は男性50～59歳で47.1%と高くなっている。



(7) 仕事と家庭を両立するために必要な条件

問11 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(回答は、3つ以内)



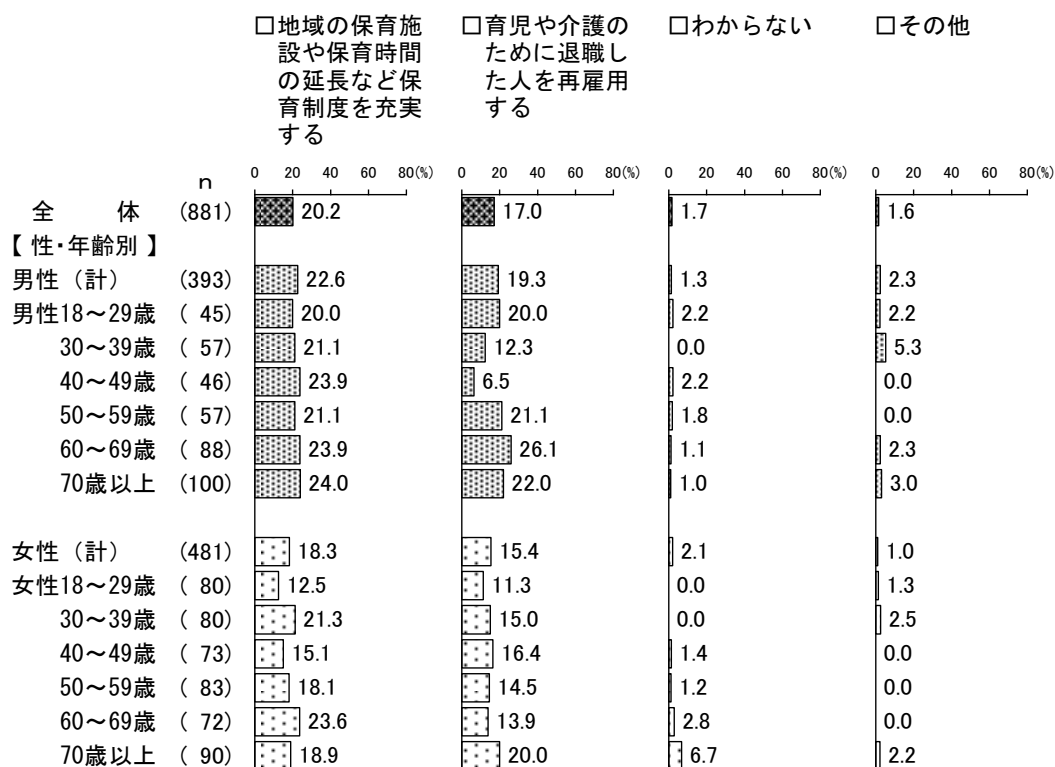
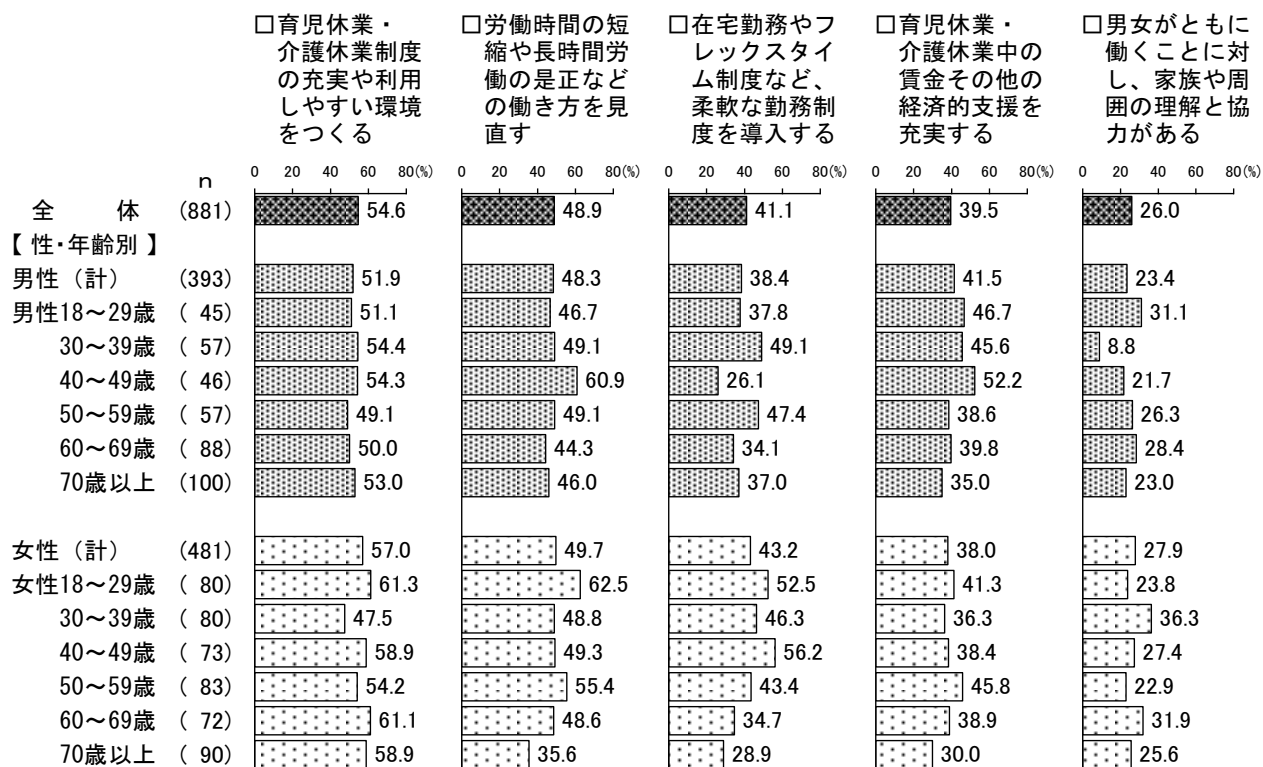
<全体／性別>

男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要か聞いたところ、全体では、「育児休業・介護休業制度の充実や利用しやすい環境をつくる」が54.6%で最も高く、次いで「労働時間の短縮や長時間労働の是正などの働き方を見直す」(48.9%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」(41.1%)、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」(39.5%)となっている。

性別でみると、「育児休業・介護休業制度の充実や利用しやすい環境をつくる」は女性(57.0%)が男性(51.9%)より5.1ポイント、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」は女性(43.2%)が男性(38.4%)より4.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する」は男性(22.6%)が女性(18.3%)より4.3ポイント高くなっている。

<性・年齢別>

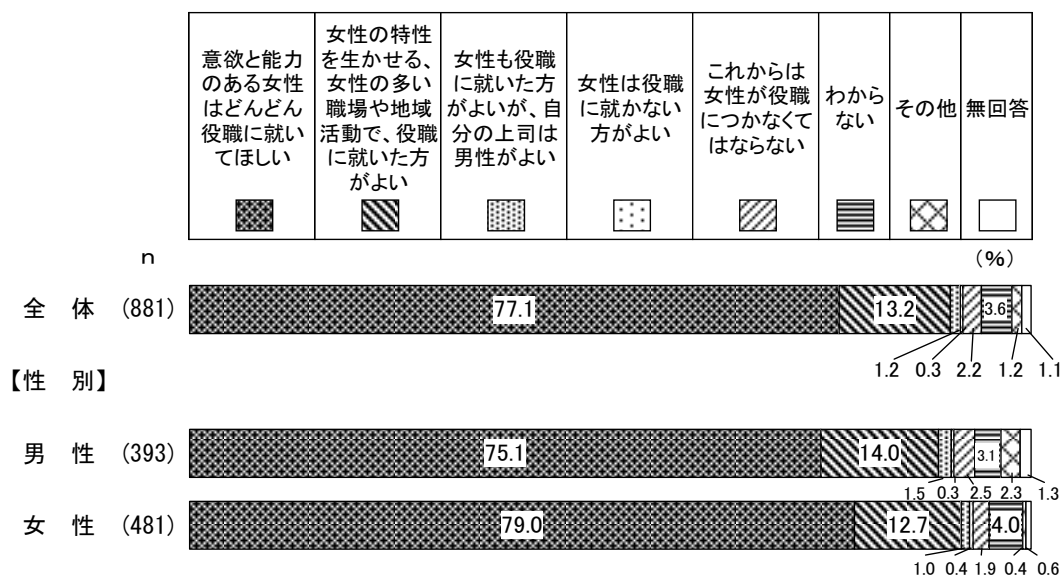
性・年齢別でみると、「労働時間の短縮や長時間労働の是正などの働き方を見直す」は女性18～29歳で62.5%、男性40～49歳で60.9%と高くなっている。「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」は女性40～49歳で56.2%と高くなっている。「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」は男性40～49歳で52.2%と高くなっている。



4. 社会参画について

(1) 政策方針を決定する役職に女性が就くこと

問12 行政や企業の管理職、審議会委員、自治会長など政策・方針を決定する役職に女性が就くことについて、どのように思いますか。(回答は、1つだけ)



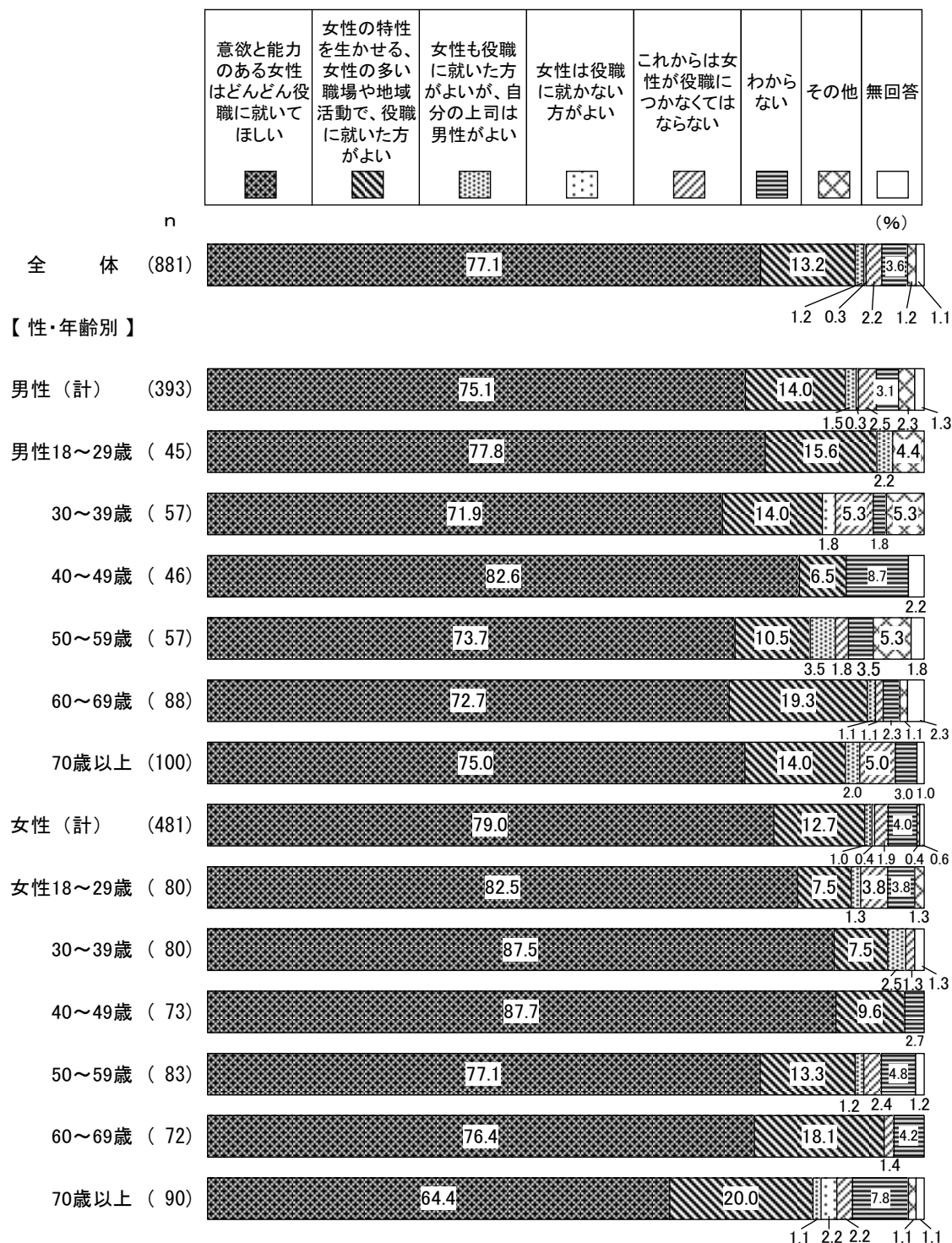
<全体／性別>

政策・方針を決定する役職に女性が就くことについて聞いたところ、全体では、「意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい」が77.1%で最も高く、次いで「女性の特性を生かせる、女性の多い職場や地域活動で、役職に就いた方がよい」(13.2%)となっている。

性別でみると、「意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい」は女性(79.0%)が男性(75.1%)より3.9ポイント高くなっている。

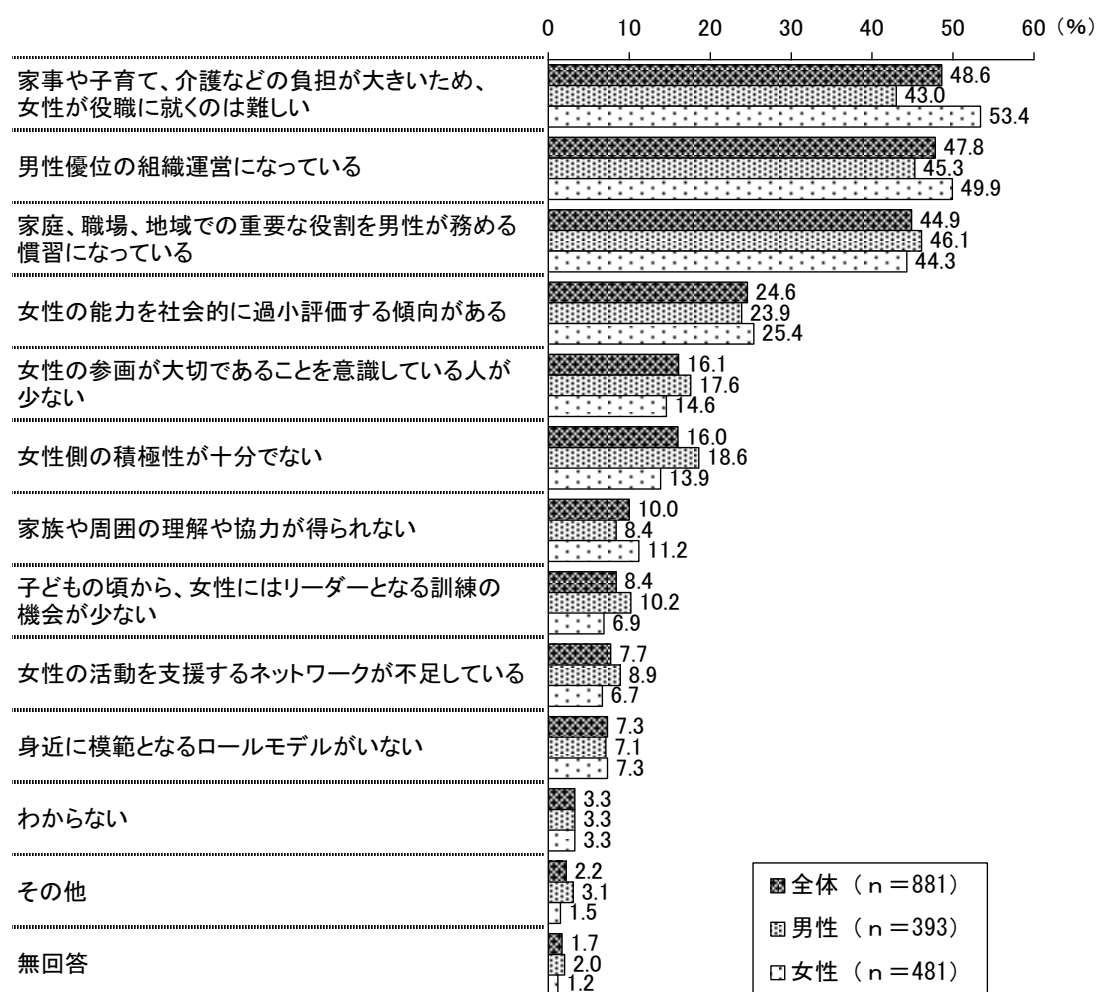
<性・年齢別>

性・年齢別でみると、「意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい」は女性40～49歳で87.7%、女性30～39歳で87.5%と高くなっている。「女性の特性を生かせる、女性の多い職場や地域活動で、役職に就いた方がよい」は女性70歳以上で20.0%と高くなっている。



（２）政策方針を決定する場に占める女性の割合が低い理由

問13 政策・方針を決定する場に占める女性の割合は依然として低くなっています。その理由は何だと思いませんか。（回答は、3つ以内）



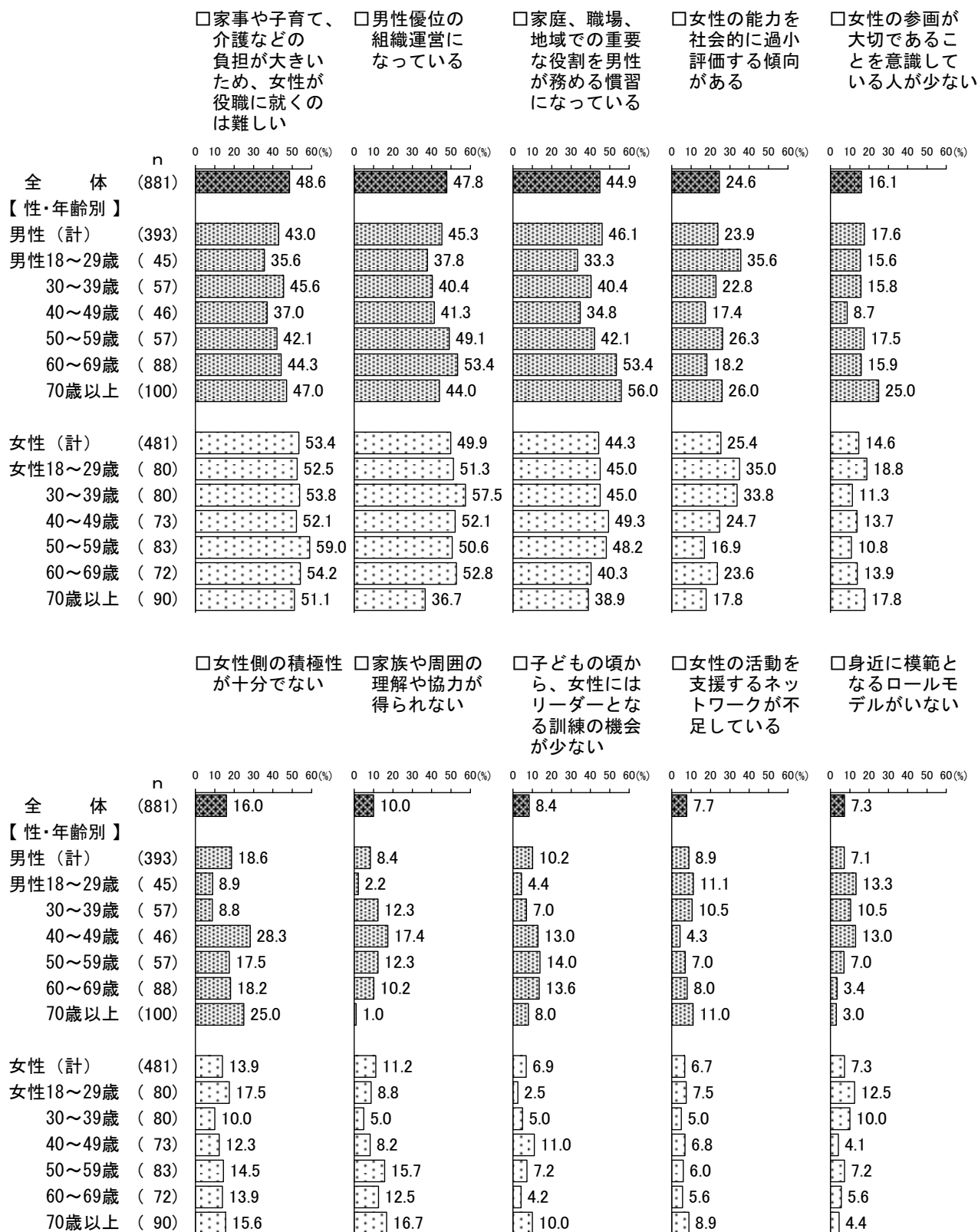
＜全体／性別＞

政策・方針を決定する場に占める女性の割合が低い理由を聞いたところ、全体では、「家事や子育て、介護などの負担が大きい、女性が役職に就くのは難しい」が48.6%で最も高く、次いで「男性優位の組織運営になっている」(47.8%)、「家庭、職場、地域での重要な役割を男性が務める慣習になっている」(44.9%)、「女性の能力を社会的に過小評価する傾向がある」(24.6%)となっている。

性別でみると、「家事や子育て、介護などの負担が大きい、女性が役職に就くのは難しい」は女性(53.4%)が男性(43.0%)より10.4ポイント、「男性優位の組織運営になっている」は女性(49.9%)が男性(45.3%)より4.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「女性側の積極性が十分でない」は男性(18.6%)が女性(13.9%)より4.7ポイント高くなっている。

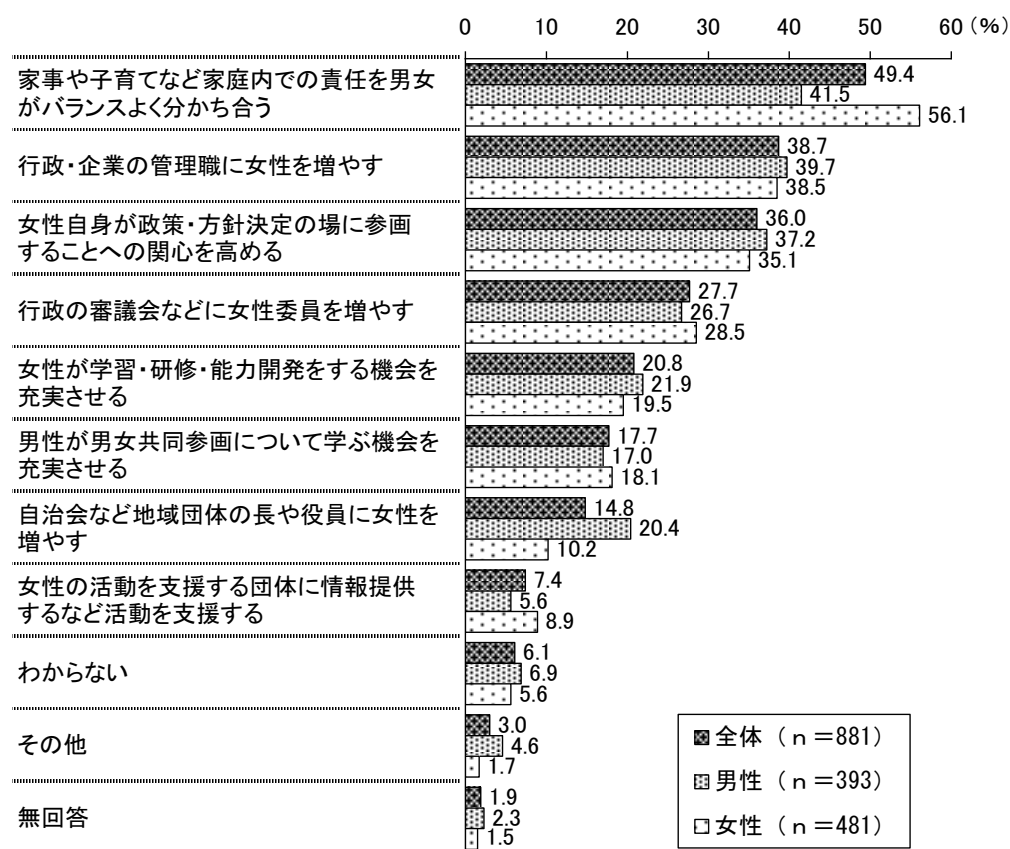
＜性・年齢別＞（上位10項目）

性・年齢別でみると、「家事や子育て、介護などの負担が大きい」と「女性」が「役職に就くのは難しい」は女性50～59歳で59.0%と高くなっている。「男性優位の組織運営になっている」は女性30～39歳で57.5%と高くなっている。「家庭、職場、地域での重要な役割を男性が務める慣習になっている」は男性70歳以上で56.0%、男性60～69歳で53.4%と高くなっている。



（３）女性が政策方針を決定する場に進出するために必要なこと

問14 女性が政策・方針を決定する場に進出するために、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は、3つ以内）



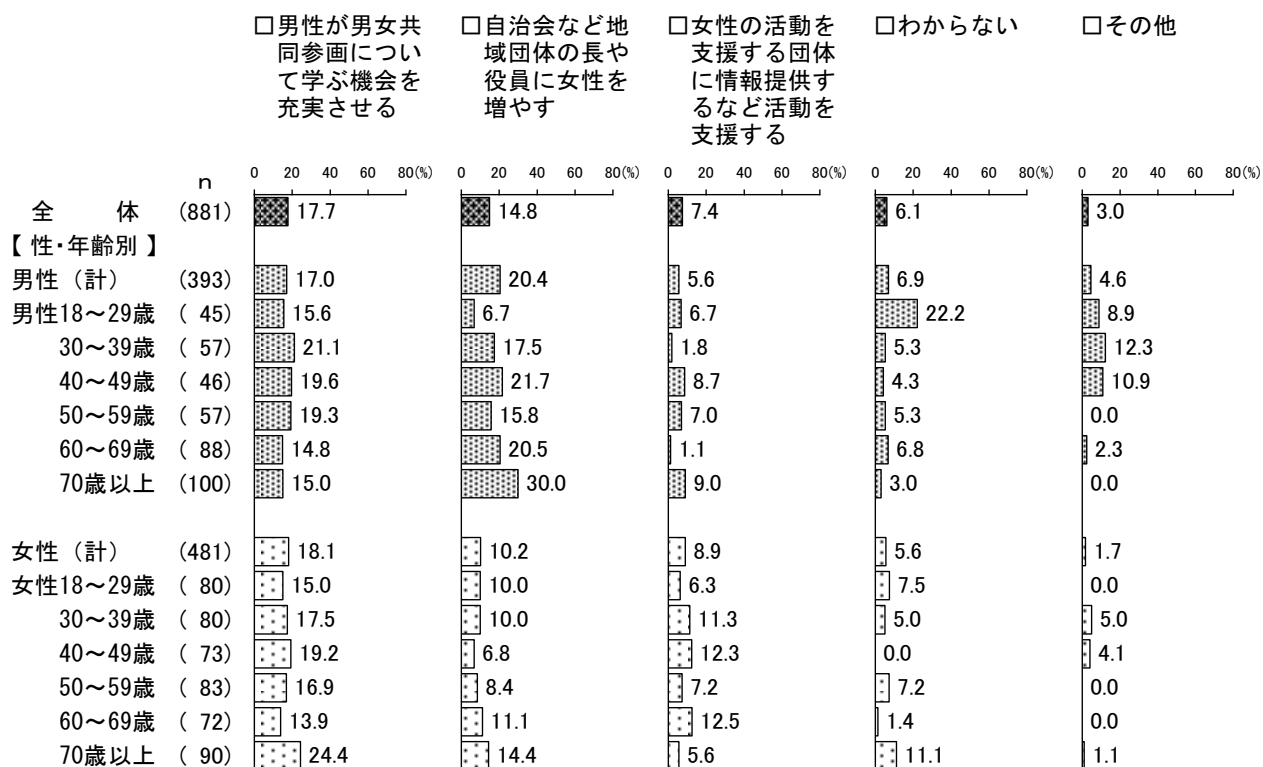
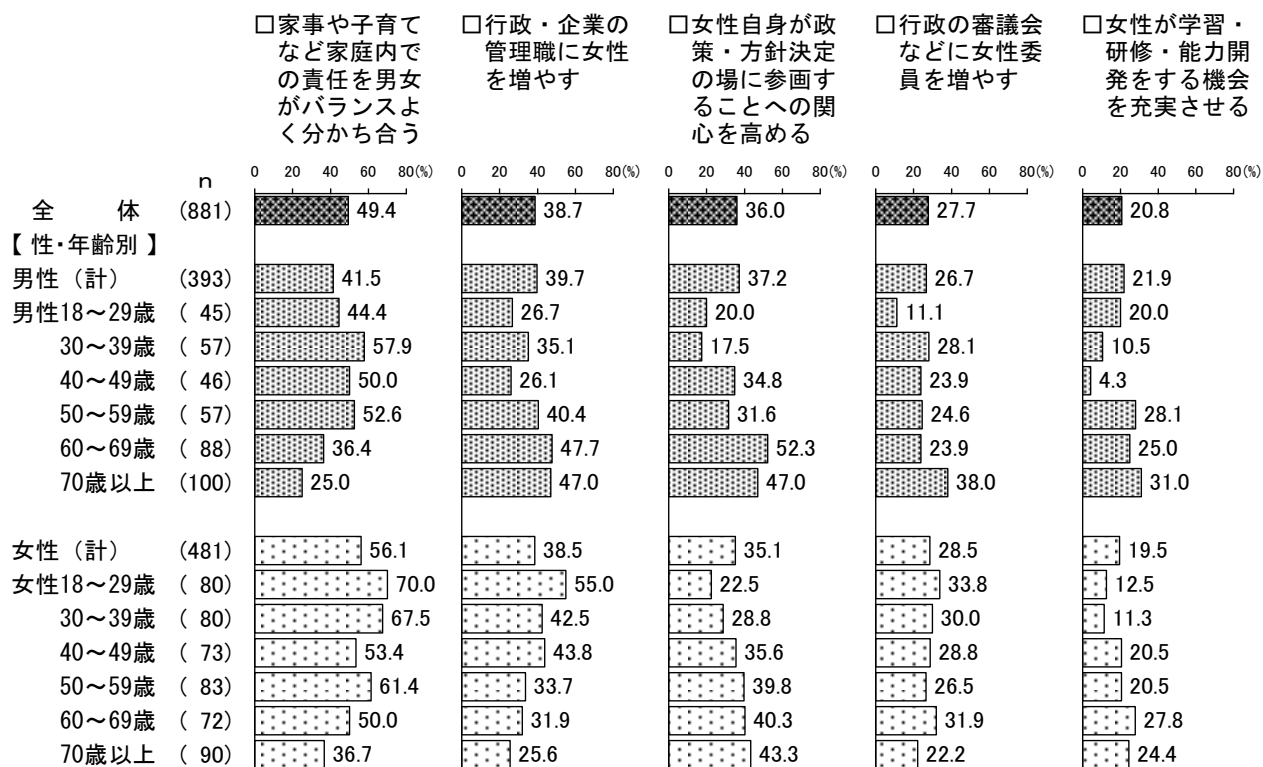
<全体／性別>

女性が政策・方針を決定する場に進出するために、どのようなことが必要か聞いたところ、全体では、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」が49.4%で最も高く、次いで「行政・企業の管理職に女性を増やす」（38.7%）、「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」（36.0%）、「行政の審議会などに女性委員を増やす」（27.7%）となっている。

性別でみると、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」は女性（56.1%）が男性（41.5%）より14.6ポイント高くなっている。一方、「自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす」は男性（20.4%）が女性（10.2%）より10.2ポイント高くなっている。

＜性・年齢別＞

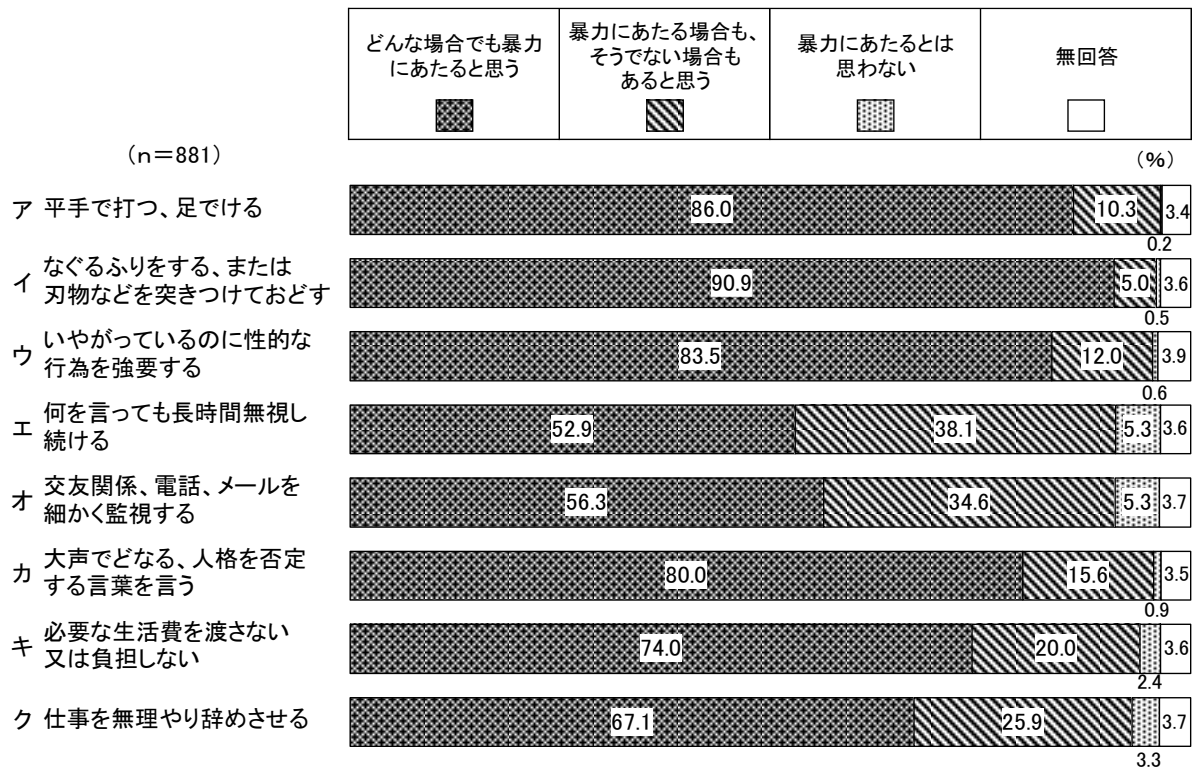
性・年齢別でみると、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」は女性18～29歳で70.0%、女性30～39歳で67.5%と高くなっている。「行政・企業の管理職に女性を増やす」は女性18～29歳で55.0%と高くなっている。「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」は男性60～69歳で52.3%と高くなっている。



5. 配偶者などに対する暴力について

(1) 配偶者間で行われた場合に暴力にあたるか

問15 次のようなことが配偶者や交際相手などの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。(回答は、アからクのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)



<全体>

配偶者間で行われた場合に暴力にあたるかを、8項目について聞いたところ、全ての項目で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が50%以上となった。中でも“なぐるふりをする、または刃物などを突きつけておどす”が90.9%で最も高く、次いで“平手で打つ、足でける”(86.0%)、“いやがっているのに性的な行為を強要する”(83.5%)となっている。

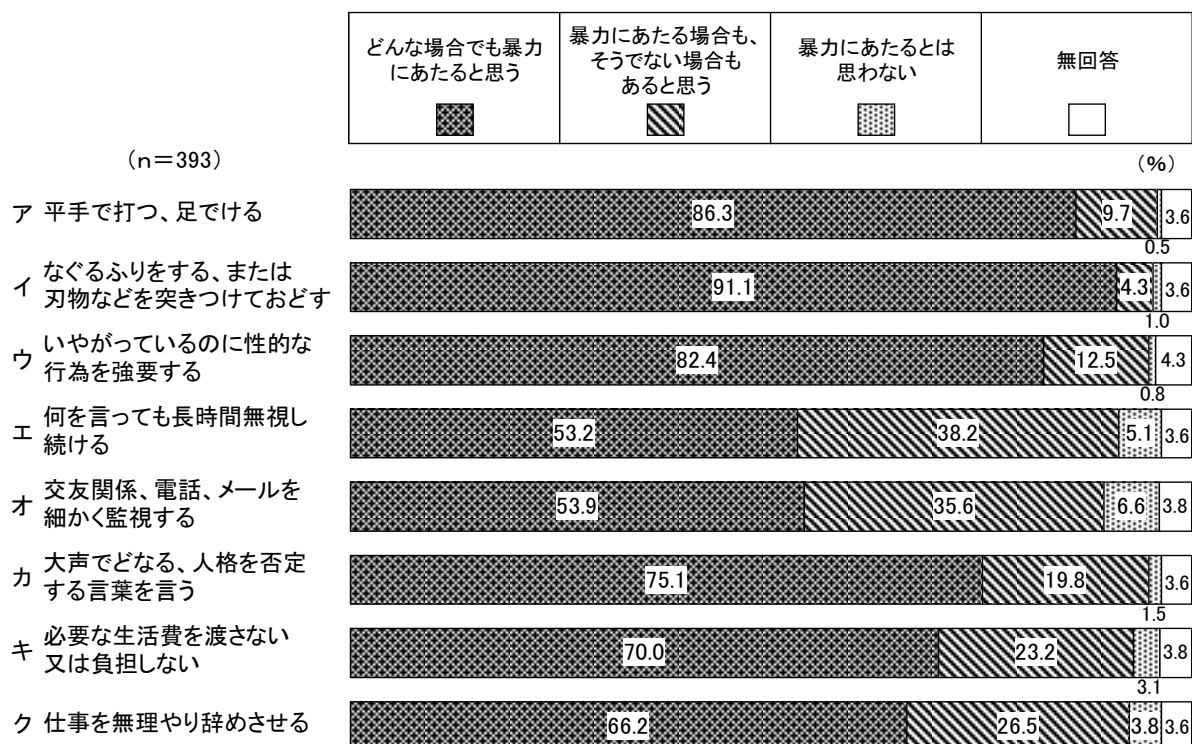
一方、「暴力にあたるとは思わない」は“何を言っても長時間無視し続ける”と“交友関係、電話、メールを細かく監視する”でともに5.3%となっている。

また、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は“何を言っても長時間無視し続ける”が38.1%で最も高く、次いで“交友関係、電話、メールを細かく監視する”(34.6%)、“仕事を無理やり辞めさせる”(25.9%)となっている。

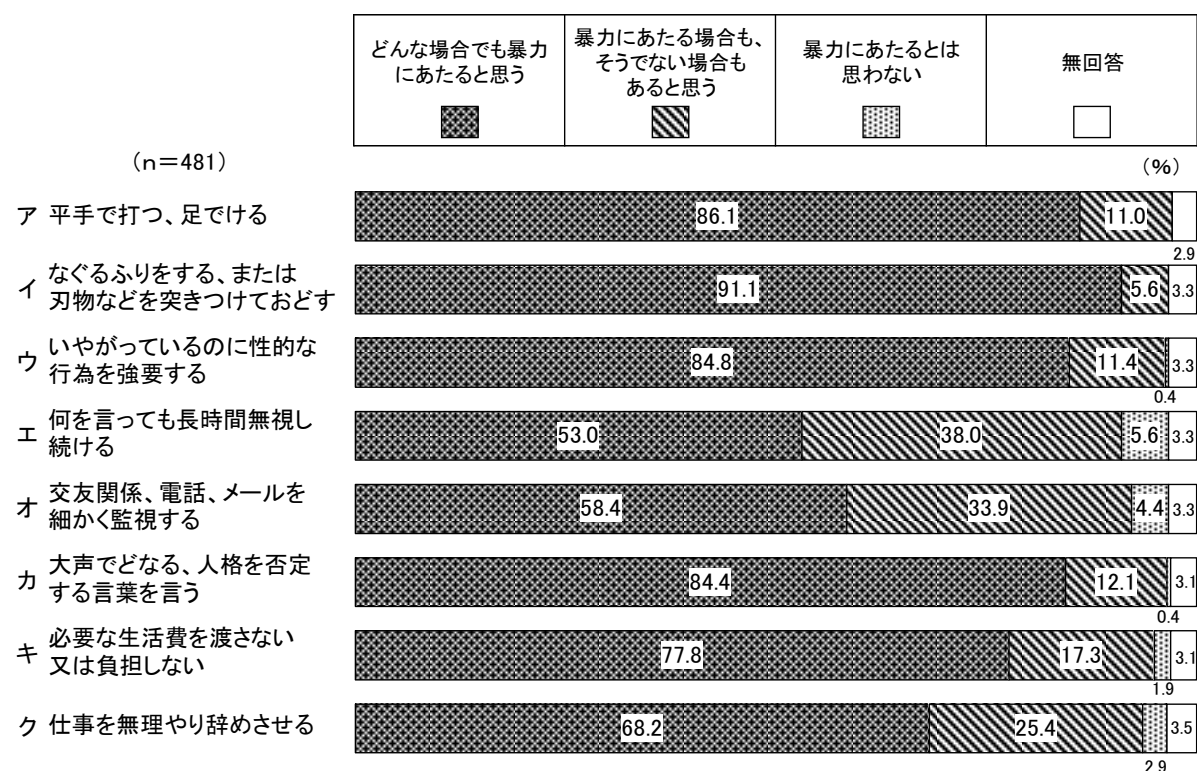
<性別>

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は“大声でどなる、人格を否定する言葉を使う”で女性（84.4%）が男性（75.1%）より9.3ポイント、“必要な生活費を渡さない又は負担しない”で女性（77.8%）が男性（70.0%）より7.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は“大声でどなる、人格を否定する言葉を使う”で男性（19.8%）が女性（12.1%）より7.7ポイント高くなっている。

【男性】

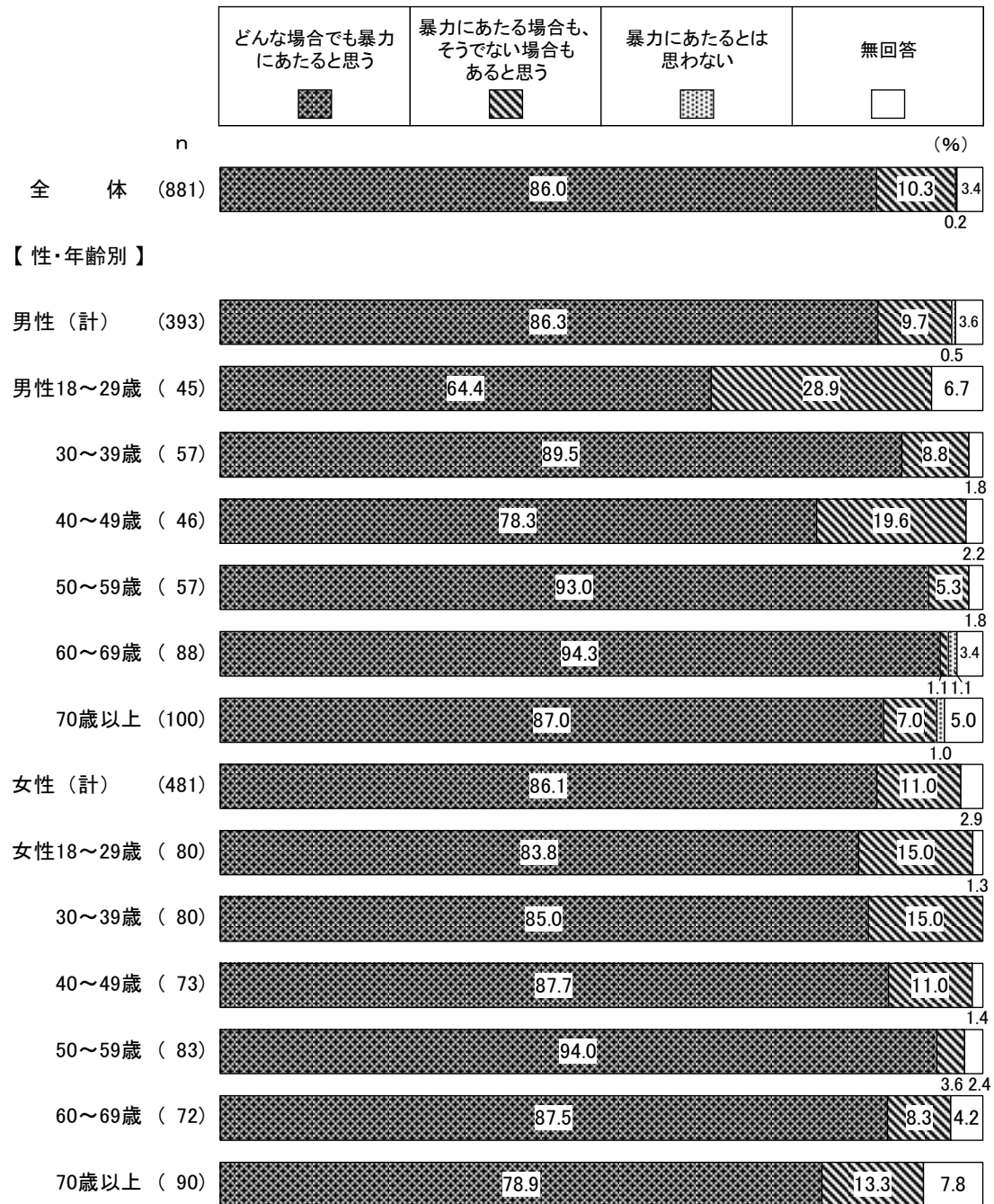


【女性】



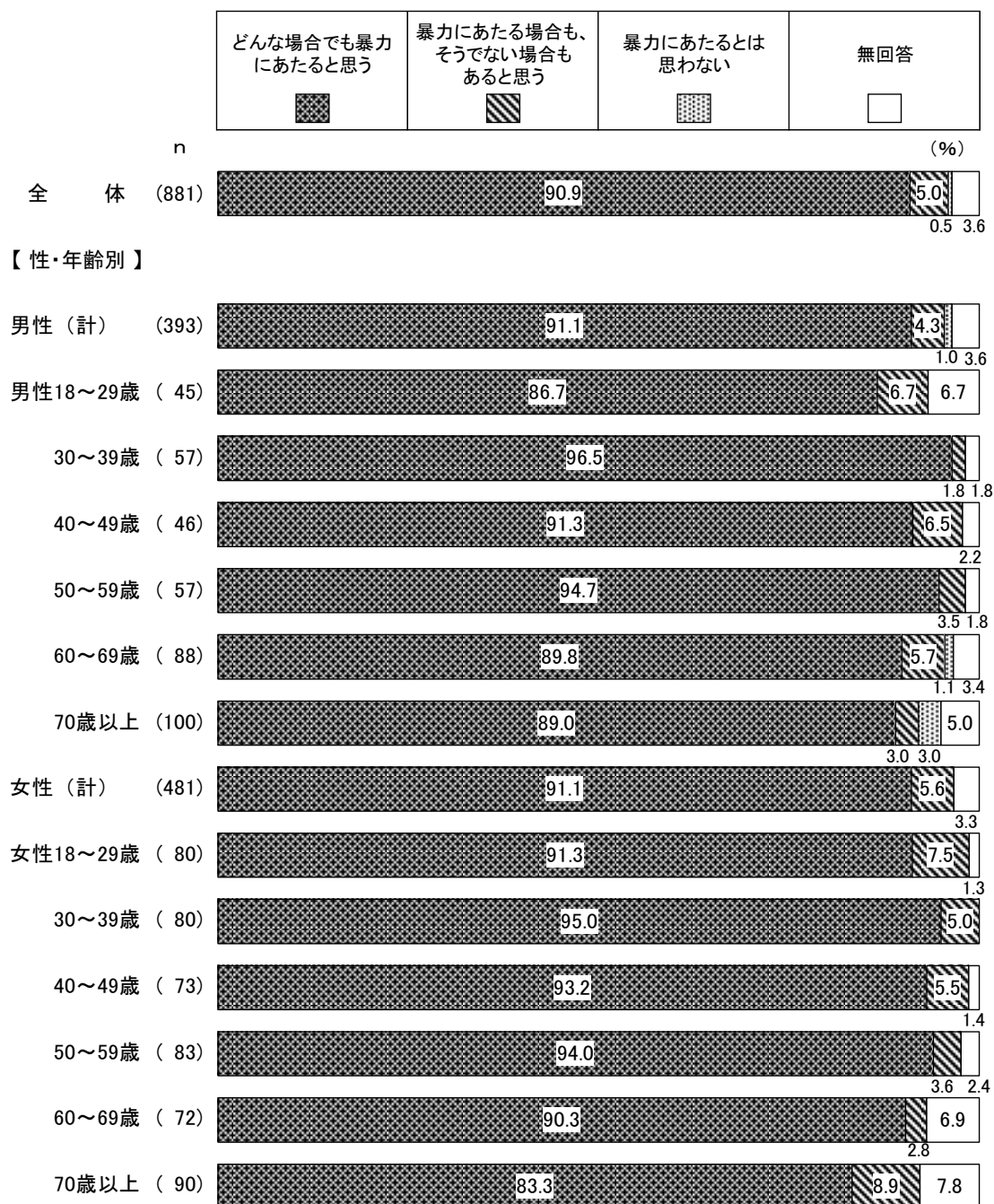
<性・年齢別> ア 平手で打つ、足でける

「平手で打つ、足でける」について性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は男性60～69歳で94.3%、女性50～59歳で94.0%、男性50～59歳で93.0%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性18～29歳で28.9%と高くなっている。



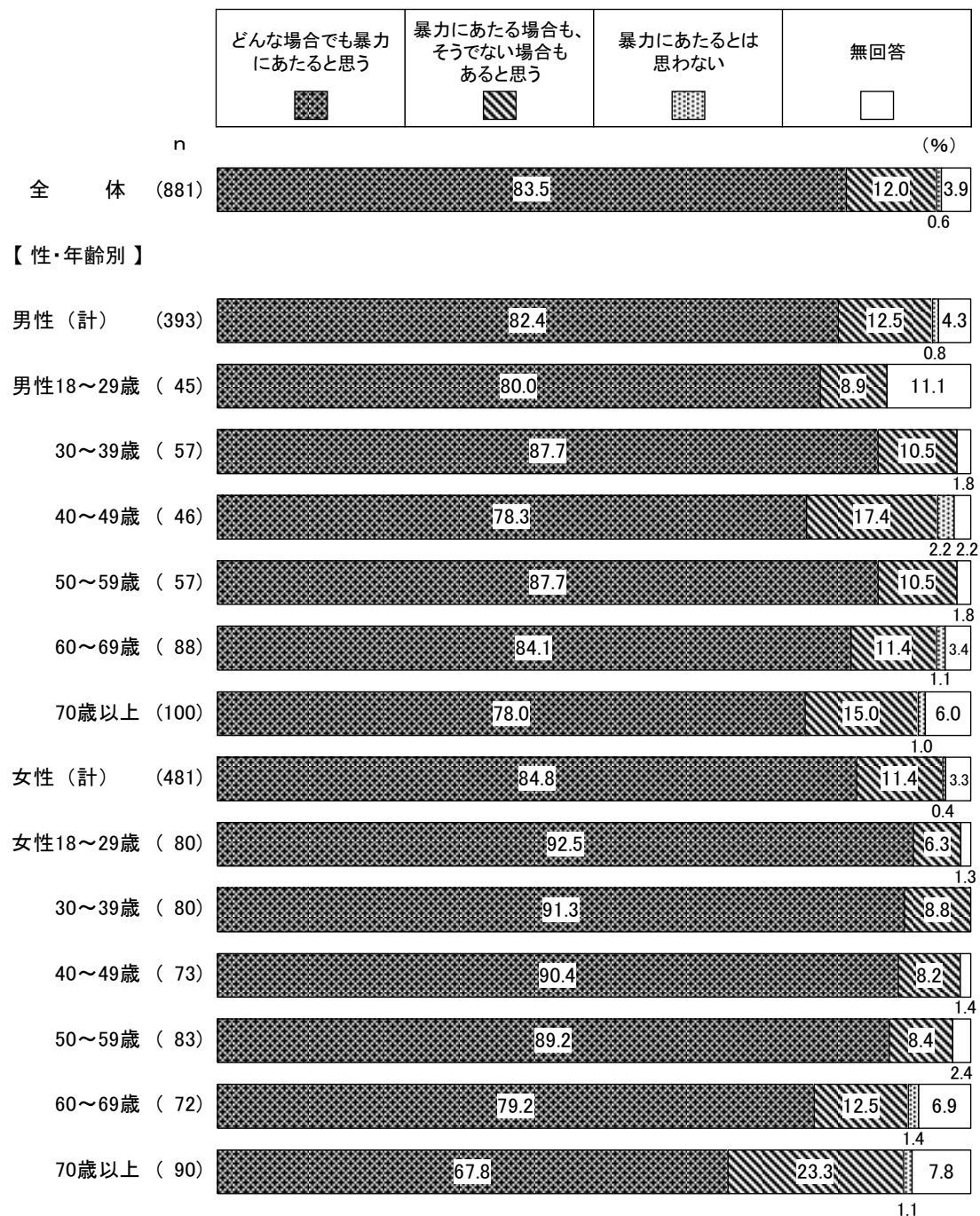
<性・年齢別> イ なぐるふりをする、または刃物などを突きつけておどす

「なぐるふりをする、または刃物などを突きつけておどす」について性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は男性30～39歳で96.5%、女性30～39歳で95.0%と高くなっている。



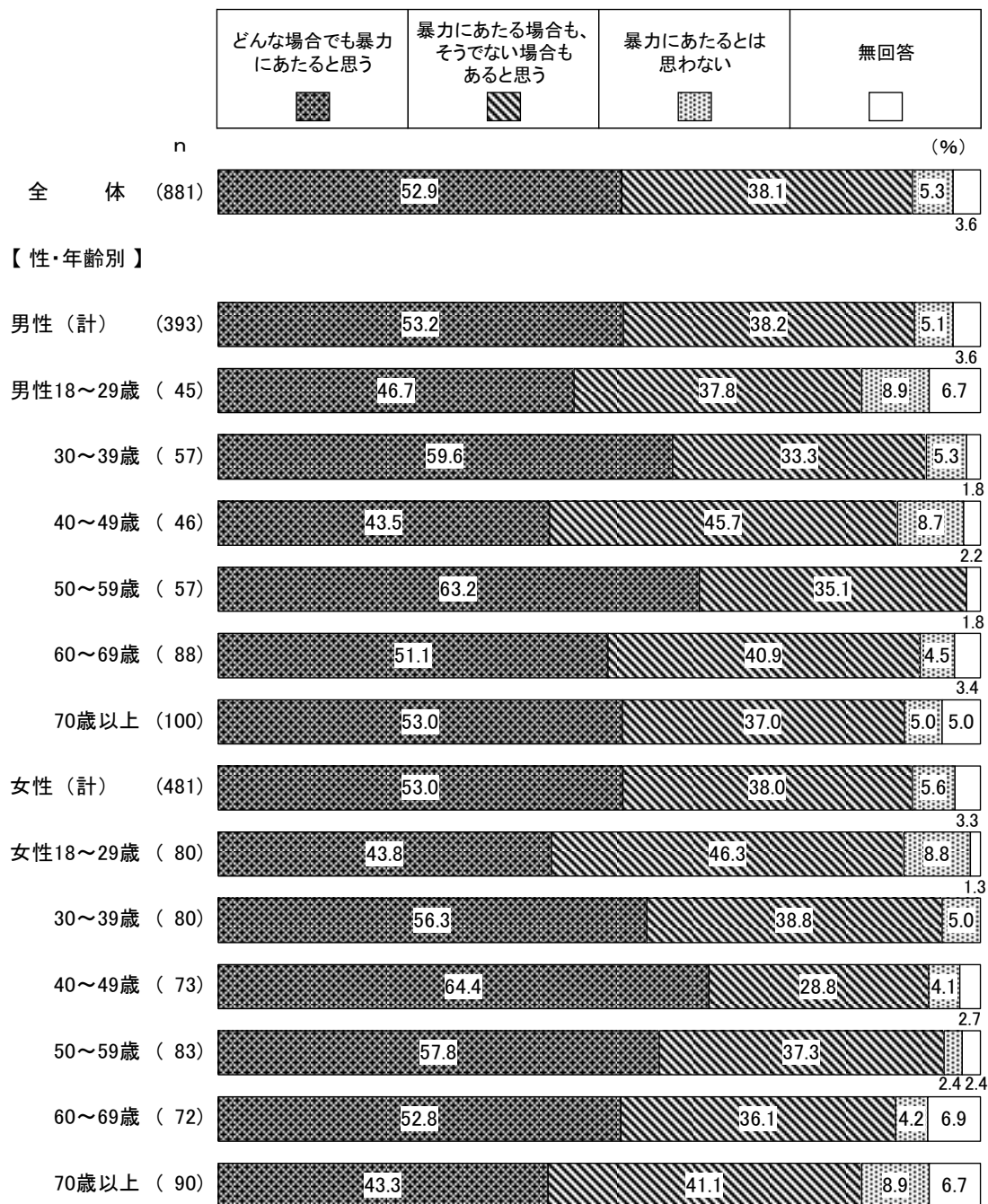
<性・年齢別> ウ いやがっているのに性的な行為を強要する

「いやがっているのに性的な行為を強要する」について性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性18～29歳で92.5%、女性30～39歳で91.3%、女性40～49歳で90.4%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は女性70歳以上で23.3%と高くなっている。



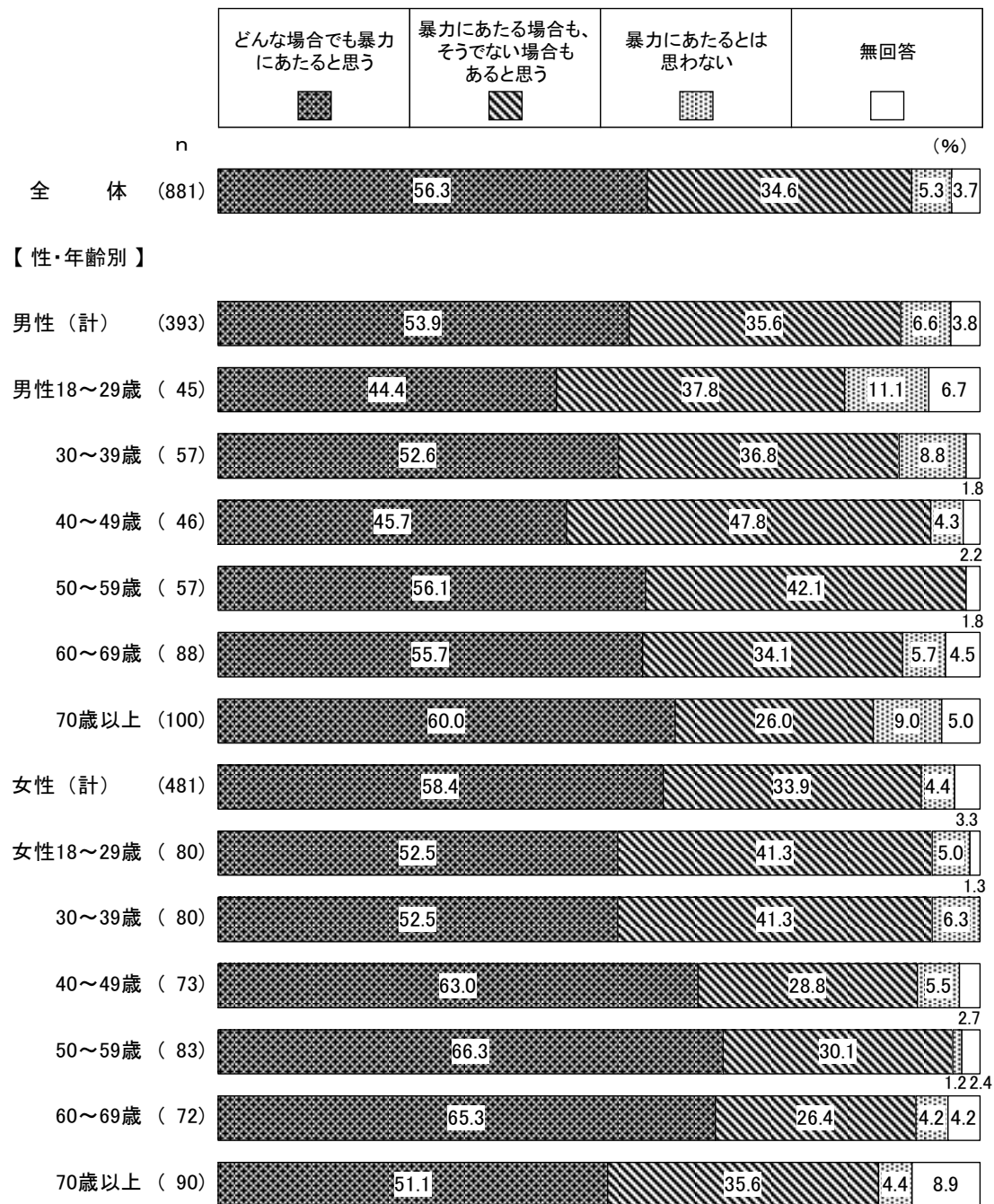
<性・年齢別> エ 何を言っても長時間無視し続ける

「何を言っても長時間無視し続ける」について性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性40～49歳で64.4%、男性50～59歳で63.2%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は女性18～29歳で46.3%、男性40～49歳で45.7%と高くなっている。



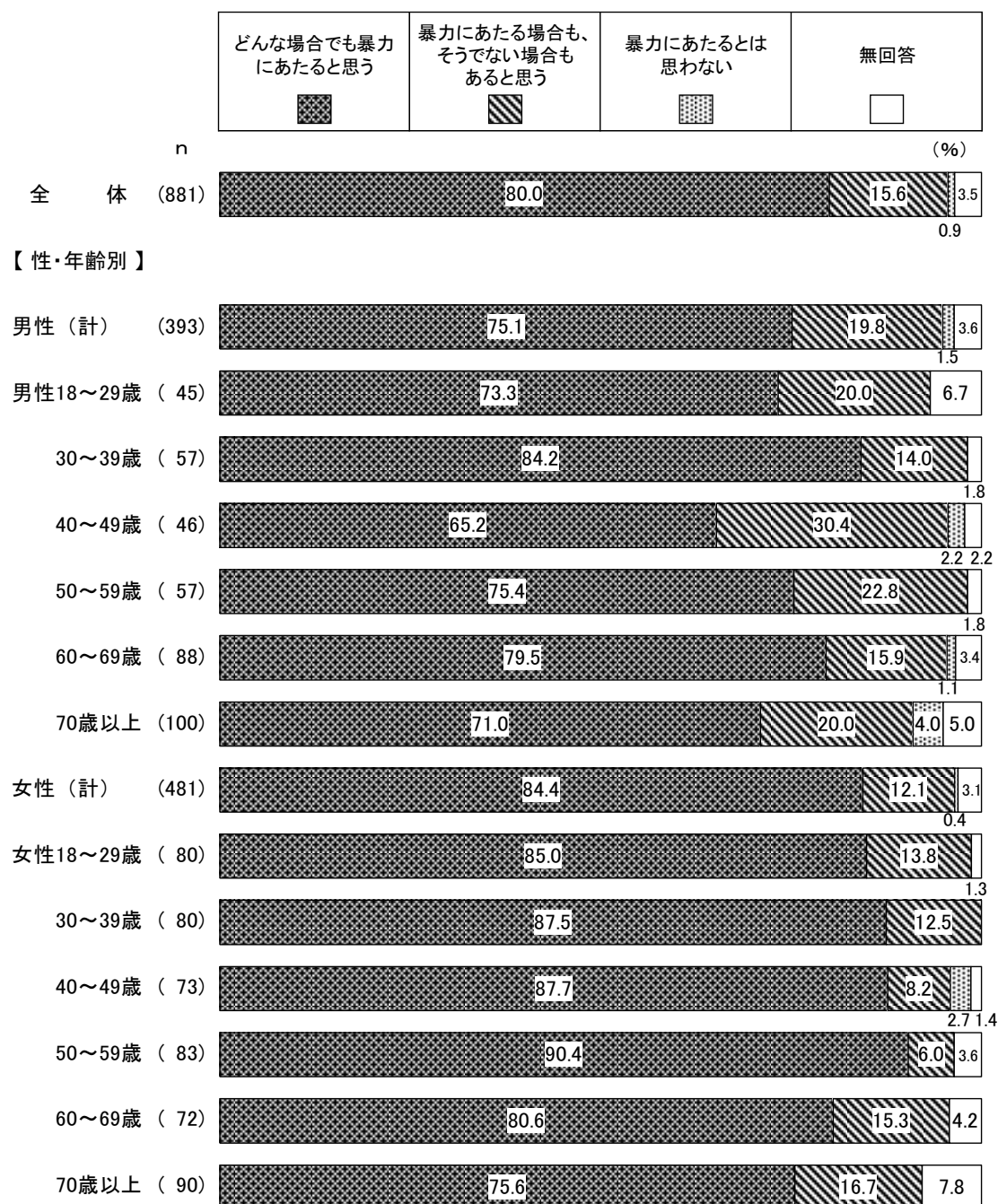
<性・年齢別> オ 交友関係、電話、メールを細かく監視する

「交友関係、電話、メールを細かく監視する」について性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性50～59歳で66.3%、女性60～69歳で65.3%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性40～49歳で47.8%と高くなっている。



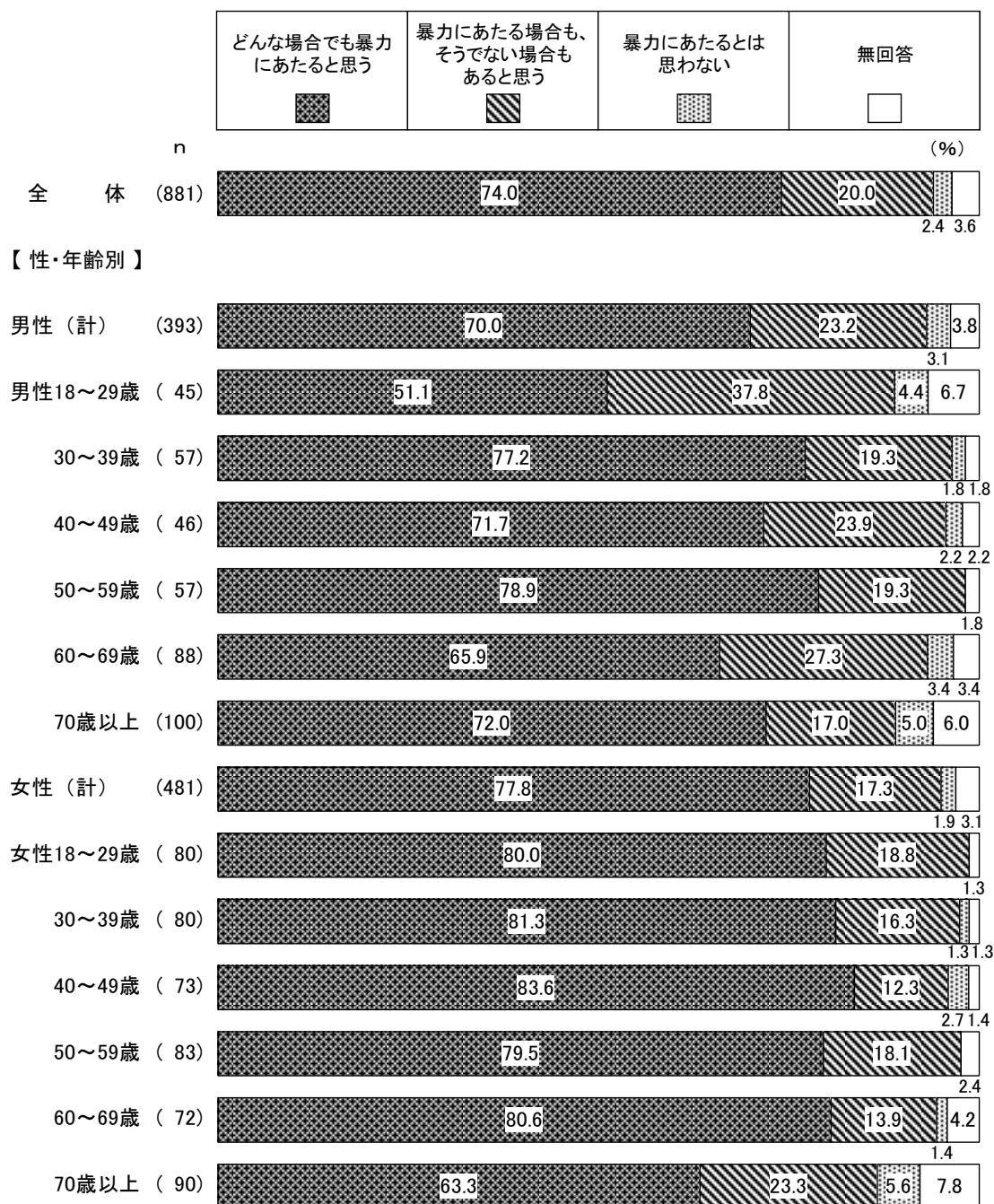
<性・年齢別> カ 大声でどなる、人格を否定する言葉を使う

「大声でどなる、人格を否定する言葉を使う」について性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性50～59歳で90.4%、女性40～49歳で87.7%、女性30～39歳で87.5%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性40～49歳で30.4%と高くなっている。



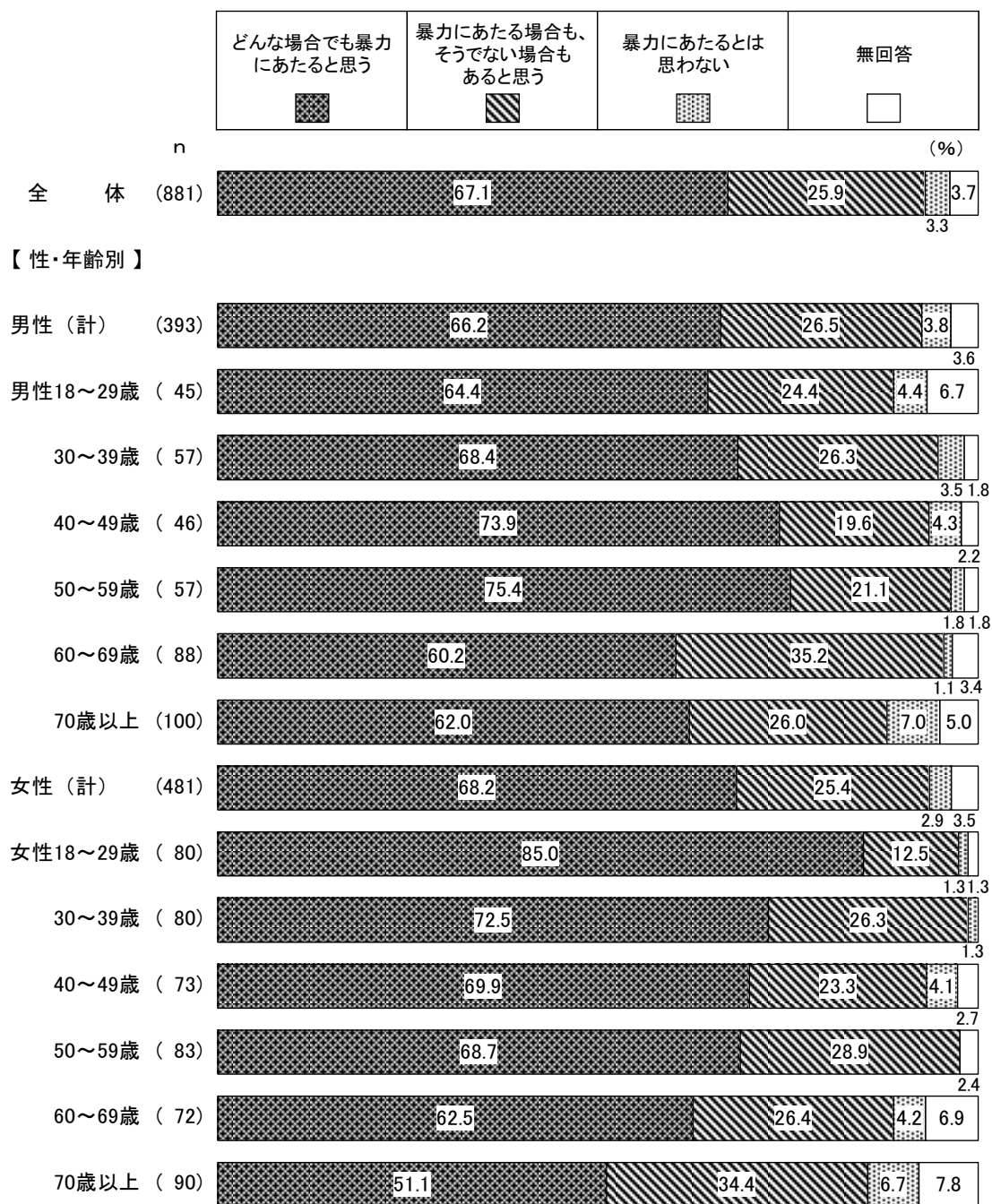
<性・年齢別> キ 必要な生活費を渡さない又は負担しない

「必要な生活費を渡さない又は負担しない」について性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性40～49歳で83.6%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性18～29歳で37.8%と高くなっている。



＜性・年齢別＞ ク 仕事を無理やり辞めさせる

「仕事を無理やり辞めさせる」について性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性18～29歳で85.0%と高くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性60～69歳で35.2%、女性70歳以上で34.4%と高くなっている。

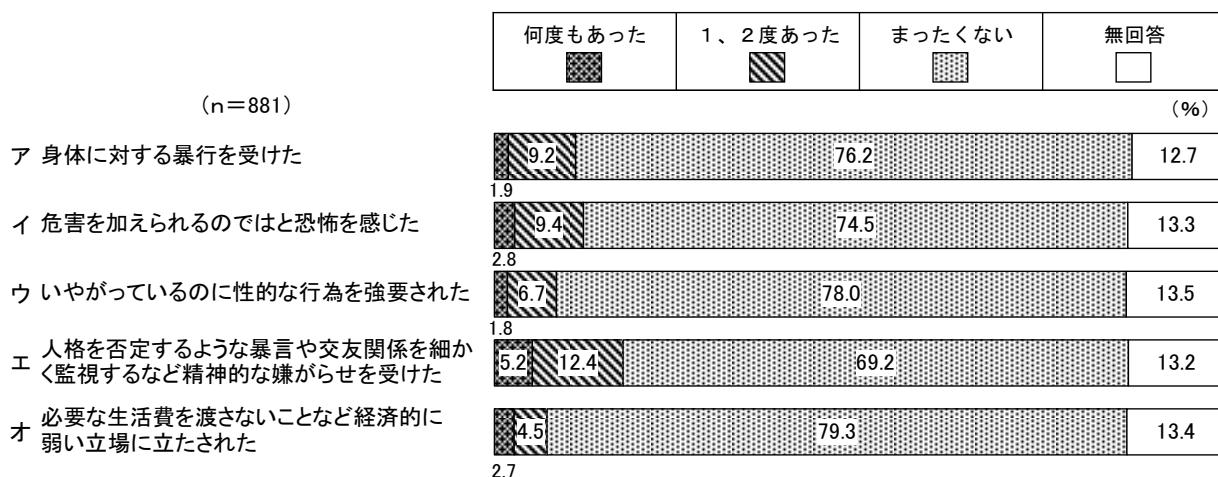


(2) 配偶者からの暴力被害経験の有無

＜これまでに配偶者や交際相手などがいた方におうかがいします。＞

問16 これまでに、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。

(回答は、アからオのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)



＜全体＞

配偶者からの暴力被害経験の有無を、5項目について聞いたところ、全体では、「何度もあった」は“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた”が5.2%となっている。

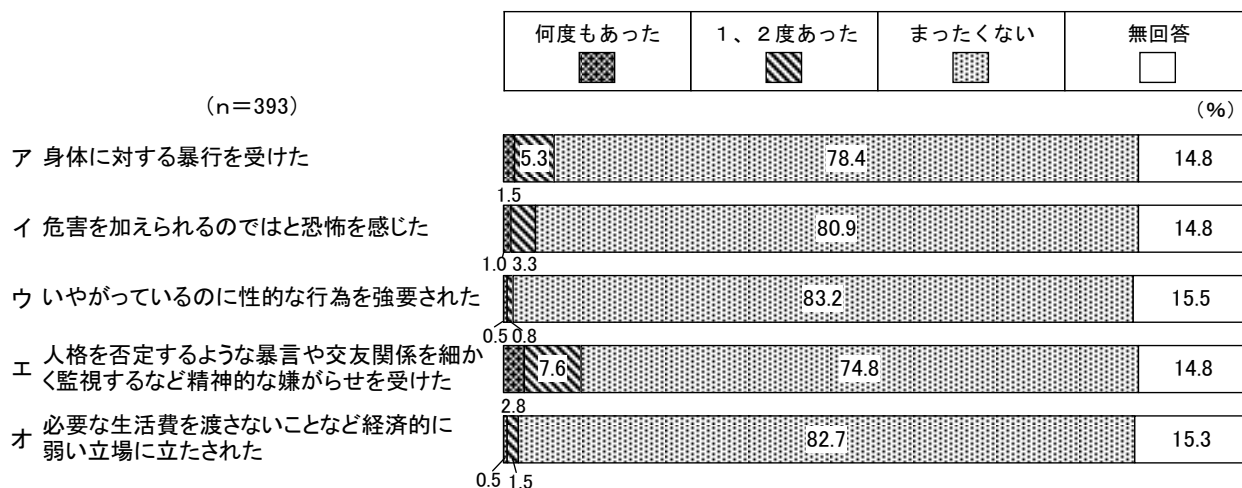
また、「1、2度あった」は“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた”が12.4%で最も高く、次いで“危害を加えられるのではと恐怖を感じた”(9.4%)、“身体に対する暴行を受けた”(9.2%)となっている。

一方、「まったくない」は“必要な生活費を渡さないことなど経済的に弱い立場に立たされた”が79.3%で最も高く、次いで“いやがっているのに性的な行為を強要された”(78.0%)、“身体に対する暴行を受けた”(76.2%)となっている。

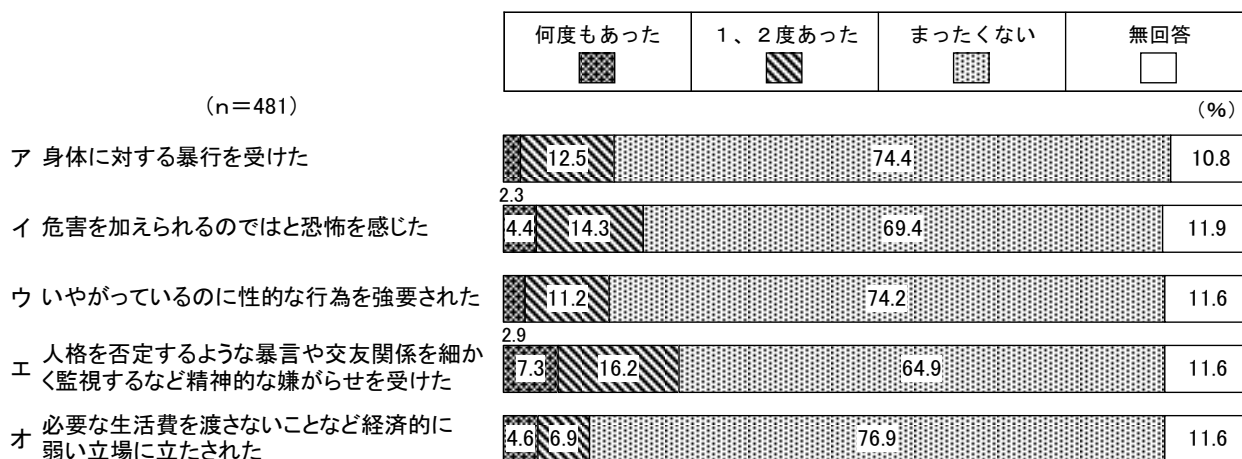
<性別>

性別でみると、「何度もあった」はすべての項目で女性が男性より高くなっており、特に“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた”では女性（7.3%）が男性（2.8%）より4.5ポイント高くなっている。また、「1、2度あった」でもすべての項目で女性が男性より高くなっており、特に“危害を加えられるのではと恐怖を感じた”では女性（14.3%）が男性（3.3%）より11.0ポイント、“いやがっているのに性的な行為を強要された”では女性（11.2%）が男性（0.8%）より10.4ポイント、それぞれ高くなっている。

【男性】

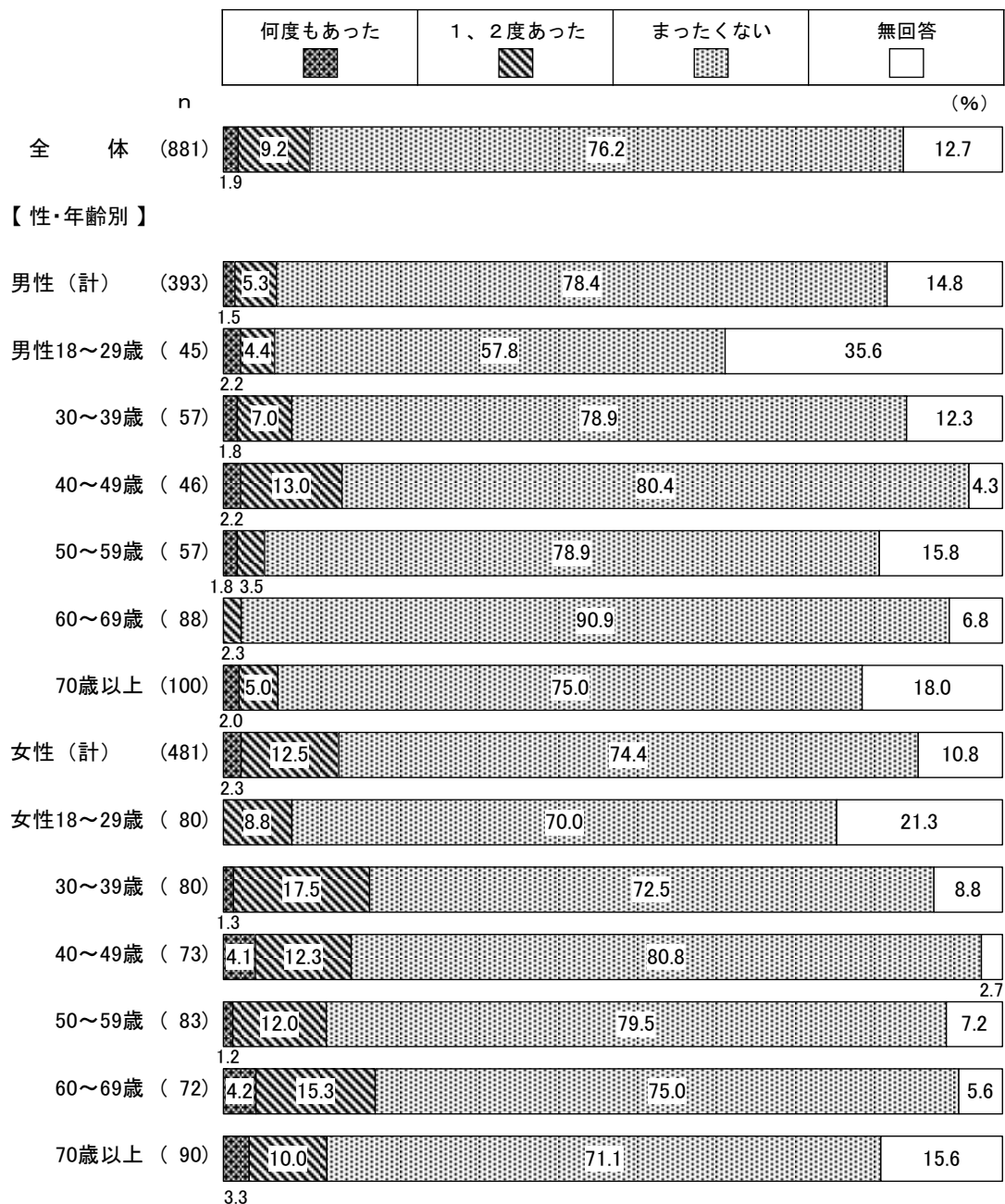


【女性】



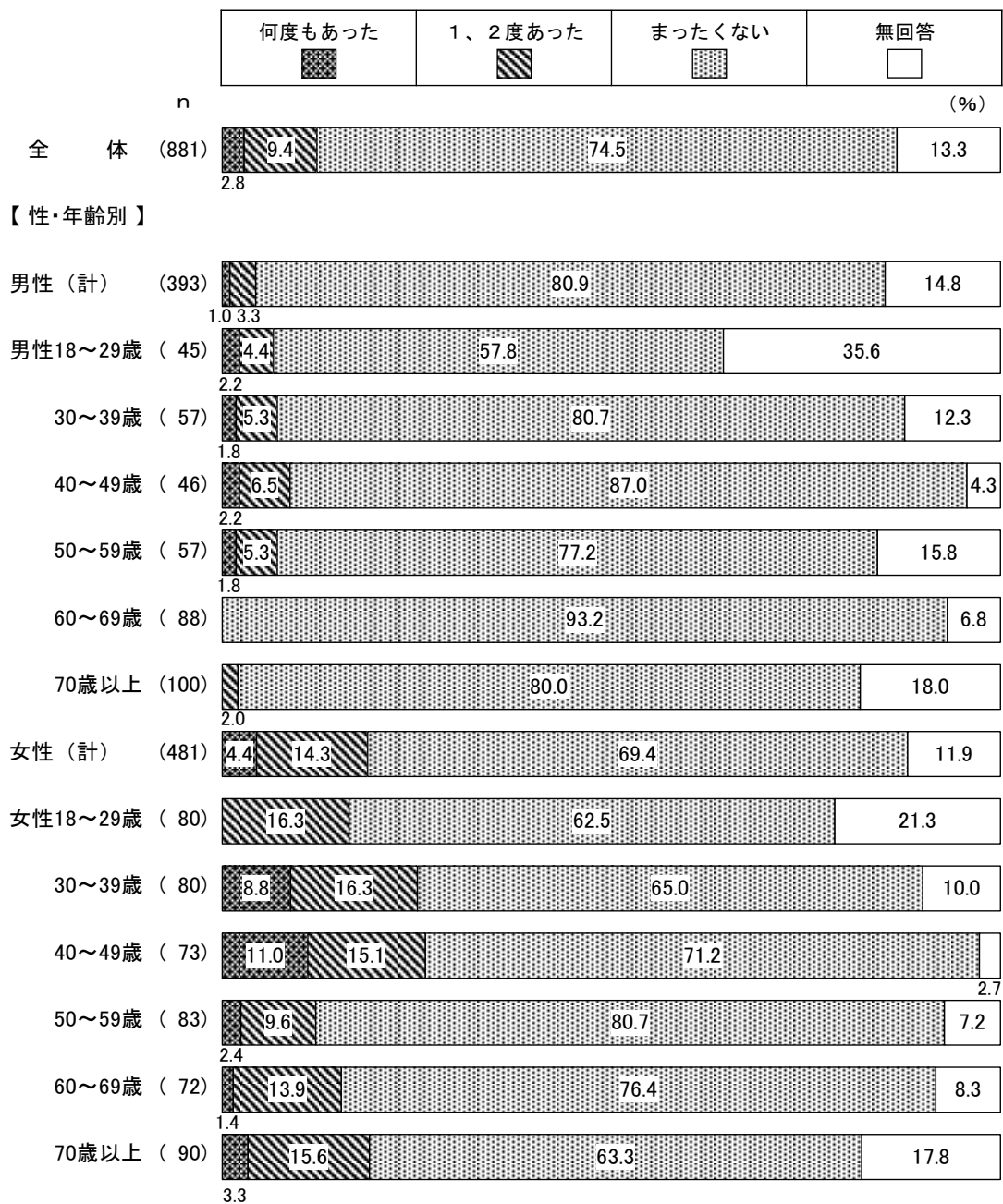
<性・年齢別> ア 身体に対する暴行を受けた

「身体に対する暴行を受けた」について性・年齢別でみると、「何度もあった」は女性60～69歳で4.2%、女性40～49歳で4.1%と高く、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた割合では、女性60～69歳で19.5%、次いで女性30～39歳は18.8%、男性40～49歳は15.2%となっている。一方、「まったくない」は男性60～69歳で90.9%と高くなっている。



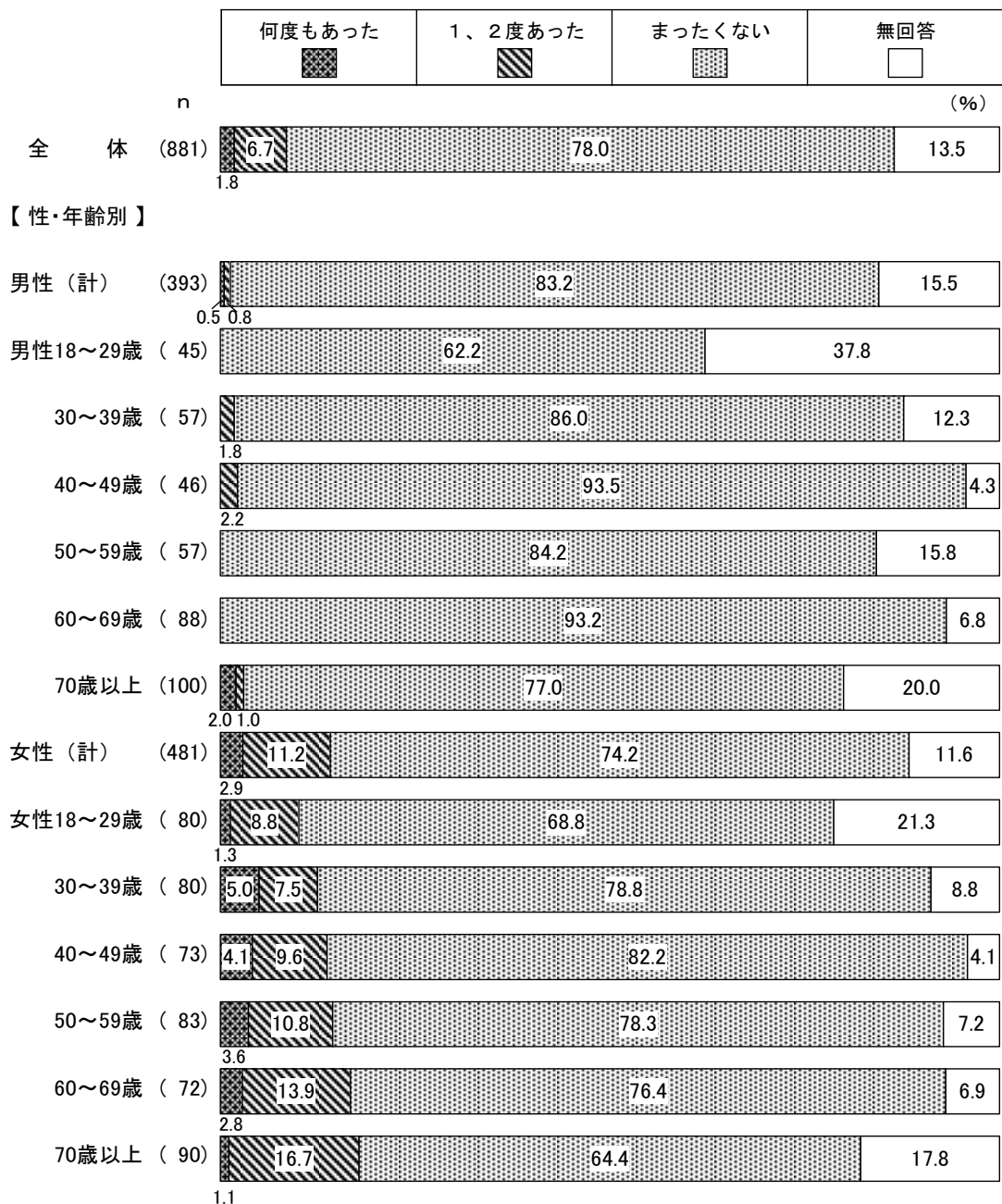
<性・年齢別> イ 危害を加えられるのではと恐怖を感じた

「危害を加えられるのではと恐怖を感じた」について性・年齢別でみると、「何度もあった」は女性40～49歳で11.0%、女性30～39歳で8.8%となっている。「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせると女性40～49歳で26.1%、女性30～39歳で25.1%となっている。一方、「まったくない」は男性60～69歳で93.2%と高くなっている。



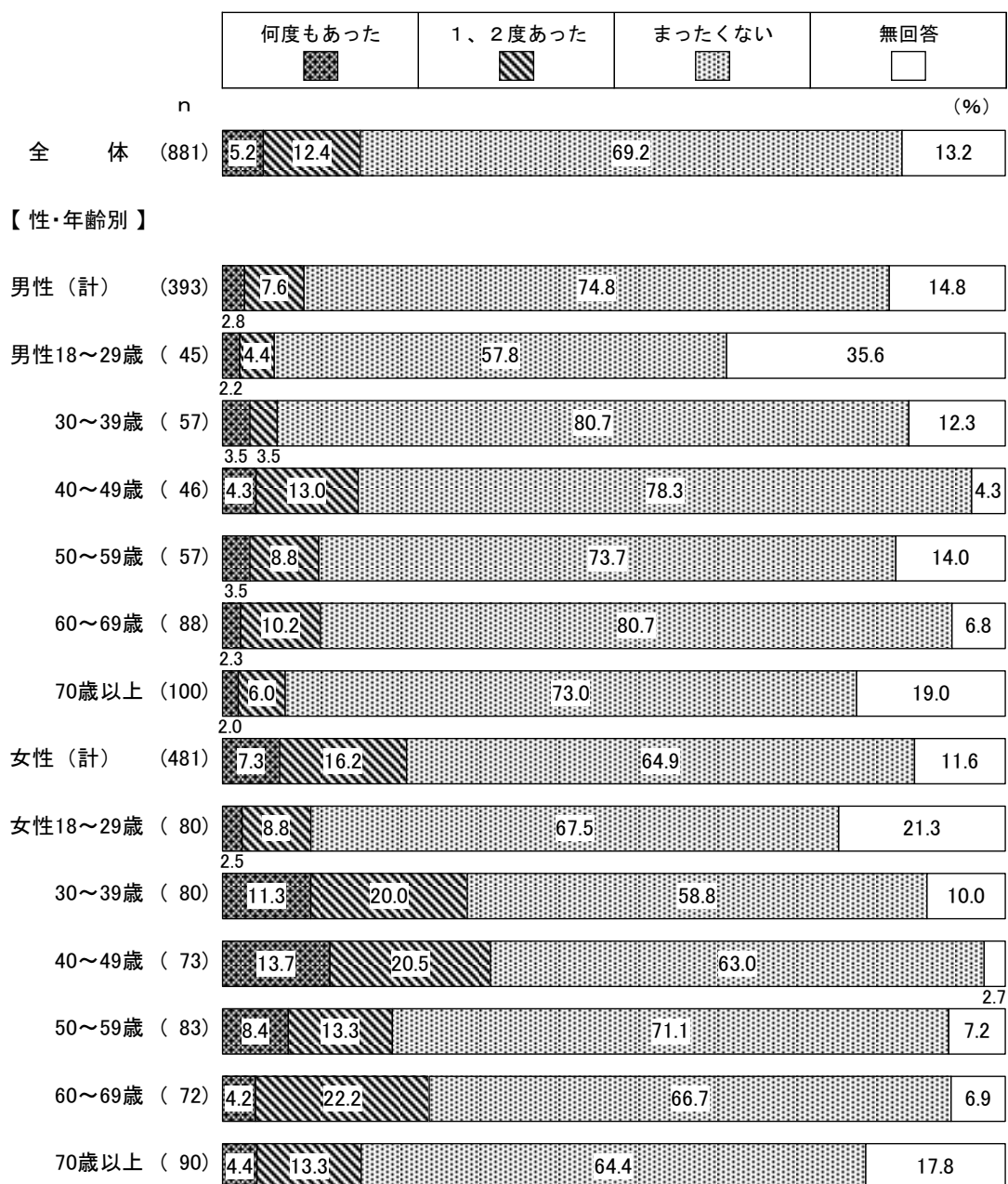
<性・年齢別> ウ いやがっているのに性的な行為を強要された

「いやがっているのに性的な行為を強要された」について性・年齢別でみると、女性は全ての年代で「何度もあった」、「1、2度あった」に回答しており、「1、2度あった」は女性70歳以上で16.7%となっている。一方、「まったくない」は男性40～49歳で93.5%、男性60～69歳で93.2%と高くなっている。



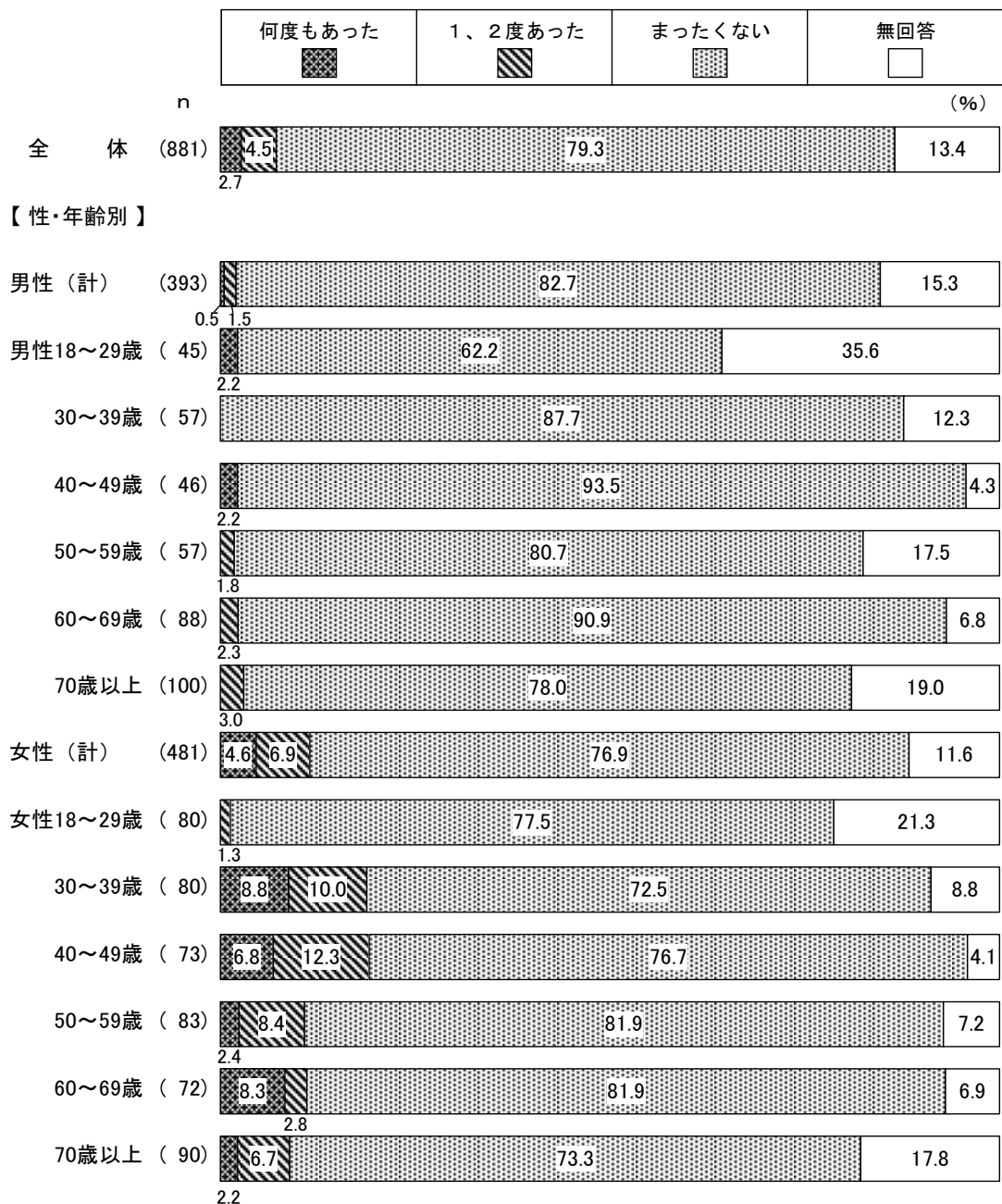
<性・年齢別> エ 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた

「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた」について性・年齢別でみると、「何度もあった」は女性40～49歳で13.7%となっている。「1、2度あった」は女性60～69歳で22.2%と最も高く、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせると女性40～49歳で34.2%、女性30～39歳で31.3%となっている。一方、「まったくない」は男性30～39歳と男性60～69歳でともに80.7%と高くなっている。



<性・年齢別> オ 必要な生活費を渡さないことなど経済的に弱い立場に立たされた

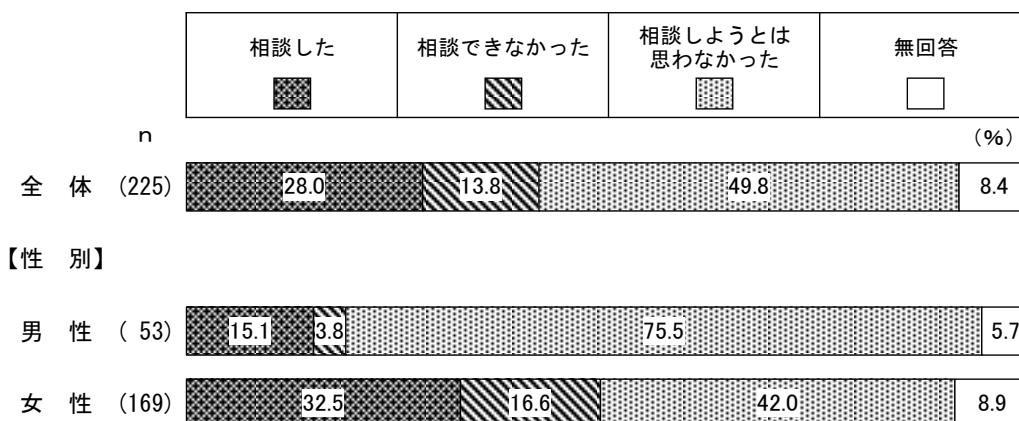
「必要な生活費を渡さないことなど経済的に弱い立場に立たされた」について性・年齢別でみると、「何度もあった」は女性30～39歳で8.8%、女性60～69歳で8.3%となっている。「1、2度あった」と合わせると女性40～49歳で19.1%、女性30～39歳で18.8%となっている。一方、「まったくない」は男性40～49歳で93.5%、男性60～69歳で90.9%と高くなっている。



（３）配偶者からの暴力に関する相談の有無

＜問16で1つでも「何度もあった」または「1、2度あった」と回答した方におうかがいします。＞

問16－１ これまでに、その相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（回答は、１つだけ）



＜全体／性別＞

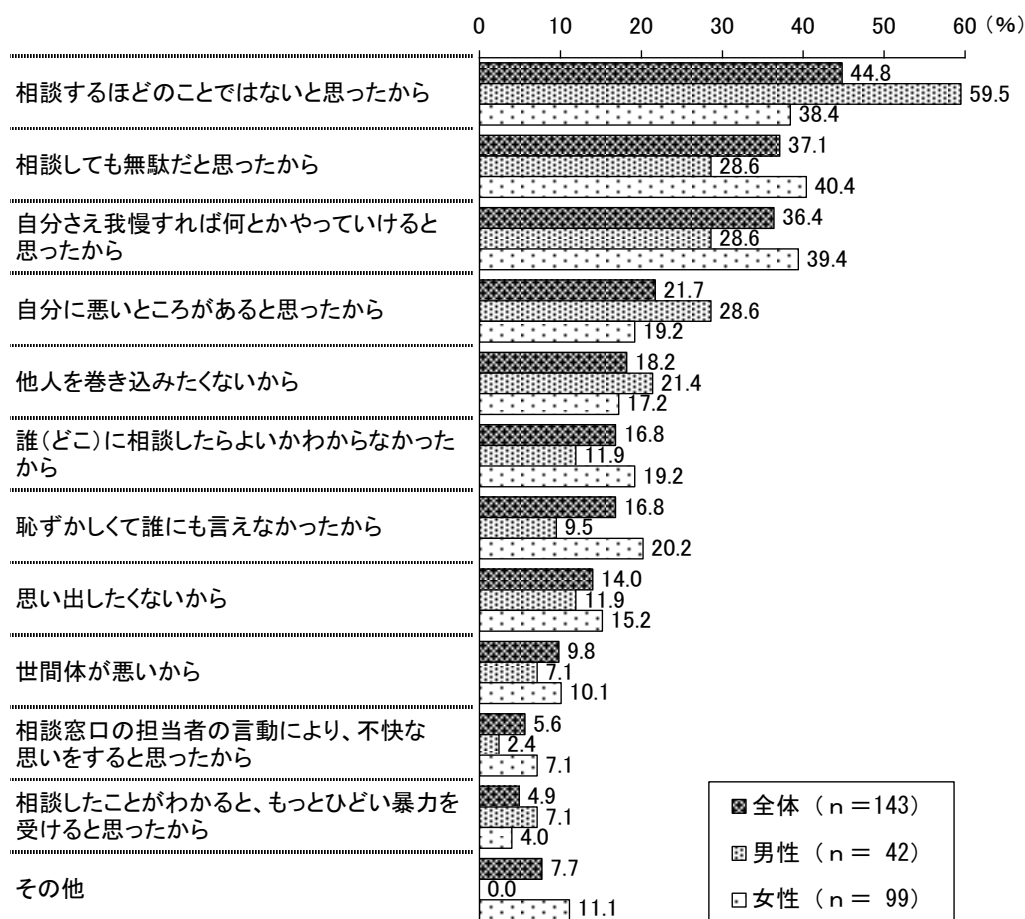
相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたか聞いたところ、全体では、「相談した」が28.0%となっている。一方、「相談できなかった」が13.8%、「相談しようとは思わなかった」は49.8%となっている。

性別でみると、「相談した」は女性（32.5%）が男性（15.1%）より17.4ポイント、「相談できなかった」は女性（16.6%）が男性（3.8%）より12.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「相談しようとは思わなかった」は男性（75.5%）が女性（42.0%）より33.5ポイント高くなっている。

（４）相談できなかった理由

＜問16－１で「相談できなかった」、「相談しようとは思わなかった」と回答した方におうかがいします。＞

問16－２ 誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（回答は、あてはまるものすべて）



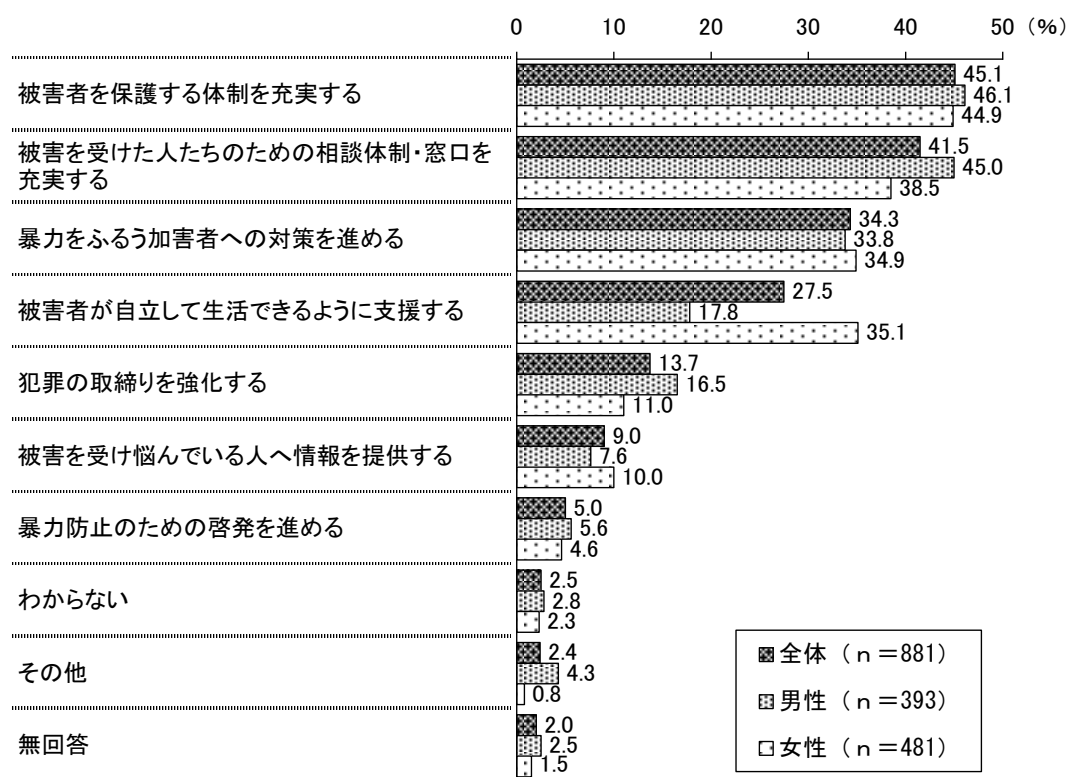
＜全体／性別＞

誰（どこ）にも相談できなかった理由を聞いたところ、全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が44.8%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」（37.1%）、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」（36.4%）、「自分に悪いところがあると思ったから」（21.7%）となっている。

性別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性（59.5%）が女性（38.4%）より21.1ポイント、「自分に悪いところがあると思ったから」は男性（28.6%）が女性（19.2%）より9.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「相談しても無駄だと思ったから」は女性（40.4%）が男性（28.6%）より11.8ポイント、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」は女性（39.4%）が男性（28.6%）より10.8ポイント、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は女性（20.2%）が男性（9.5%）より10.7ポイント、それぞれ高くなっている。

（５）配偶者間の暴力防止の取組み

問17 配偶者などの間で行われた暴力の防止への取組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は、2つ以内）



＜全体／性別＞

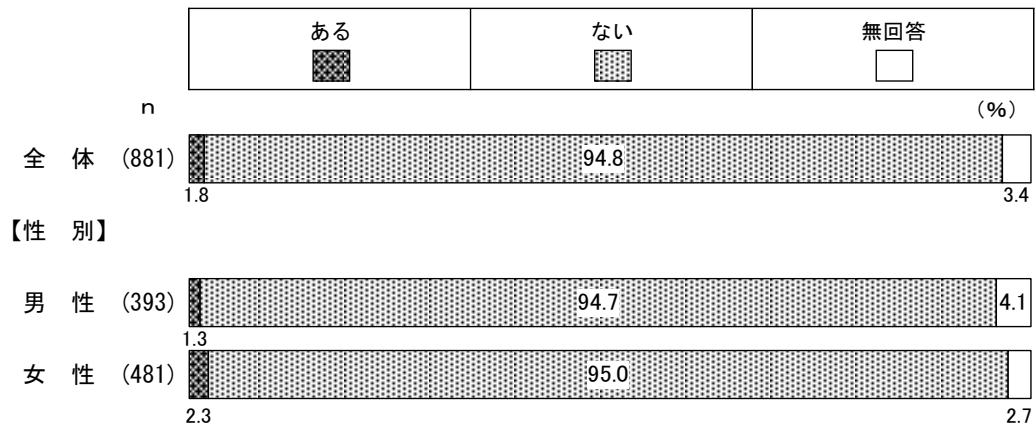
配偶者などの間で行われた暴力の防止への取組みとして、どのようなことが必要か聞いたところ、全体では、「被害者を保護する体制を充実する」が45.1%で最も高く、次いで「被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実する」(41.5%)、「暴力をふるう加害者への対策を進める」(34.3%)、「被害者が自立して生活できるように支援する」(27.5%)となっている。

性別でみると、「被害者が自立して生活できるように支援する」は女性(35.1%)が男性(17.8%)より17.3ポイント高くなっている。一方、「被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実する」は男性(45.0%)が女性(38.5%)より6.5ポイント高くなっている。

6. 性的マイノリティについて

(1) 性別の悩みの有無

問18 今まで自分の性別に悩んだことはありますか。(回答は、1つだけ)



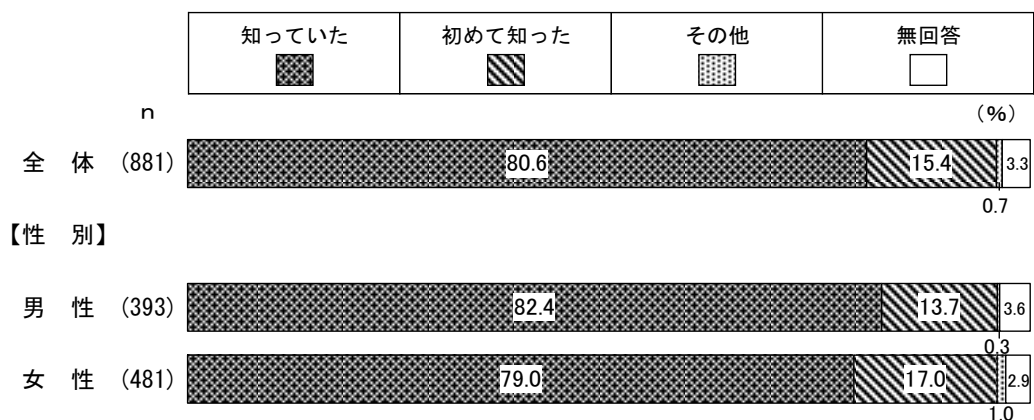
<全体／性別>

今まで自分の性別に悩んだことはあるか聞いたところ、全体では、「ある」が1.8%、「ない」は94.8%となっている。

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

（２）性的マイノリティやＬＧＢＴという言葉の認知度

問19 性的マイノリティやＬＧＢＴという言葉をご存知でしたか。（回答は、１つだけ）



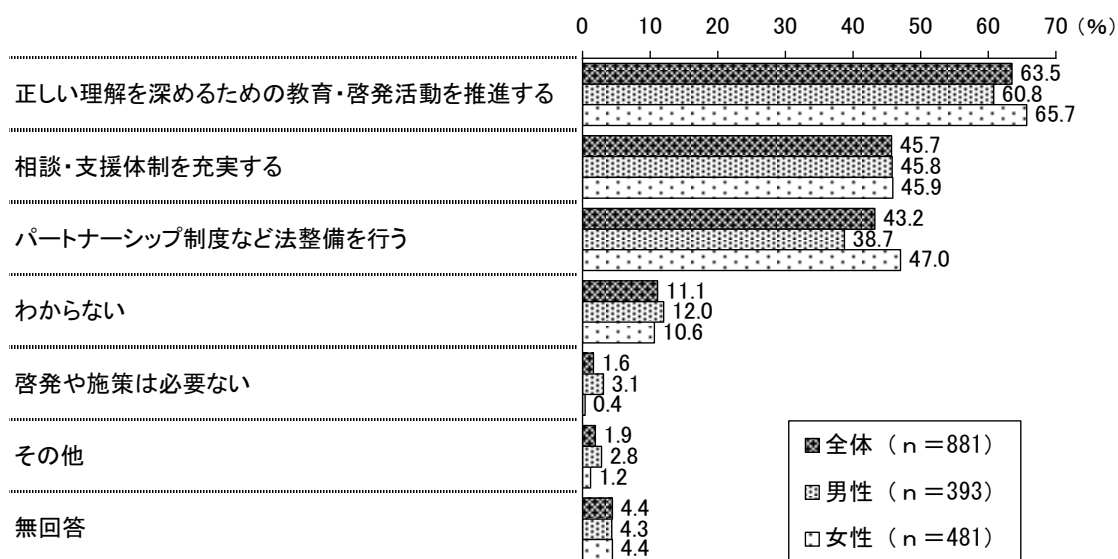
<全体／性別>

性的マイノリティやＬＧＢＴという言葉を知っていたか聞いたところ、全体では、「知っていた」が80.6%、「初めて知った」は15.4%となっている。

性別でみると、「知っていた」は男性（82.4%）が女性（79.0%）より3.4ポイント高くなっている。

（３）性的マイノリティの方々への人権施策等の必要性

問20 性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は、あてはまるものすべて）



<全体／性別>

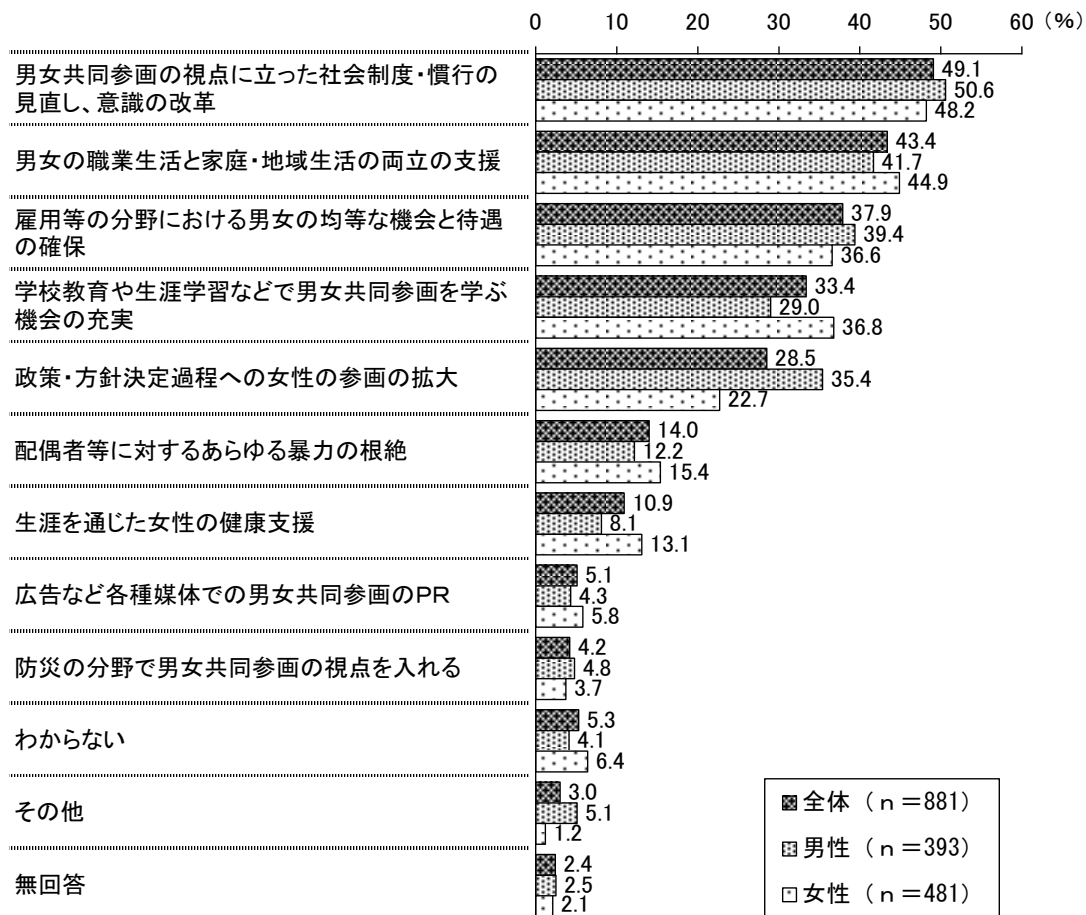
性的マイノリティの方々への人権施策等の必要性について聞いたところ、全体では、「正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が63.5%で最も高く、次いで「相談・支援体制を充実する」（45.7%）、「パートナーシップ制度など法整備を行う」（43.2%）となっている。

性別でみると、「パートナーシップ制度など法整備を行う」は女性（47.0%）が男性（38.7%）より8.3ポイント、「正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」は女性（65.7%）が男性（60.8%）より4.9ポイント、それぞれ高くなっている。

7. 男女共同参画の推進に対する施策について

(1) 男女共同参画社会実現のために力をいれていくべき施策

問21 入間市では男女共同参画社会の実現をめざし、さまざまな施策を実施しています。今後、市はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(回答は、3つ以内)



<全体／性別>

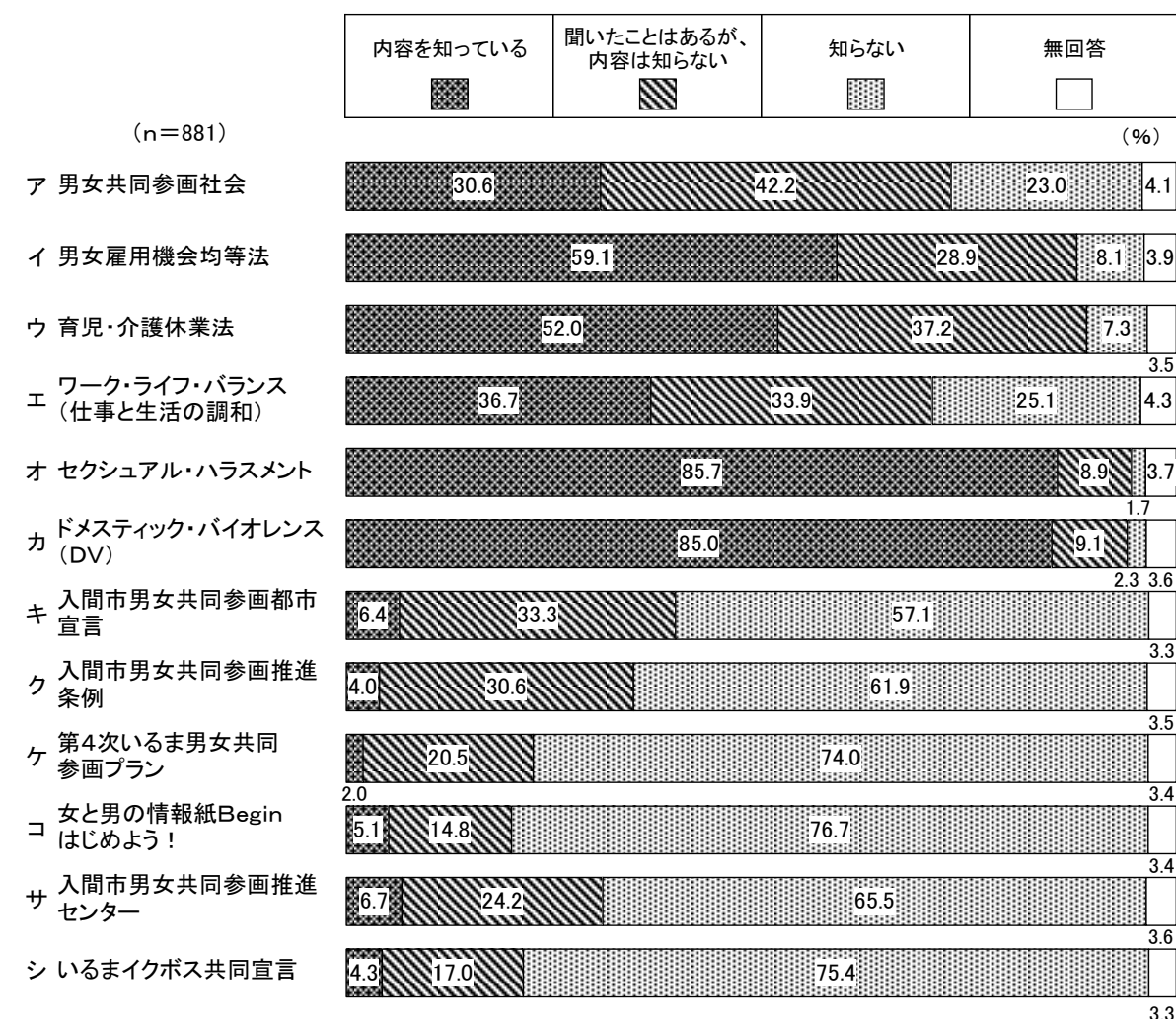
男女共同参画社会実現のために力をいれていくべき施策を聞いたところ、全体では、「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革」が49.1%で最も高く、次いで「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」(43.4%)、「雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保」(37.9%)、「学校教育や生涯学習などで男女共同参画を学ぶ機会の充実」(33.4%)となっている。

性別でみると、「政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」は男性(35.4%)が女性(22.7%)より12.7ポイント高くなっている。一方、「学校教育や生涯学習などで男女共同参画を学ぶ機会の充実」は女性(36.8%)が男性(29.0%)より7.8ポイント、「生涯を通じた女性の健康支援」は女性(13.1%)が男性(8.1%)より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。

(2) 男女共同参画に関する言葉の認知度

問22 次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。

(回答は、アからシのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)



<全体>

男女共同参画に関する言葉の認知度を、12項目について聞いたところ、全体では、「内容を知っている」は“セクシュアル・ハラスメント”が85.7%で最も高く、次いで“ドメスティック・バイオレンス(DV)”(85.0%)、“男女雇用機会均等法”(59.1%)、“育児・介護休業法”(52.0%)となっている。

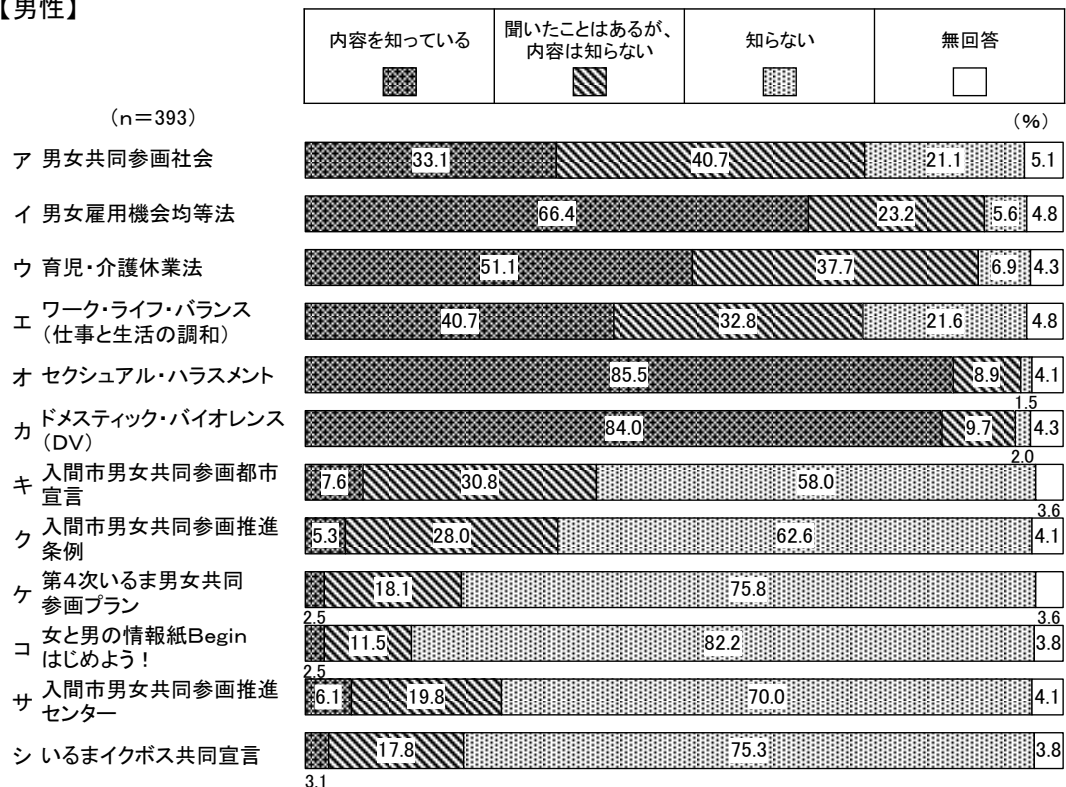
また、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は“男女共同参画社会”が42.2%で最も高く、次いで“育児・介護休業法”(37.2%)、“ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)”(33.9%)、“入間市男女共同参画都市宣言”(33.3%)となっている。

一方、「知らない」は“女と男の情報紙^{ひと}Begin^{ひと}はじめよう！”が76.7%で最も高く、次いで“いるまイクボス共同宣言”(75.4%)、“第4次いるま男女共同参画プラン”(74.0%)、“入間市男女共同参画推進センター”(65.5%)となっている。

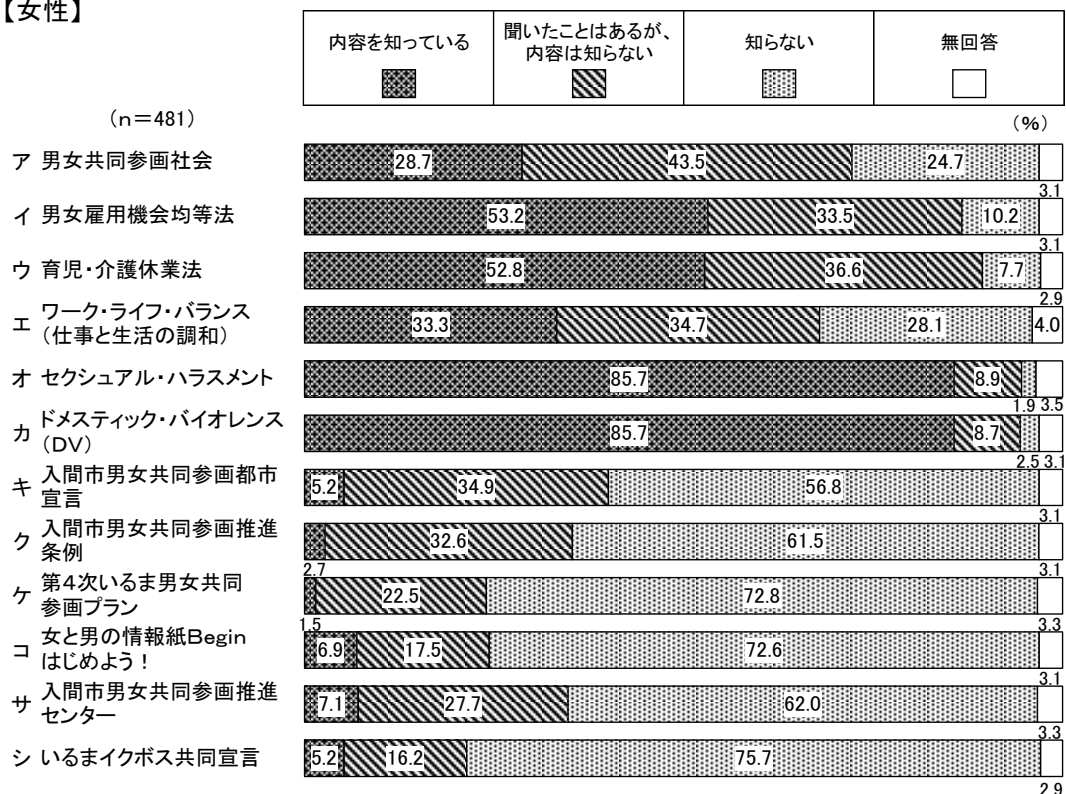
<性別>

性別でみると、「内容を知っている」は“男女雇用機会均等法”で男性（66.4%）が女性（53.2%）より13.2ポイント高くなっている。「聞いたことはあるが、内容は知らない」は“男女雇用機会均等法”で女性（33.5%）が男性（23.2%）より10.3ポイント高くなっている。「知らない」は“女と男の情報紙Beginはじめよう！”で男性（82.2%）が女性（72.6%）より9.6ポイント高くなっている。

【男性】



【女性】



Ⅲ 調査票

あなたの声をお聴かせください

「男女共同参画社会に向けての市民意識調査」へのご協力のお願い

日ごろから市政へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

入間市では、女性と男性が共にかがやき、いきいきと暮らせる「男女共同参画社会」の実現をめざして、さまざまな取組みを進めています。

この調査は、「第5次いるま男女共同参画プラン」策定のための基礎資料にするとともに、今後の取組みに反映させていくことを目的に実施いたします。

調査にあたっては、市内にお住まいの18歳以上の方2,000人を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いしています。

つきましては、この調査票にご回答いただき、同封の返信用封筒に入れて、

6月25日（木）までにご返送ください。（ご返送の際、切手は不要です）

なお、この調査には、お名前を書いていただく必要はありません。お寄せいただいた回答は統計的な数値としてまとめますので、お答えしていただいた皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年6月

入間市長 田 中 龍 夫

【ご記入の際のご注意】

- 1 あて名の**ご本人**がご回答ください。
- 2 回答は、あてはまる番号を選び、その番号を○で囲んでください。
- 3 回答は、「1つだけ」、「3つ以内」など質問ごとに回答の数が指定されていますので、あなたの考えに最も近いと思われる番号を指定された数の範囲でお選びください。
- 4 回答の中で、「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 5 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や※がついていることわり書きをよくお読みください。
- 6 回答は、**令和2年6月1日現在**の内容でお答えください。

※ 宛名ラベルに記入されたバーコード及び返信用封筒に記入されたバーコードは、郵便番号を示したものです。本人を特定する内容ではありません。

【お問い合わせ先】 調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

お問い合わせ時間：月～金 8：30～17：15

入間市男女共同参画推進センター（イルミン2F）

〒358-0003 入間市豊岡4丁目2番2号

電話 04-2964-2536 Fax 04-2964-2539

E-mail ir212000@city.iruma.lg.jp

あなた自身について、おうかがいします。

F 1 性別をお聞かせください。

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

F 2 年齢は、次のどれにあてはまりますか。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 18～19 歳 | 2 20～29 歳 | 3 30～39 歳 | 4 40～49 歳 |
| 5 50～59 歳 | 6 60～69 歳 | 7 70 歳以上 | |

F 3 入間市にお住まいになって何年になりますか。

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1 5 年未満 | 2 5～10 年未満 | 3 10～20 年未満 |
| 4 20～30 年未満 | 5 30 年以上 | |

F 4 あなたの職業は、次のどれにあてはまりますか。

- | | | |
|--------------------------------|-------------|-----------|
| 1 会社員・団体職員 | 2 会社役員・団体役員 | 3 自由業・自営業 |
| 4 パート・アルバイト | 5 派遣社員 | 6 公務員・教員 |
| 7 家事専業 | 8 学生 | 9 無職 |
| 10 その他（ ） | | |

男女平等に関する意識について、おうかがいします。

問 1 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方を、どのように思いますか。
（回答は、1 つだけ）

- | |
|------------------|
| 1 そのとおりだと思う |
| 2 どちらかといえばそう思う |
| 3 どちらかといえばそう思わない |
| 4 そうは思わない |

問2 次にあげる分野で男女の地位はどうなっていると思いますか。
 (回答は、アからキのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)

	男性の方がとても 優遇されている	どちらかといえ ば、男性の方が優 遇されている	平 等	どちらかといえ ば、女性の方が優 遇されている	女性の方がとても 優遇されている	わからない
ア 家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6
イ 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
エ 職場で	1	2	3	4	5	6
オ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
カ 社会通念や慣習など	1	2	3	4	5	6
キ 法律や制度上で	1	2	3	4	5	6

問3 今後、男女が社会のあらゆる分野で更に平等になるために、最も重要だと思うことは
 何ですか。(回答は、1つだけ)

- 1 法律や制度上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
- 2 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 3 女性自身の経済力保持、知識・技術の習得など、積極的に力の向上を図ること
- 4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 5 行政や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- 6 わからない
- 7 その他 ()

家庭生活について、おうかがいします。

問4 あなたの家庭では次のことがらを、主にどなたが行うことが望ましいと考えますか。
(回答は、アからクのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)

	主として男性	共同して分担	主として女性	依頼 家族以外の人に
ア 家事（炊事・洗濯・掃除など）	1	2	3	4
イ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）	1	2	3	4
ウ 介護（親や家族の介護）	1	2	3	4
エ 自治会などの地域活動	1	2	3	4
オ 子どもの学校行事への参加	1	2	3	4
カ 生活費の確保	1	2	3	4
キ 家計の管理	1	2	3	4
ク 高額商品や土地建物の購入の決定	1	2	3	4

問5 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は、2つ以内）

- 1 夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う
- 2 社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める
- 3 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高める
- 4 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める
- 5 男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 6 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進める
- 7 企業が長時間労働を改めるなどの仕事と家庭の両立に向けた取組みを行う
- 8 わからない
- 9 その他（ ）

家庭生活と地域活動と仕事について、おうかがいします。

問6 生活の中の優先度についておうかがいします。あなたの現在の状況で最優先のものを「ア 現在の状況（優先しているもの）」から、希望として最優先したいものを「イ 希望（優先したいと思うもの）」から、それぞれの項目から近いものを一つお答えください。（ア 現在の状況 と イ 希望 のそれぞれの項目にあてはまるもの一つだけ）

ア 現在の状況（優先しているもの）

イ 希望（優先したいと思うもの）

- 1 仕事
- 2 家庭生活
- 3 地域・個人の生活
- 4 仕事と家庭生活
- 5 仕事と地域・個人の生活
- 6 家庭生活と地域・個人の生活
- 7 すべて
- 8 わからない

- 1 仕事
- 2 家庭生活
- 3 地域・個人の生活
- 4 仕事と家庭生活
- 5 仕事と地域・個人の生活
- 6 家庭生活と地域・個人の生活
- 7 すべて
- 8 わからない

問7 女性が職業を持つことについて、どうお考えですか。（回答は、1つだけ）

- 1 結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい
- 2 子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい
- 3 出産するまでは職業を持ち、出産したらやめたほうがよい
- 4 結婚するまでは職業を持ち、結婚したらやめたほうがよい
- 5 女性は一生職業を持たないほうがよい
- 6 わからない
- 7 その他（）

※ 次の問8は、現在働いている方におうかがいします。

問8 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか。
(回答は、アからクのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ)

	男性の方が 優遇 されている	平 等	女性の方が 優遇 されている	あてはまらない
ア 採用時の条件	1	2	3	4
イ 賃金	1	2	3	4
ウ 昇進や昇格	1	2	3	4
エ 能力評価	1	2	3	4
オ 仕事の内容	1	2	3	4
カ 教育・研修の機会や内容	1	2	3	4
キ 福利厚生	1	2	3	4
ク 育児休業等の休暇の取得しやすさ	1	2	3	4

※ 次の問9は、現在働いていない方におうかがいします。

問9 今後働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか。(回答は、3つ以内)

- 1 賃金の条件が合うか
- 2 勤務時間や雇用形態が合うか
- 3 家族が病気の時など急に仕事を休むことができるか
- 4 自分の資格や能力またはスキルが通用するか
- 5 年齢制限が合うか
- 6 自分の健康状態や体力
- 7 介護や看護の必要な家族がいること
- 8 保育所等や学童保育が利用できるか
- 9 家事との両立ができるか
- 10 家族の理解が得られるか
- 11 職場の人間関係がうまくいくか
- 12 自分のしたい仕事に就けるか
- 13 その他 ()

※ ここからは、全員におうかがいします。

問１０ 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇等の休業や休暇を取得できる制度があります。男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。（回答は、１つだけ）

- １ 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである
- ２ 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う
- ３ 育児・介護は女性がするべきであり、男性が休業・休暇を取る必要はない
- ４ わからない
- ５ その他（ ）

※ 問１０で「２ 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と回答した方におうかがいします。

問１０－１ その理由は何だと思いませんか。（回答は、３つ以内）

- １ 周囲に取った男性がいないから
- ２ 職場に取りやすい雰囲気がないから
- ３ 仕事が忙しいから
- ４ 取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから
- ５ 取ると人事評価や昇給などに悪い影響があるから
- ６ 取ると経済的に困るから
- ７ 男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから
- ８ 育児・介護に不安を感じるから
- ９ その他（ ）

※ ここからは、全員におうかがいします。

問 1 1 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。（回答は、3つ以内）

- 1 労働時間の短縮や長時間労働の是正などの働き方を見直す
- 2 育児休業・介護休業制度の充実や利用しやすい環境をつくる
- 3 育児や介護のために退職した人を再雇用する
- 4 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する
- 5 地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する
- 6 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する
- 7 男女がともに働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある
- 8 わからない
- 9 その他（

）

社会参画について、おうかがいします。

問 1 2 行政や企業の管理職、審議会委員、自治会長など政策・方針を決定する役職に女性が就くことについて、どのように思いますか。（回答は、1つだけ）

- 1 意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい
- 2 女性の特性を生かせる、女性の多い職場や地域活動で、役職に就いた方がよい
- 3 女性も役職に就いた方がよいが、自分の上司は男性がよい
- 4 女性は役職に就かない方がよい
- 5 これからは女性が役職につかなくてはならない
- 6 わからない
- 7 その他（

）

問 1 3 政策・方針を決定する場に占める女性の割合は依然として低くなっています。その理由は何だと思いませんか。（回答は、3つ以内）

- 1 家庭、職場、地域での重要な役割を男性が務める慣習になっている
- 2 男性優位の組織運営になっている
- 3 家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい
- 4 家族や周囲の理解や協力が得られない
- 5 子どもの頃から、女性にはリーダーとなる訓練の機会が少ない
- 6 女性の活動を支援するネットワークが不足している
- 7 女性側の積極性が十分でない
- 8 女性の参画が大切であることを意識している人が少ない
- 9 女性の能力を社会的に過小評価する傾向がある
- 10 身近に模範となるロールモデルがない
- 11 わからない
- 12 その他（ ）

問 1 4 女性が政策・方針を決定する場に進出するために、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は、3つ以内）

- 1 行政の審議会などに女性委員を増やす
- 2 行政・企業の管理職に女性を増やす
- 3 自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす
- 4 家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う
- 5 女性が学習・研修・能力開発をする機会を充実させる
- 6 女性の活動を支援する団体に情報提供するなど活動を支援する
- 7 男性が男女共同参画について学ぶ機会を充実させる
- 8 女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める
- 9 わからない
- 10 その他（ ）

配偶者などに対する暴力について、おうかがいします。

※ 以下の設問にある「配偶者など」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者のほかに、交際相手も含みます。

問 1 5 次のようなことが配偶者や交際相手などの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。（回答は、アからクのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ）

	力に あたると 思う	暴力に あたると 思わ ない	暴力に あたると 思わ ない
ア 平手で打つ、足でける	1	2	3
イ なぐるふりをする、または刃物などを突きつけておどす	1	2	3
ウ いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
エ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
オ 交友関係、電話、メールを細かく監視する	1	2	3
カ 大声でどなる、人格を否定する言葉を使う	1	2	3
キ 必要な生活費を渡さない又は負担しない	1	2	3
ク 仕事を無理やり辞めさせる	1	2	3

※ これまでに配偶者や交際相手などがない方は、11ページの問17にお進みください。

問 1 6 これまでに、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。（回答は、アからオのそれぞれの項目にあてはまるもの1つずつ）

	あ っ た も	あ っ た 1、 2 度	ま い っ た く な い
ア 身体に対する暴行を受けた	1	2	3
イ 危害を加えられるのではと恐怖を感じた	1	2	3
ウ いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3
エ 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた	1	2	3
オ 必要な生活費を渡さないことなど経済的に弱い立場に立たされた	1	2	3

→問 16-1へ →問 17へ

問 16-1 これまでに、その相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（回答は、1つだけ）

- ## 2 相談できなかった

問 16-2 誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（回答は、あてはまるものすべて）

- 1 誰（どこ）に相談したらよいかわからなかったから
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 3 相談しても無駄だと思ったから
- 4 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 5 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
- 6 自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから
- 7 世間体が悪いから
- 8 他人を巻き込みたくないから
- 9 思い出したくないから
- 10 自分に悪いところがあると思ったから
- 11 相談するほどのことではないと思ったから
- 12 その他（ ）

※ ここからは、全員におうかがいします。

問 17 配偶者などの間で行われた暴力の防止への取組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は、2つ以内）

- | |
|---|
| 1 被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実する |
| 2 被害者を保護する体制を充実する |
| 3 暴力をふるう加害者への対策を進める |
| 4 被害者が自立して生活できるように支援する |
| 5 犯罪の取締りを強化する |
| 6 暴力防止のための啓発を進める |
| 7 被害を受け悩んでいる人へ情報を提供する |
| 8 わからない |
| 9 その他（ ） |

性的マイノリティ（性的少数者）について、おうかがいします。

性的マイノリティ（性的少数者）とは、身体の性別と性自認（自分が認識している性）が一致しない方や性的指向が同性や両方の性に向かう人などのことをいいます。最近では「LGBT」もしくは「LGBTQ」などの言葉でも表されています。性的マイノリティの方の中には日常生活や現在の社会制度にさまざまな精神的苦慮を感じ、生きづらいと思っている方も少なくありません。

問 18 今まで自分の性別に悩んだことはありますか。（回答は、1つだけ）

- | |
|------|
| 1 ある |
| 2 ない |

問 19 性的マイノリティやLGBTという言葉をご存知でしたか。（回答は、1つだけ）

- | |
|---|
| 1 知っていた |
| 2 初めて知った |
| 3 その他（ ） |

問20 性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、どのようなことが必要だと思いますか。(回答は、あてはまるものすべて)

- 1 相談・支援体制を充実する
- 2 正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する
- 3 パートナーシップ制度※など法整備を行う
- 4 わからない
- 5 啓発や施策は必要ない
- 6 その他 ()

※パートナーシップ制度：同性同士の婚姻については、日本では法律上認められていないため、異性間の結婚と同様に同性カップルも家族として認める制度

市の男女共同参画の推進に対する施策について、おうかがいします。

問21 入間市では男女共同参画社会の実現をめざし、さまざまな施策を実施しています。今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(回答は、3つ以内)

- 1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
- 2 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革
- 3 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保
- 4 男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援
- 5 配偶者等に対するあらゆる暴力の根絶
- 6 生涯を通じた女性の健康支援
- 7 広告など各種媒体での男女共同参画のPR
- 8 学校教育や生涯学習などで男女共同参画を学ぶ機会の充実
- 9 防災の分野で男女共同参画の視点を入れる
- 10 わからない
- 11 その他 ()

問２ 次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。
 (回答は、アからシのそれぞれの項目にあてはまるもの１つずつ)

	内容を知 ている	聞いたこと はあるが、 内容は知ら ない	知らない
ア 男女共同参画社会	1	2	3
イ 男女雇用機会均等法	1	2	3
ウ 育児・介護休業法	1	2	3
エ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
オ セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
カ ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3
キ 入間市男女共同参画都市宣言	1	2	3
ク 入間市男女共同参画推進条例	1	2	3
ケ 第４次いるま男女共同参画プラン	1	2	3
コ ^{ひと} 女と ^{ひと} 男の情報紙 ^{ビギン} Beginはじめよう！	1	2	3
サ 入間市男女共同参画推進センター	1	2	3
シ いるまイクボス共同宣言	1	2	3

お忙しいところ、調査にご協力いただきありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

6月25日（木）までにご返送ください。

男女共同参画社会に向けての市民意識調査
結果報告書
令和2年10月

発行：入間市市民生活部人権推進課【男女共同参画推進センター】

〒358-0003 埼玉県入間市豊岡四丁目2番2号

T E L 04-2964-2536

F A X 04-2964-2539

E-Mail ir212000@city.iruma.lg.jp

編集：株式会社 エスピー研